

# EPISODE GUIDE



Grips Conflict and Neo Zeon War I, II



0093

# GUNDAM

# PREFACE

U.C.0053 ▶ 僕は地球で生まれた。このころ、人類の大半は地面で生活していた。U.C.0058 ▶ サターン・IIのタイフーン、サイトリの独立を告げ、僕は「FAP」のまた自然の賜る片田舎の野山を駆け回り、

UC 0069 ▶ マフスキー粉子、右春が囃さるる 地球  
には、産卵に対し各地で学生を中心とした 反体制連  
動とスヘースコロニー船の支持運動が起こっていた。最  
後は高校生だった UC 0070 ▶ 赤川軍、新型主眼機

役 私は熱心に授業を受けるわけでもなく、学生運動にも参加せず、毎日映画ばかり見ている。UC 0072▶私は、いじめられても生活に困った。UC 0073▶オ、オ、

国 Aは、田舎で U.C.0077に、オランダが他のサテライト国に武力援助にAは、H.S.T.を使用 モビルスーツ、兵器が初めて大戦で使用する。この映像、見るセルは、Aは、船に昇る脚本家、その船、主人、を連想させた。Aは、最初の U.C.0078に、その国、国家を連想

合発刊 私はサン・ライズといふ、  
た UC 0079 年戦争勃発 サン・ライズは二つの戦争  
を題材にした、機動戦士ガンダム

番組を制作する1年目の新米制作スタッフの私は、別の番組に参加していた **UC 0080** 一年戦争終結 1年戦争を題材としたリアルタイム作品。1年戦争中の戦場とリアルタイムで描かれる。

※作品「カンパニー」を数回、制作し、その後は  
ソニー・ミュージック・エンタテインメントの地位を築き、  
現在は、ソニー・ミュージック・エンタテインメントの

機動戦艦 カンタール 機動戦艦カンタール、近衛  
>ワケヲ 及び後集 MS-118に於て、  
カタル 作品はアノト ナスを、

[illegible]

株式会社セ・ライ・ス 取締役 山田 健

# CONTENTS

巻頭言	→	preface	・	2
宇宙世紀年表	→	History of Universal Century	・	4
“超人”への夢——“強化人間”	→	A Dream for Superman	・	6
シャアと三人の魔女	→	Char and three Witches	・	10
名付けることをめぐる9年の夢恋　アムロとシャア	→	For Nine years I've dreamed about their names	・	14
ガンダム・キャラクターの姿遣	→	GUNDAM Character Biography	・	20
キャラクター&メカニック全ガイド	→	The Complete Guide of Characters & Mechanisms in GUNDAM	・	28
ガンダム・エピソードチェック	→	The Highlight of GUNDAM		
		機動戦士Zガンダム	・	44
		機動戦士ガンダムZZ	・	64
		機動戦士ガンダム 逆襲のシャア	・	76
ガンダム設定資料集	→	The Design Works of GUNDAM	・	81
モビルスーツ・パイロットリスト	→	Mobile Suit Pilot List	・	142
モビルスーツ・スペックリスト	→	Mobile Suit Spec List	・	144
ビデオ、LD、CD、小説ガイド	→	Visual & Sound Guide	・	146
Z時代の選択	→	The Choice in Z Era	・	150
ガンダムシリーズ・スタッフ&キャスト	→	Filmography	・	152
索引	→	Index	・	157



10.0

0061-03-08

公使軍機使、小惑星探査アクシズに到着。

08-06

ドスル・ザビ夫人(ゼナ)、アクシズで病死。

10-13

銀河軍団総指揮が連邦議会で可決。

0062-04

連邦軍、銀河軍にニュータイプ研究機関設立。

05

第1次コロニー再生計画開始、サ・イ4(旧サ1)からサ・イ3へ移住可能なコロニーの移転開始。

0063-08-06

アクシズの指導者、マハザン・カン死亡。

08-11

ハマーン・カン(当惑18歳)、ミネルバの洞窟に潜伏。

09

アクシズ、新合金「ガンダリウム・ガンマ」の開発に成功。

10-04

ジャスト・ハイマン提督による地球連合治安維持軍第ティターンズ部隊、旧公国軍残存勢力掃討。

0064-09-21

シャア・アズナブル、地球圏に到着。非合法で連邦軍の機密を得る。

0065-07-01

30/100ガンダム、ティターンズがサイバスターパンチに暴ガスを注入し仕掛けて戦う。

08-06

グリプス、サイバスターに撃たれる。

0066-02-06

アクシズ、地球圏に再び到着。

0067-03-02

エコーゴ、グリーンノア1より製作MS5機を盗奪。

04-29

連邦政府、木星エンルギー輸送船ジビロリスの地球圏通過をもって機密保持計画の発覚を発表。

05-11

エコーゴ、地球連邦軍のジャブロー基地を襲撃。

06-08

ティターンズ、ルナツー一帯にグリプス2、旧ア・バリオアークを移築、「ゼダンの門」完成。

06-29

ティターンズ、ネオンコロニーを襲撃。

08-10

ティターンズ「ア・バリオ作戦」開始。フォン・デアラング市を襲撃。

08-17

エコーゴの指導者、フレックスマスター軍団総帥。

08-24

ティターンズ、ジャブローコロニーを襲撃し占領。

08-21

ティターンズ、サイバスター5/6/7/8/9に暴ガス攻撃。失敗。

10-12

アクシズ、地球圏に到着。

11-02

エコーゴ、カブラ兵団軍、ナリマンジャロの国境通過地を襲撃。

11-16

エコーゴ、ダカールの連邦軍を占領。全世界にティターンズの要体を見現。

12-07

ティターンズ、グリプス2のコロニーレーザーでサイバスター18/パンチを破壊。

12-14

ティターンズ、サイバスター11/12/13を暴ガス攻撃。住民は全員死亡。

0068-01-18

アクシズ、ジャブローの町を襲撃。グリプス2を占領。

02-20

エコーゴ「メールシャトルーム作戦」開始。銀河軍によりグリプス2を占領。

02-22

エコーゴ、アクシズ、ティターンズによる襲撃開始。ティターンズ敗北。コロニーレーザー破壊。エコーゴ、軍力の大半を喪失。シャア・アズナブル行方不明。

02-25

アクシズ、ジオンの再興を宣言。ネオ・ジオンを呼称する。ネオ・ジオン、高サイバスター兵器を開発。

06-05

ネオ・ジオン、先遣隊を地球に降下させる。

08-01

ネオ・ジオンの本拠、地球解放。

08-26

ネオ・ジオン、ダカールを占領。銀河連盟、ティターンズ機動隊を配下に治める。

10-01

ネオ・ジオン、ダカールコロニーを落とす。

11-14

連邦政府、サイバスター3をネオ・ジオンに返還。ネオ・ジオンの戦力、地球より増加。

12-25

ネオ・ジオン内でゲル・シー軍が叛乱。

0069-01-18

アクシズ、コロニーに到着。

01-17

エコーゴ、ネオ・ジオンを襲撃。ハマーン・カン死亡。ミネルバは行方不明。

03-16

第1次ネオ・ジオン戦争(ハマーン戦争)終結。

03-16

木星エンルギー輸送船、ジビロリスに到着。

05-01

銀河軍、大規模アステロイドの管理体系を再編成。

06-25

銀河軍、スペースノビ定時のコロニーに対し経済制裁等の引き締め強化。

0070-02

銀河軍総帥として、スウィートウォーターを襲撃。

03

連邦軍、外務省本部にロケット弾を撃ちこく。

0071-08-01

連邦軍、本部をスペースノビのラッシュで襲撃。

12-13

ネオ・ジオン、地球連邦軍に挑む意思を示す。

12-22

シャアを総帥とする叛軍、スウィートウォーターの占領を宣言。

12-25

連邦軍、ロケット弾を撃ちこく。

0073-02-27

ネオ・ジオン総帥のシャア、インパビュー一帯近所で事実上の宣戦布告。

03-03

ネオ・ジオン総帥、スウィートウォーターを襲撃。

03-04

6ビルド、連邦軍本部所在地コロニーに挑発。

03-06

ネオ・ジオン、銀河連盟と連邦軍、サイバスターコロニーに挑発。島嶼部に和平交渉。

03-12

ネオ・ジオン総帥、攻撃を再開しアクシズを奪回。地球へ降下させるも失敗。

12-25

第2次ネオ・ジオン戦争(アクシズ戦争、シャアの反乱)開始。

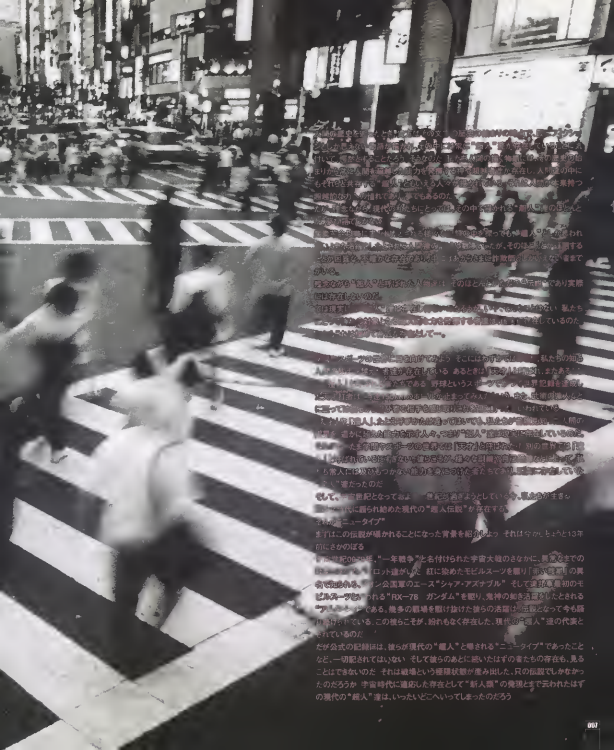


# “超人”への夢 “強化人間”

A Dream for Superman "The Reinforced" — the girl who's called "No. 1"

文・井上 三郎 ちれー平倉 裕貴

あるときは手にしたその要なる剣で悪魔を追いはらい、  
またあるときはその無敵の力で民衆を苦しめ専横政者を倒す。  
古来、様々な物語の中で“超人”達は描かれ、活躍し続けてきた。  
そしてそれは宇宙世紀となった現代でも、  
そのテイストを変えただけで、  
様々なフィクションとして存在する。  
そう、人間とは己に無い力に憧れ、夢を抱く存在なのだ。  
はたして私たち人類は、  
いつの時代から“超人”に憧れてきたのだろうか？

[illegible]

人々が「他人」だと意識するようになった。思えば「他人」という概念は、昔からある。昔から他人が他人々、自分「他人」を認識して無視しているのだ。ところが西洋のキリスト教の思想が「下方」の人間に「神」の恩恵を降り注ぐという意識を植えつけた。キリスト教の「神」の恩恵が降り注ぐと、人間は人間に思いつかぬ、能力を思いつかぬ、また「神」の恩恵を受けたい。人間には思いつかぬ、能力を思いつかぬ、また「神」の恩恵を受けたい。人間には思いつかぬ、能力を思いつかぬ、また「神」の恩恵を受けたい。

昭和36年、一年戦争と名付けられた宇宙大戦のさなかに、地上にまでロケット船が、紅に染めたモデルスーツを纏い「宇宙大戦争」の戦術で迎えられる。ソ連空軍のエース「シヤ・アズバール」そして日本人最初のモデルパイロットである「RX-78 ガンダム」を纏い、兎角の知恵と力とにみまわれる。アズバールは、数多の戦場を駆け抜けた彼らの活躍が、正真正正と今も語り継がれていく。この彼らこそが、紛れもなく存在した、現代の日本人達の代案となっていたのだ。

input



「……」の存在で「かいた彼らとは異なり、命を」に、私」は公式記録の中に残された事実としての「超人」達の存在の証しを、発見することかてきる

「強化人間」と呼ばれた者達の記録である

幻夢ともいえる「ニュータイプ」を、現実の存在とするために産み出された者たち。その主たる目的が無敵の兵士を目指しんという意味では、戦争という極限状態が産み出した「奇蹟」ともいえる存在である

ここではその実態に命を、てみよう

……に……の報告書がある

一人の研究者の手による「書き記された」報告書とはある研究施設で産み出された「強化人間」の生い立ちの記録である。ただし「の報告書からは研究施設の名称や場所も、また「強化」対象者が誰であるのかすらも、極めてよく塗り隠されてい「知ることかてきない」利することとは「の研究施設での被験者の身体ナンバーク」4」であること。そして女性兵士である、ということかてである。この被女に与えられた番号から「彼女の他にも」て研究に参加し「強化人間」とな「え者が存在することは容易に想像されるが、の報告書には「彼女以外の被験者の」とに関しては、なんら記述は残されていない。従「て「強化人間」に関するプロトタイプ」の全貌がわかるものである。たのことも、また当時の程度の規模で進められていたものなのかも、の報告書からは知る、ことかてきない。かきねていながら「にある報告書はあくまでも、成功例とされる被験者「4」の被女に対して、どのような能力が与えられたのか記録されているに過ぎないのだ。

取り敢えず「ては「の報告書に命を」形で、被験者とされる被女に、どのような「能力」が与えられたのかを見てい、ことしよう

……最初に被女に施され「強化」は真摯な「ある種の精神作用の「低下」とい「う固定であると報告書は伝えている

それは一般には「感情」と呼ばれているものた。これは、戦場において感情という精神作用が、特に「は判断を鈍らせ「大きな過ちを犯す原因となると言う考えからたという「の感情を抑える調整の過程で「特に重要視され「最大限の抑制を行「たのが「感情」い「う精神作用であると報告は記されている。そしてそこには同時に「強化された精神作用に関しても報告されている。それは一般的には「怒り」とか「敵対心」と呼ばれている精神作用である

確かにこれらは「旧世紀の軍閥においてはその兵士教育の過程で、徹底し「た」キラムにより半ば強制的に「叩き込まれたものであ「ことは間違いない。ただし後の歴史ではその教育の弊害も報告されており、退役後の兵士たちの中には生涯そのトラウマに悩まされる者かいたという報告も後を絶たないのが現実なのだ

「強化人間」を産み出す初期の調整が、現在では非人道的とされているこのような操作であることに、憤りを覚えるのは戦場を経験していない私たちだけのたろうか。そして報告書は続く。それは「はい、被女が「強化」されていく過程である。次「段階で被女には「常人の数倍の「神経反応速度」と「知覚能力」が与えられたと記録は伝えている。つまり被女は「肉体的能力こそ常人のそのまの状態で、「神経反応速度」を「オリンピックの金メダリストのそれをも遥かに凌駕する状態まで高められてしま「うというのだ

そして更に「異常なまでに高められた「知覚能力」。これにより被女は、私たち常人には想像さえ不可能なレベルでのある種の直感、すなわち武術を極めた者が持つとされる「勘」と呼ばれるものを産み出したと記録されているのである。「これが事実であればある意味ではとてもすごいことであらう





「1st シリーズから 逆襲のシャア」まで、男社会に翻弄されない女性キャラクター  
といえば、キシリア・ザビ、レコア・ロント、そしてハマーン・カーンの三人だ

男社会の補助的役割が圧倒的、見守ってくれる母的な役割が至上の理想とされ、  
かつ愛する者のために殉ずる女性の死亡率の高さが注目されたくガンダムシリーズ  
のなかで、この三人は男を裏切り男を翻弄する女の系譜を彫作っている。

斎藤美奈子流に言えば「悪の女王」、朝倉喬司流に言えば「毒婦」であるこれ  
らのキャラクターは、男性的世界観の物語上、激しく暴れ回るが結局は退治される運  
命にある。こういう悪い女たちは成敗されるのは当然……というのがストーリー上の  
必然として考えられているからだ。ただし、世界にとっての単なる「悪」、物語をすすめ  
るうえでの単なる「狂言回し」になっていないところが、未来世界の奥の深さを垣間  
見せるガンダムならではののおもしろみであろう。「悪」には悪の論理がある。そしてこ  
の三人の場合、その「悪」の論理が彼女たちの宇宙観、彼女たちの世界観にまで拡  
張された女性性の論理と交錯するあたりに考察され、その魅力が逆に物語全体の  
性的規範を浸蝕しかねないところまでまっせまっているため、ではいったい彼女たちの論  
理とは何だったんだろうとかえて興味を誘発してやまないのだ。

兄ザビンを撃ち殺すキシリア。エウゴを売り渡すレコア。ティターンズ、地球連邦、

エウゴなど強大な相手を次々手玉にとるハマーン。彼女たちに通じているのは、  
男社会の権力体系にも男自身にもうんざりしているように見えること、そんなところ  
から、各人、一蓮のシリーズにおいて、「男のなかの男」として反権力的競争に身をお  
き、反権力の象徴である「ニュータイプ」の力を持ち、「負け続けてもかっこいい」  
シャア・アズナブル（別名クワトロ・バジーナ、本名キャスバル・レム・ダイク）と愛と  
葛藤のドラマを展開する。いっぴんしたところ、この三人の女性性はシャア・アズナブル  
と最も相性の悪い三人組なのた

なぜ、シャアはキシリアを撃ち殺す必要があったのか？

キシリア・ザビは、有能な女性政治家で、優れた軍略家である。彼女は父ザビンを  
中心とする典型的家父長制家系のなかで育ち、母親としての役割もかねている。  
方社会においては、地球優待作戦のトップであり、諜報組織を率いているから、家の  
表も裏も、国の表裏も殆ど知り尽くした人物であろう。華やかな表裏から汚れた仕  
事までを掌握する。そんな権力中枢にいなから、反権力的思考を垣間見せるのは  
「ニュータイプ」を擁護し、ザビ家にとっては都合の悪い人物キャスバルを、正体を知  
った上で愛用する点である。

# シャアと 三人の魔女

Char and three witches

文=小谷真理 写真=亀井 一郎

彼女が家父差別社会の被害にきていて具体的な行動を起こすのは、長男キレンが父親を殺害し、エディプス・コンプレックス的な権力反叛劇を目撃したからである。トコが男が変わっても、あいがわらず継続していく男中心・家父長中心の権力機構の構造にはとぼと悔気がたつたのか、キシリヤは兄キレンを射殺する。

二人な彼女はシャアとの関係において、そもそも母親的でコウイ存在だった。男の子の真も表も知り抜いた「母」だから「わたしは凶悪娘のキャスバル坊やと遊んだことがあった」とのたまたまキシリヤにとって、シャアの正体はお見通し。おそらくシャアの父親シオン・ダイクンの意思をも熟知し、それを葬ったザビ家の政治的立場もよくわかっていて、それに対するシャアの心も立場も知り尽くしていたのであろう。キシリヤもシャアもシオン会国＝サビ家への反権力的スタンスを共有する立場にあるのだが、両者が対等に手を結ぶことはない。両者にあるのは一見権力掌握への意思で動くかのように思えるのだが、1stのキシリヤ教養は、もし仮に単に権力掌握のみにめきすのであれば、シャアにとってそれほど利益となるようなものではない。キシリヤは考え、描画したふしがある。ここでのシャアの行動は、冷静な軍人、彼女は冷冽な政治家の執念とはいえない。むしろ非常に感情的で女性権力的な「母殺し」の風情が強い。

なぜレコア・ロンドは、クワトロのもとを離れたのか？

1stシリーズが徹底的なリアリズムであり、そのリアリズムこそ男性中心的世界観と深く連関するものだとすると、それは「ニュータイプ」という幻想的な力を追求することに因わっているため、幻想的・イカタル的<sup>1</sup>な女性的世界観をもつ。男性でありながら女性をもつ主人公カミーユのキャラクターは、師匠で愛人だった男性形剣客ランダのコンビだと誤解中集され、そのオファ・ジョンに生涯悩まされ続け、結果的に狂気の世界へ追い込まれた女性若手軍力カミーユ・クローデルを彷彿とさせるもので、自分も似たようなニュータイプ・アムロの二番煎じに過ぎないのかも知れないという恐怖を抱えている。だからこそその性格設定は結果的にラストにおいて彼を狂気の世界へと追いやってしまふ。このようなトランスジェンダー的（両性的）な

つまり性差の境界優越的主人公を容認する世界観は、通常の善対悪といった大きな二項対立的な世界と違うより、その対立図式の崩壊があらかたになっている。このため、かつてははっきり対峙していたアムロとシャアが肩を並べて戦うのは序の口、エマ・シーンを始めレコア・ロンドやサラが登場人物は異様なまでに互いの陣営をいったりきたりする。マッテオの象徴として登場したりりしいジェリドは「女みたいなのヤツ」と小バカにしていたカミーユに負け続け、自らのマチズモを回復できるまではにっちもさっちもいかないといった強迫観念に取り憑かれ、物語の後半半なる「狂言まわし」にならなくては観劇を遂げる。2は性差的な二分割がゆらいでいる世界なのであり、変動的なセクシュアリティが次々噴出する。

レコア・ロンドは、幼い頃戦争の悲惨な状況で苦勞し、その記憶によって、常に危険な戦場に身を置いていなければ安定しないという性格を持つ。緊張感がなければ生きていけないという精神性は、緊縛を求めるマゾヒズムそのものの構造である。彼女は社会生活においては、スパイとして敵地に侵入したり襲撃行動にでたり、たいへん積極的な行動力を示すのだが、その動機はむしろM的なメンタリティからきているといえてよい。

1stで美しく散ったマチルダをどこか彷彿とさせる新型のレコアだが、エウゴにおいてはエース・パイロットとも言えるクワトロ・バジナと恋人同士であることがほのめかされていた。ところが、船底に侵入したときバブテマス・シロッコと出合い、電撃的に恋におちる。レコア・クワイ性の真実である。バブテマスは強力な「ニュータイプ」だ。そもそもニュータイプとは女、子供、美形的男性、サイボーグ（強化人間）といったキャラクターたちによって占められ、小市民的メンタリティや俗物性やおやし系成人男性性が権力排除されている。バブテマスの風貌は優男で、誰に対しても相手がこうしてほしいと望む態度を常に専知し強支配者的な支配配りを示しつつも、その実権力関係を批判させてしまふS型人間である。表面はM的だが内実は強力な支配者たるバブテマス・シロッコはSM関係における支配・弄支配の権力関係を熟知している。一般に生まれた時から既存の権力関係に安住している人間には権力関係自体も、その批判も下剋上も「見えない」ものだが、彼支配的境遇という過酷な体験



を持つ者なら、社会がこの見えない関係によってがんじからめになっていることを察知するようになる。バブテマスは本聲からきた男と説明されており、たからこそ、レコアは謙しく寄きつけられるのだ（もし仮にシロコが表層上こうした支配配りのない俗物的なモノチョぶりを示したら、レコアはシロコをそのへんの普通の男と間しと見做して鼻もひっかけなかったにちがいない）レコアの行動基準は、既存の異性愛的な権力関係を脱脱し、むしろ表層／内面の矛盾を抱える権力関係に過敏な性格にそったものとして、非常に粘り通っている

レコアは最後に追ってくるエマ・シーンに対し「女だから」と釈明する。このレコアとエマの最終的対決は全シリーズを通しても見こたえのある場面となっている。ティターンズとエウーゴを異切ったあたりの女性の間でどのような会話がかわされていたのだろうか

もし、ここでレコアを追ってきたのがクワトロだったら「女」を強調したセリフは、単なる恋愛のもつれ、男社会での我儘としての受けとられかねない。しかし、女同士の撃ち合いに際し、「男のため」とは言わず、「女」つまり「女のためのあなたになら、わかるでしよう」と言葉を投げかけるのは、男性中心主義、とりわけ異性愛中心主義を規範とする権力体制から女性（を始めとする愛憎者）が脱脱することの模索的意味を示唆しているように思われる。

レコア／バブテマスの関係は一見ゴゴロに夢中になるドミナ、ドミナを搾取るジゴロという図式そのものではあるが、その内実を見ていくと通常の性的規範内ではおさまらなくなったドミナの脱脱性が十分理解できるものである。ここでは異性愛的な権力関係よりは、性別とは別次元のSM的な権力関係が突出している。

そして、それはクワトロ・バジーナという人物像への理解の一助となるのではないだろうか。キシリアを撃ったシャアと、レコアに去られるクワトロは、反権力的スタンスを女性たちと共有しつつも、決して同士の関係にはならない「男」なのだ。構造的にはとても近いはずなのに、男女関係においては「同士」ならぬ「異性愛的」な男女の支配／非支配関係を復讐してしまう。このシャアのメンタリティにある矛盾は、反権力的闘争が常に内包してきた「女排除」、「女性嫌悪」の問題と深く関わっていて、反権力的批判力の象徴のように現れる「ニュータイプ」を主題とする物語世界全般に、興味深い陰影を作り出しているのだから。

なぜ、シャアはハマーン・カーンに対してあんなに感情的になったのか。  
キシリアの政治的立場を受け継ぎ、レコア・ロンドのドミナ性を継承するハマーン

ン・カーンは、Z 後半から ZZ まで、シリーズでは最高「最悪」の悪役となる

Z が「ニュータイプ」探求に走り出して、したいにリアリズムの世界からオカルティックな世界へと逸脱していったのに対し、ZZ は滑稽が乗じて狂気の扉を開いているのかもしれない展開である。既存の男中心社会構造を徹底的に美しめる（プライトとマシュウの抱擁はそれまでのくかんダムン世界では考えられない内容であった。強もはハマーン・カーンから中心を占める世界観では、それと男性性や父性を徹底的に再構築されてしまう）と同時に狂気スレスレまでにとりあえず女性性か登場する。笑いの男と狂気の女という性差構造を持つ ZZ の世界は、1st の世界観とはまったく異なる。おどろきと似た側面を強調しているのだ。

ZZ の主人公は、この世界観から逸脱をとげる「ニュータイプ」である。前二作とは逆に此へ物にならないほど男の子らしい男の子ジョドーである。もちろん彼すらもリアスな少年戦士というよりはユーモラスに洒落のめされる。さらにもっとも非現実的な色彩を帯びるのがモビルスーツである。ヒト形口ホト、空の器、人形といったイメージの、無機質なただの「モノ」が実はサイキクな力と呼び寄せる依代となり、ひょっとすると、戦いのために生みだされた兵器自体が新しい生物だったのかもしれない。だからこそ、あらかじめ「ヒトの形」という非合理的な形態だったのではないか、という解釈すらひきあこさせる展開なのだ。ZZ は、「人一口ホト」の主宰権をすら幻視させる異様な世界観である。

Z で登場したハマーン・カーンは僻地アステロイド・ヘルトからやってきた、その出生も生い立ちも謎に包まれ、唯一少女時代に「シャア」らしき人物とふたりで描いた写真のみが「過去」として提示されている。「ZZ」の中で描かれているハマーンは、「狂気の世界」の女王に相応しく、フェミニスト・ファシストのように君臨し、機械のように各人の才能と政治的立場を細かく読み込み、変身が早く、くせす、怪しいサイキク兵器であるキューベレイを自在に操縦し、サイホーク戦艦を推進し、サイバール艦隊にたけつて。彼女が活躍すればするほど、幻視力は増大し、サイキクな場面が増大し、モビルスーツは人間化される。

スーパーレディハマーン・カーンだが、ドスル・ザビの忘れ形見ミネルバを擁護し、それを保護とする彼女、登場したと同時にクワトロに激しい生理的嫌悪感と悪意を向けさせる。クワトロはハマーンの事になるといいたい理由もなく悪意をむき出しに吐いて、ハマーンのほうは同じ「ニュータイプ」としてクワトロやジョドーと手を組もうというとはアブローチをかける。クワトロのハマーンに対する悪意は、近頃「シャア」のなかでシャアことクワトロがハマーンとまったく同じ軍事行動をとる

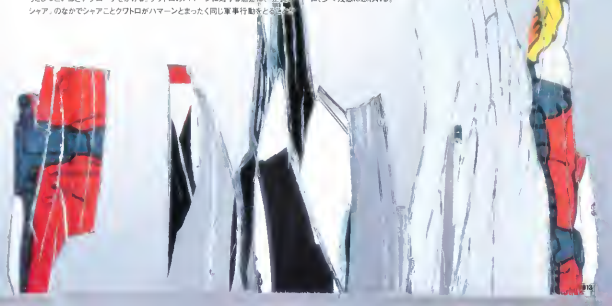
らも明らかのように、似た青年士であることに起因しているようだ。「逆襲のシャア」におけるシャアの行動は、ほぼハマーンの「パロディ」と化しており、ともに大衆へカリスマ的な演説をしつつも、その道化役自己厭悪をおぼえ、地球汚染を食い止める平和をめざし新しい世界を構築しようとするあまりに、かえって地球汚染に拍車をかけ戦争を起こしてしまうというスラップスティックを反演する。

ふたりにともに強い「ニュータイプ」であり、コインの裏と表を成す。だが、ふたりは似ているが、並び立つことはない。

1st、シリーズから「逆襲のシャア」までくかんダムンシリーズは、人の革新である「ニュータイプ」という非現実的の奇妙な存在を想定しつつも、その「新しい存在」に、次々「異性愛ロマンス」や「母性愛」といった既存の（吉びた）権力構造を内面化した物語がかぶせられることによって、論理矛盾がひきおこされ、それがすさまじい物語のダイナミズム（衝動）になっていたものだった。

たとえば、シャアはアララとの間で「ニュータイプ」の絆を宇宙時代の新しい意味合いとして捉えるよりは、古い異性愛ロマンスの関係を読み込んでしまい、そのためにアララは命を落としたのだった。

一方、バブテマス・シロッコやカミーユ・ビダンではなく、シャア・アズナブルやジョドーに固執するハマーンは「男社会の権理を手玉にとれるから、とりあえず、それらを掌握する」というものだったのか。それとも、シャアのように異性愛ロマンスという古びた物語を重ねてきたのたろうか。どちらにせよ、狡猾だったハマーン・カーンが、最終的に「強い子に会いなかつた」という彼女にとってはけしてあつてはならないセリフを残してないききつから考える限り彼女にとつてあつた「オールドタイプ」と男とみなすことすらなかったのではない。従ってハマーンは、いくら男社会であらうが、単なるオールドタイプにすぎない人類の権力構造になど決してふりまわれない。そんな彼女だからこそ自分と同等と認める「ニュータイプ」たちには「男女」のロマンスを読み込んでしまわざるを得なかった。一もそうシャア・アズナブル同様一点に気付けざるを得ない。双子のように似ている。同じように反権力的的批判力の象徴とも見える「ニュータイプ」でありながら、あくまで「男女」の権力関係から逃れし得ないシャアとハマーン。「女性嫌悪」ゆえにハマーンに対して感情的になるシャアと、同類だからこそ男女の権力関係をついに重ね合わせてシャアやジョドーにつきまとうハマーン……その関係は、クワアの女王の食糧充分のハマーン・カーンのために、少々残念に思われる。



アムロ・レイとシャア・アズナブル

2人の関係はU.C.0079年に始まり、0093年に終わった  
これは作品が発売された年に置き換えると79年から'88年  
までの9年間になる。



機動戦士ガンダム の放送が始まった'79年、1冊の本  
が出版されている。村上春樹のデビュー作 風の歌を聴けだ。この第1巻は「僕」  
と「僕」と呼ばれる友人の物語だった。そして、「僕」が去り「年男」が登場するとい  
う変化を経て、やはり9年後の'88年に発表された長編「ダンス・ダンス・ダンス」で一  
群の長編は一つの節目を迎えた。

もちろん村上春樹と ガンダム の間にはなんの関係も、ない。物語の始まりと終  
わりの時期がたまたま重なっただけだ。

たか、評論家の畑中佳樹氏が、その9年間に村上春樹に起こった変化について書い  
た。村上春樹の名前をめぐる冒険 という文章を読むと、その考えは少し変わってくる。

畑中氏は ガンダム と村上春樹の関係について語っているわけではない(なに  
しろ彼はアニメを見ない映画評論家であることを公表している) 文章は村上作品  
に登場する普通名詞と固有名詞、そして名付けるということについて書かれている。  
普通名詞で描かれた既に失われてしまった(ような)世界と、固有名詞で構成された  
この現実 男かたの男、少年がたの少年のまのまの世界と、それぞれの名前で呼  
ばれる世界。そして世界には同じように名前を持った他人が大量にいる。村上春樹の  
世界は、そんな普通名詞の世界から固有名詞の世界へのリハビリである、そこで  
畑中氏は書いている。

たか、僕はそれを読みながら、それが時に「ガンダム」や、アムロ、シャアについて語  
っているような錯覚をしばしば起こした。

畑中氏は別の本で「みんな正しくあらうとすくしている」と映画評について語って  
いた。彼は、正しい映画評より、常識を逸した思いこみに、ものすごいエネルギーで  
こたわってしまう文章こそ読みたいし、書きたいと力説する。ならば僕は、ガンダムと  
は無関係な畑中氏の文章からインスピレーションされた錯覚だけを手かかりに、アムロ・レ

# アムロと シャア

名付けることをめぐる9年の夢想

For nine years I've dreamed about their names  
AMURO and CHAR

文・藤津亮太



書 五百円 毛筆子

イとシヤア・アスナフルの関係について語るのも許されることだろう。

#### シヤア・アスナフル

彼は、もっとも知られたこの名前を含め4つの名前を持っている。本名のキャスバル・レム・ダイクン、地球で密かに育てられたときに名乗ったエドワウ・マス、そしてエウゴのパイロットとしてのクワトロ・バジーナ 作中では、これほど多くの名前を使い分けたキャラクターはそうないだろう

偽名を名乗るには理由がある

彼はンオン・ス・ダイクンの息子であることを隠し、サビ軍を打倒するためにシヤアを名乗った クワトロは、地球圏に偵察に来るために、戦死した連邦軍の士官の名前を借りたものである ガンダム Zガンダム の設定上はそうになっている。たか、彼のいくつかの言葉の端々には、そんな設定だけでは捉えきれないニュアンスが紛れ込んでいると思うのは償たけようか

いわく「私が仮面をかぶっている理由がわかるか、私は過去を捨てたのだよ」「私はいつも一人の男だった」「父の名を継ぐのは辛いな」…

彼の心の奥底には「本名を捨てて名もなき男になりたい」という密やかな欲望が横たわっている それかふとたときに口をついて出る 彼にはそう見える

シオンの息子キャスバルではなく、たの男として生きる、固有名を捨てて、普遍名詞として生きる それこそが、彼が偽名を名乗る最大の理由ではないだろうか 社会的に意味のある名前ではなく、単なる記号としての名前(クワトロとは数字の4あまりに記号的な) 世の中の数多くの名詞の中に交じり、埋もれてしまう名前。そしてその名前の通りに生きている自分 無中氏が書く「誰にも特定できない普遍名詞のかけらになって、世界の終わりの空漠とした風景の中を人知れず漂ってみたい」という願いを彼は無意識のうちに持っていたのではないだろうか

たの男として生きたいと願っている、と僕は書いたが、彼は父親の思想を継いでネオ・シオンの総帥となったの



ではないか、という反論もあるだろう。ではこういう風に言い換えたらどうだろう 彼は、シオンの息子という人生と、自分のたの男としての人生を切り離したかったのだ、と

例えば、彼はキャスバルという名前を自分の口から話さない タカールでのクワトロが正体を明かすときの演説、そしてネオ・ジオン総帥としての演説、どちらも自らの正統性を強調するべく演説したが、キャスバルの名前は出てこない

キャスバルという名前が象徴するシオンの息子たる自分 それは、彼のいうところの「進化」、逆襲のシヤア で彼が演説の時に着てみせる赤い式典用軍服と同じだ 宮廷に出入りする進化は、唯一王と対等に会話することを許されている 彼が演じるキャスバルという進化もまた、進化であるが故に、人類の幸福などという「人類絶滅して以来の悪行」を夢想できる ネオ・シオン総帥とは、名前こそシヤアだが、彼かあえて「進化」のキャスバルを演じているのかその姿の裏面 彼はキャスバルを演じることで、自分の中の「たの男」の領域を守ろうとした それは、滑稽であると同時に、悲劇であったと、僕には思える。

では、彼が願った「たの男」の人生とはどういうものだったのだろうか、その一つは、モビルスーツのパイロットだ 断絶的に優秀ではあるが、一介のパイロットとして戦っている期間、彼は後自身の人生を夢想しただろう。「赤い彗星」という呼び名は、彼にとって一時、自分の名前から隠れることのできる、隠れ蓐だったのだ。

そしてもう一つは、最初の偽名エドワウ・マスを名乗っていた少年時代ではないか シオンの子という意味をまだ知らなかった頃、自分が名前の持つ意味から自由で、たのひとりの子供でいられた頃 二度と帰ってこない自由な時間。

彼がクワトロを名乗っている頃、月面都市アンマの彼の部屋には写真があった 写真には、金髪の少年と少女がはにかむような上品な笑いを浮かべて写っている もう一度、畑中氏の文章を引こう。「フィルムには固有名詞は写らない レンズに映るあらゆる



るものを、いわば普通名詞的に脱色して、あとはここにも知れない名前のない景色だけが残る。それが、フィルムというものである」

あらゆる名前が脱色され、「ただの少年」として笑っている自分。クワトロは自覚しないまま、その少年の笑顔に「本名を捨てて名もなき男になりたい」という自分の欲望を投影していたのかもしれない



では、こうした彼の本名からの逃走は成功したのたろうか。結果からいえば、それは失敗だったと僕は思う。シャア、クワトロと、誰でもない新たな名前を得たところで、それはやがて自分自身の名前にはかからなくなってしまう。本名のキャスハルを演じたとしてもそれは同じだ。彼はそんな度胸な状況を生きざるをえなかった。ひょっとすると、彼はたの男としての人生はもはや過こせないと知っているからこそ、少年時代の写真を飾っていたようにも思える

「名前のないものの方へ引き戻されて、それが結局は名付けることになってしまうバトックスを乗り越えて、名前にまみれてしまえ、名前を受け入れてしまえ——ということのように思う」

名前を受け入れてしまえ。

彼はこの陳中氏の言葉通り、進化としてシオンの皇子を演じることで、キャスバルという名前が自分にもたらしたバトックスを乗り越えようとした。しかし、彼は結局、アムロに、自分とはたの男でいたかったという本音を、漏らすことになってしまうのである

名前がコインの表とするなら、自分を指す一人称はその裏側にあたる。僕、私、俺、自分……周知の通り日本語にはさまざまな一人称がある。「僕」なんて虫歯かしら一人称は使わない」と断言するジャーナリストがいる一方で、村上春樹のように誇りに常に「僕」を選ぶ作家もいる。そ



して、シャアと呼ばれた男がアイデンティティを保護する名前——固有有名詞に翻弄された一方、アムロは自分をいかに呼ぶかという一人称の問題に向かい合っていた

アムロ・レイが自分のことを「僕」と呼んだとき、それまでの僕しいかはりだった口ホトアニメの主人公像が少し変わった。そして、アムロがホワイトベースのクルーを「さん」づけで呼んだときも、やはり口ホトアニメの世界は少しはかり変わった。当時、11歳の僕にはどのように見えた



20年目のサンホト3の著者、氷川竜介氏の表現を借りなら、'63年から始まったテレビアニメの歴史は'79年には「悪春期」へと突入していた。舞臺超人サンホト3が、乳離れを描くため主人公に女性の声を必要としたように、悪春期のドラマを描くためには「カンダム」の企画書では、演出テーマの欄に「少年から青春を見上げる」とある、それまでの多くの主人公像が多用途した自信あふれる「俺」ではなく、ナイーブな「僕」という一人称が必要になったのだ。

悪春期とは大人になり社会へ巣立つ準備期間。それを描くには主人公が生きる場所は社会、もしくは社会の雛形のような場所でなければならない。以心伝心で分かり合える「仲間」ではなく、さまざまな言葉（つまり固有有名詞）やりとりしなければ意思疎通できない「他人」のいる環境。それがアムロの紛れ込んだホワイトベースとして描かれた。アムロをはじめとするホワイトベースのクルーが、互いを「さん」づけで呼ぶのは、互いが分かり合えない他人であるからた。

固有有名詞で益々かえる社会を前に立ちすくむ「僕」、それは、シャアの中にあった「名もなき男」像ととても似ている存在だと、僕には思える。ただ、シャアが次々と名前を取り替えることで、逆に本名にからめ取られるというバトックスを生きたのに対し、アムロはただひたすら「僕」のまま、戦争の荒波に身をゆだねる。

「そのようにして、僕」の冒険は始まる。ところかその冒険はいつか必然的に、図書館や電話帳といった固有有名詞のジャングルに分け入る調査旅行となる。（中略）その過程で普通名詞は毎日一つずつ死んでいく。そして新しい固有有名詞が毎日一つずつ

僕  
myself

僕  
ful



生まれで」

アムロが初めて船のMSを倒したとき、それは塵に降りかかる火の粉を払ったにすぎなかった。だが、やがてアムロはつふふやくことになった。「何で名前の人なのだろう……僕も、僕と言ったんだ……」  
名前を知らぬたの女の名を聞き、それを各図のようにして、アムロの周にはそれまで見えていなかった固有名称が次々と増えていく。父や母にも、テム、カマリアというそれぞれの人生があった。手強い船は、ラン・ハル、クラウ・ハモという一組の男女であり、アムロにとっては密航者に過ぎない少女も、カイにとってはミハルという格別の存在だった。

アムロは、固有名称に満ちたノンファンクで、名前を持った相手と自分の距離を見極めながら生きのびることを強いられていく。そして、名前という表層が変わるのではなく、少しずつ内面から「僕」のありようが変化していく。

なぜガンダム・ラストフーンで、胸がふるえるのか。それはそこに「名前」があるからではないか？ アムロは、プラウやセイラに呼びかけよう、一人一人のその名前を呼んで、ホワイヘースのクルーを食の中から救出する。それは、アムロがさまざまな体験を通して自分の中に刻まれた仲間の名前、固有名称を使って自らの帰る場所を確認する作業にほかならなかつた。だから、アムロの最後のセリフはあのようなものになったのだ。

こうしてアムロの「僕」は、「たの少年」であれは、素んだ少年時代が終わったために、別の存在に変わってしまった。では「僕」でなくなった「僕」をなんと呼べはいいの？ アムロはそこで不慣れながらも「俺」を使い始める。

アムロが初めて自分のことを「俺」と言ったのは、Zガンダム でカプを破壊しようとする瞬間だった。

「俺はガンタムのパイロットだったんだ」

この時、アムロは結局恐怖におひえ、出撃を躊躇するたか、これはパイロットとしてのリハビリだけでなく、「僕」でない一人称「俺」を使うための練習期間だったように思え

る。逆襲のシャア（アムロは、見事に「俺」と「僕」を使い分けるようになる。ここには明確な基準があり、名前を複数使ったシャアと違い、一人称を二つ使うことで生じる混乱は見られない。「僕」はあくまでプライベートルームを会話の時。そして「僕」の入り込む余地のない、固有名称でできた世界と向かい合うとき「俺」となる。アムロにとって「俺」とは、個人的な存在である「僕」と社会をつなぐために手に入れたフリージなのだ。

こうして、アムロは9年の年月を経て、かつてのロケットの主人公達と同じく離るきのない「俺」という一人称を手に入れることができたのだ。

シャアは、「誰でもない自分」であるために次々と名前を  
実え、それを実現することはできなかった。アムロは、さまざま他人を知る中で「誰でもない僕」の上に新たな自分として「俺」を構築した。こんな経験を描んだシャアとアムロが、再び戦場で刃を交える。それが、逆襲のシャアだ。



ここでは、シオンの赤い悪魔と一年戦争の英雄と同一構図はもはやない。いや、画面の上では、2人は一年戦争時と同様、赤い悪魔と連邦のニュータイプとして厳しくモビルスーツ戦を繰り広げ、人の革新について激論を交わす。たか、その内面的な衝突は当時の二人のシャアと少年のアムロとはほど遠い。この最後の戦いの本質は、退化を遂げた「誰でもない自分」への憧憬を描ききれない男と、「誰でもない普通名詞の僕」を描いて「俺」と名乗るようになった男の争いなのだ。その中心には、ニュータイプの少女、ウェスとララァがいる。

センチティブな少女、ウェス・バラバは、そんな2人にとってリトマス紙のような存在だった。ウェスは「誰でもない自分」を受け止めてくれる人を捜し求め、シャアとアムロに出会った。しかし、それは幸福な出会いではなかった。

アムロはウェスに出会ったとき、彼女の名前を確認して、自らのテリトリー（映画の中では民間人立ち入り禁止区域として描かれた）へ入らないように遠ざけた。彼は、「誰でもない自分」をさらしているウェスを受け止められないのを大人として十分自覚し



存在

「たから、父親役などできない」と拒絶をよこした。自分の中に「誰でもない自分」への要求がある。――は達一、自らの意見に同調した彼女を名前すら確認せずに迎え入れる。ウェスに「来るかい」とだけほほえんで呼びかけた。アムロが固有名詞に敏感に反応しているのに、無邪気なほど無防備な彼に、ウェスはシャアにウェス・エアと自分の名を告げる。シャアは彼女が「父の存在から逃れるために、自分同様、偽名を名乗っていたこと」に気づいていたらどうか。いや、彼にとっては名前などは重要ではない。ウェスが親から逃げ、その名前を捨てることで「誰でもない自分」でいようとするその姿勢にこそ共鳴したのだ。これをシャア自身が目撃していなかったことが、ウェスの悲劇を招く。

映画のラスト近く、アムロとシャアはウェスについて言葉を交わす。シャアはアムロに指摘されて初めて「ウェスが父親を求めていること、つまり「誰でもない自分」を受け入れてもらえなかったこと」に気づかされる。そして、自分からの底でそれを迷惑に思っていたことに思い当たる。それは、「誰でもない自分」を求めて偽名を名乗り続けた自分のパラドクスが、ウェスと自分の間で繰り返されたことにほかならない。

その事実「気づかされた」という点から、シャアに本書を薦めさせることになる。ララァ・スルは私の母となってくれかもしれない女性だ。シャアはウェスを求めたようにララァを求めていた。ララァの娘なら、自分か子供の頃からあこがれてきた「誰でもない自分」たる「たの男」になれると思っていた。ララァは彼のパラドクスを解消してくれる存在である。シャアはそう思っていた。あるいは、そう思っていた。そして他人との関係の中で「彼」としての自分をなくした強さを持つアムロは、そんなシャアの突然の告白に驚くばかりだ。

逆襲のシャアで、シャアはアムロと対等に戦うために、自軍の技術をわざとリークさせた。懐けないモビルスーツと戦って勝つ」とな意味がないと考えたからだ。



龍

「……の思事を描羅に、それでこそ私のツハハルだ」と囁くしもある。たかの時、シャアがアクス落しを完成しても、彼の求めている「たの自分」は手に入らないということは確実なのだ。そういう意味で、アムロがウェスを遣きけ。シャアが彼女を受け入れてしまったあの瞬間にこそ、シャアはアムロのように強くなれないということに明らかになっていたのではないかと。逆襲のシャアは、このように振り返ってみるとわかることが繰り返されている苦い映画だ。

ここでもまた、畑中氏の文章を2つ引用したい。まず一つはこのフレーズ「小阪とは絶望的に名付けたという行為である」。富野由悠季は名前にこたわる監督だ。それは、畑中氏の文章からするならば、たか映画らしくない行為とも言える。

耳に残る高書を多用したメカニクの名ミミック、既存の単語からの引用である「ア・バオア・クーや、ノロモン」さらには、「名もなき妖怪」にまでサンムロ、タムラ、マサキといった名前を与えている。固有名詞にだけは「富野監督は、カンタム」という世界を語るために、モビルスーツ・ニュータイプという普通名詞まで「発明」した。世界の細部を、引用やもしり、オリジナルまでさまざまなレールの名詞で満たすことで、世界を構築しているのだ。

それは、アニメが所詮、セルの上に書かれた「記号」に過ぎないと監督が知っているから。その一つ一つの記号に名前を与え、物語へと繋ぎ付けなければ、登場する事物は何にもなりえない。アニメで名前のあるキャラほど人間らしい表情が描かれ、モーションとなると単なる記号になってしまうのも、テクニクやスケールとの関係とは別に、名付けられていないものは何でもない存在である。というアニメならではの力学が働いているようにも僕には見える。アニメが映画と似ていながら、大きく違うのかこの点だ。

たか、それでも時として、アニメが映画と同じく、名前の壁から逃れる瞬間がある。次の引用を見てほしい。

through

そこに見捨てられたような、置き忘れられたような光景である。決して脚光を浴びることなく、いつも微妙にはくつつけるもの。名前を付け忘れられて、誰も注目しない場所にひっそりと存在を続けるもの。たまたま、名前のない土地の名前のない通り「中略」つまり、風景というよりも、即風景というべき名前のない世界——普通名詞しか感知しないフィルム達の生理によってとらえられた世界のもう一つの像。はぐら二十世紀人はそんなものを故郷にして生まれ育ったのだと思う。

名前を持たぬ原風景

カンダム の中で、そんな風景が顔を出す瞬間が2つある

一つは、アムロとラファが垣間見えたあのイメージだ。それは「あの」と呼ぶことしかできない。そこには一切の固有名称はなく、そこに描かれた、緑や草や扉、光の奔流に一切の意味が求められていない。そこにあるのは普通名詞、それ以上でも以下でもない。あのイメージはあらゆる解説を拒否してそこにあるだけ。カンダム を読るとき、あのシーンは語られない。語ることはできない。アムロとラファが交わしたセリフは再現できても、あの映像を語る言葉は存在しない。仮に語っても意味をなさない。カンタムの世界が名前で語られていないのは、あのシーンは名付けたり、言葉で語ることはできない原風景として。カンタム の中心にある。

もう一つは、空襲のノアの方舟にアックスをつつした光だ。本編でわずかに光の華「人の心の光」などと呼ばれているあの光！これでもやはり「あの」と呼ばなければ、言語化できない！もまた、そんな例えの類をすりぬけるようにあらゆる言葉をはなつて画面を徹底的に尽くした。それを見たキャラクターたちは大層驚いた。何の説明もないまま、またアックスの落下が回避されたことだけが報告され、映画は終了する。ここにも、映画でしや描き得ない、フィルムならではの原風景が顔を見せている。

固有名称にだけの中、集約のように突如として姿を現せる普通名詞の世界。そして、それはいつも気配だけを預けて消えていく。登場人物達はその気配について考えるか、答えを得ることはできない。死後も白鳥という普通名詞の気配をまっ

と現れるラファもまたここに連なっている

「名前がない幸福な世界で、誰かが名前を口にしてみましょう。その瞬間に何か始まるか」といへば、名前のないものが死に始めるのである。名前のないものが一つひとつ、消えたり、やがてふっと消えてしまう。」

その声は、まずアムロとラファの交戦を断ち切るようにラファを呼んだシャアの声として聞いた。「ラファ、奴との戦いをやめろ」。そんな瞬間めいたシャアの一言。それはシャアにとっては封印した、アムロにとっては失われたつづきある少年時代以外に、初めて出会った、名前のない世界が、死に始める合図となった。そして13年後、シャアが再びラファの名前を口にしたら、今度は名前のない世界を大切に思っていたシャアとアムロという固有名称が消え、眠る人はいなければ夢は存在しない。名前のない世界を大切に抱えていた人物がいなければ、普通名詞の世界が存在することはできない。こうして、カンタム の世界から名前のない世界は完全に姿を消した。

アムロ・レイとシャア・アズナブル

まったく無縁な村上春樹とカンダム。が畑中氏の文章でつながれたように、まったく違うタイプのキャラクターである2人は普通名詞の世界を介して深く結びつき、「似ていない双子」のようなバッドキシルな関係を築いていた。

2人の関係はU.C.0079年に始まり、0093年に終わった。2人は、まるで9年間、カンダム を見続けた僕らに代わり置き去りにするやうに、気配だけ残して、僕らの目の前から姿を消した。まったく似ていないとは思えないが、僕はやはり、村上春樹の小説を少しはかり読み出した。

引用

ムロハ臨時所刊 稲枝弘 村上春樹の世界（古く刊）

夢の川で映画が始まる（筑摩書房）



氣音

## ガンダム・キャラクターの変遷 1

### アムロ・レイ

『ガンダム』の物語の主人公であり、新機軸モビルスーツのメイン・パイロット。さらに、戦場を転々とするうちに優秀な戦士へと成長し、ニュータイプとして人類の進むべき道をかまえるという、典型的なSFアニメの設定とはうらはらに、ナイーブな性格を与えられたアムロ。ふわふわしたくせ毛、大きな瞳とふくくらした頬には安彦良和デザインの少年像の特徴がよく表れている。

少年アムロ(15歳)



平かなちな顔。それを模した顔。同時に愛に包まれアムロは、ソネをかみそりに製造されるように機械仕りの好きで内省的な少年として登場する。



モビルスーツ時代

### パイロット・アムロ

なれどし物にガンダムのパイロットにされ、エースとしての活躍を期待されるアムロ。そのプレッシャーで、ときにはふてくされのひかまな表情をすることも。ヒーローらしく前向きな気持を呼ぶともいえる。



機動戦士ガンダム  
U.C.0079

0080

機動戦士Zガンダム  
0087【クワース戦後】

### シャア・アズナブル

アムロの終生のライバルとして登場するシャアは、そのマスクや髪の色、あるいは気どったセリフ回しに示されるごとく、キャラクター的にはサンライズ・アニメのクールな美形悪役路線を踏襲している。その出生にまつわる秘密や行動のモチベーションにも、古典的な貴族流離達の香りがあるが、美意識が冴える性格設定はまさに現代のものだ。



ジオン軍時代



### 赤い彗星のシャア(20歳)

たったひとりの肉親・アルティシア(セイラ)に対する過剰な思いやり、ニュータイプ化のハードターに駆られるままだったトラウマへの依存、シオン・エースの心には、差別な疑念が秘藏されていた。その一端の「女々しき」(生憎の用語)も、シャアという人物の重要なファクターになっている。



クワース時代



「ガンダムZZ」に続いて、アムロはバサトと同時期、引き続きカラバのメンバーとして活動しているはずだが、実際の物語には登場してこない。作品のトーンの違い、キャラの世代交代のゆえが



カラハシ郎



戦士アムロ(29歳)

ひさびさにヒーローらしいアムロの復活。あすからリガンダムの特典に預けられ、ひとまわりも年齢の違うチェーンから群われる姿に安堵したファンも多いだろう。しかし、むしろシャアの逆走ぶりにこそ「ガンダム」のテーマがあることも事実だ。

- ロント ヘル時代

0088【第一次ネオ・ジオン襲撃】

0089

0082 [第二次ネオ・ジオン戦争]

▶ 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア  
0093

クワトロ・バジーナ

新たな理想に奮起、かつての宿願とも共闘するシャア。か  
名流や表情を随う展  
示した性格は同じだ



# 行为不明



総帥シャア(34歳)

グリブス戦役のあと、短い療養の時間を経て彼は人類を操縦するという轟動な任務に導く。ケースの存在はその深い地味を救うはずだったが、実際にはララアを失った悲しみから逃れられなかった。



李オ・シオノ時代

## ガンダム・キャラクターの変遷 2

### ブライとミライ

ホワイトベースの艦長と操縦手として名コンビぶりを発揮し、まさにクルーの父親と母親的存在だったふたり。その結婚は当然のなりゆきであり、シリーズのイメージの統一にも役立っている



#### 母親ミライ

船医デザインのおおめらがさかふかされた母性キャラだが、実際には母親（妻）としてシリーズに登場したのは稀だ。知らず知らずのうちに「ミライ」に言い換えられるなど、妻役ならぬ母役が可能になっている



#### 少年ハサウェイ

「Z」では幼かったが、外見はブライと、精神的な性格はミライにほぼそっくりな二人の義弟（後のデューンはその逆だ）



### ハヤトとフラウ

二人ともアムロの幼なじみで、フラウはアムロのカルフレンド。ハヤトはフラウに片思いという設定だったが、一年戦争時、戦士でありニュータイプであるアムロの変貌を目のあたりにしたフラウは、きわめて女らしい現実的な選択をしたのだ



#### 母親フラウ

強制的にはアムロにそばにいたハヤトも、フラウでは結婚は仕事より手厳重される人種。ややオシロウさんくさい印象があるのかもしれないが、その分、フラウの少女っぽさは母親になっても変わらぬ

## セイラ/カイ

シャアの妹として、ホワイトベースの中でも顔立した存在だったセイラ。同じく、ひねくれ者として物語を賑したカイ。奇しくもピンタのシーンで印象的な二人は、常にアウトサイダーの立場で物語に関わる。



## ジャーナリスト カイ

『Zガンダム』に登場したとき、カイは26歳。もともと不遇なイメージのため、フリーのジャーナリストという設定は意外だったが、群れる嫌う性格からすれば納得できる。ラストロケットへの手紙も捨てきれないあたり、いかにもカイらしい。



同じく『Zガンダム』のセイラは、優秀な読者必よき成る情報誌として登場。『シャア』で明らかに金持を調査品用しているらしい。役をこなしつつ『Z』ではエッジを突き支える。

## カツ、レツ、キッカ

『ガンダム』ではマスコットの存在だった、ホワイトベースに集る難民の3人のちびっ子たち。安部キャラの代表ともいえる愛らしいデザインと意外な(?)活躍で人気を呼び、TVシリーズ、および劇場版のラストでは次世代のニュータイプの可能性を見せたものの、続編の『Zガンダム』で物語に大きく関わったのはカツのみであった。



一年戦争の終結後、3人は避難したハイヤとフラウに引き取られ難民となった。長男的な存在になったカツがエッジに憧れたのも、レツとキッカは奇蹟のフラウを守って難民に残っている。

## パイロット カツ

『ガンダム』ではやんちゃなレノやキッカに比べ、流石なキャラとして描かれていたが、『Z』ではサトラムガムの試験に受かったレノとキッカは奇蹟のフラウを守って難民に残っている。



カツはティターンズのヤラ・サレアロフと出会い、結局までありながらニュータイプへ近づいていく。カツ＝ザラシノ・ノコの影響は、アムロ＝ラァ＝シャアのそのの相伝である。

## ガンダム・キャラクターの変遷 3

### ミネバ・ザビ

「ガンダム」では母のゼナに抱かれた天使のような赤ちゃんとして、「Z」 「Z2」ではハマーンの隣る傀儡、あるいは影武者として登場。もっとも創作的な変貌を遂げたキャラのひとりであろう。そのウェーブのかかった髪型は父のトズルゆすりか。



「Z」の劇中では0歳の子ゆすりさを見せたうえで、両首端とはいえ、まったく新しいキャラクターとしてデザインされている。



### カムラン・ブルーム

ミライの元婚約者として「ガンダム」に登場した、印象的な悪敵。ある種の大人像・男性像の典型として、富野監督にも特別な思いがあり、それが「逆襲のシャア」の再登場につながったと思われる。

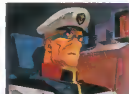


サイト6の人物監修を  
見て、サイト1のコロニー・ロンドン・オンの設計監修を担当。一員として連邦政府の発展を望み、登場するカムランだが、ミライを愛する気持ちは変わっていない。元和フットベース、クルーに對する態度も行動的だ。

### ジャミトフ・ハイマン バスク・オム

それぞれティターンズの指導者と実働部隊の隊長。

時系列では逆になるが、OVAシリーズ「0083」においてティターンズ創設以前の二人の姿が描かれる（エピソードガイトvol.2参照）。デザイン的には大きな変更はない。



ジャミトフと創設のバスクは、連邦軍内部における組織争いの犠牲、シオンの発展であるテラース・フリートの決起を利用して立場を固め、先行的な反スペースノイド組織、ティターンズを結成した。その専断とは血潮から変わらず





## カミーユとファ

『Zガンダム』の主人公と、そのカールフレント。まがりなりにもアニメ・ヒーローとして描かれたアムロに対し、カミーユは純粋すぎたがゆえに現実と理想のズレに吞み込まれていったかのように見える



シロコとの決戦で精神準備をさせたカミーユは『Z』では殆ど、心を閉ざした戦人として行動するが、ゆかりの機軸的な登場もあって最終、ラストシーンの笑顔に合ったファアも多かったはずだ



## ハマー・カーン

ネオ・ジオンの実質的な指導者で、かつて同志だったシャアとは凶神の異名。『Z』では後半に登場する黒幕的な存在だったが、『ZZ』で戦いの前面に現れ、シュドーと対決する。



ゆかりな性格に惹きつけられるファン。ハンブラヒといった特異な形態の機軸を好み、戦闘も格闘するほどのシャア達だったヤサンだが、『ZZ』ではこの通りの活躍



## ヤザン・ゲートル

性格設定者の多いディーンズの中でも、最も好戦的かつ野蛮な人物。CV＝大塚芳忠の情熱とあいまって逆説的な人気を呼び、引き続き『ZZ』に登場したが、こちらは失敗ばかりのコメディ・リリーフ的な役割だ。



ユニーグな無邪気な印象的なハマーンは、安撫役格による『Z』ぶちむしり、本格的に登場した『ZZ』の北沢悠希がサイゾによって動いたファア・シロコ性愛を告げられ、愛恨や私闘など多くのパリエーションを登場させ、統一した魅力が現れた

# アナハイム・エレクトロニクス

メラニー・ヒュー・カー・ハイン  
ウォン・リー

## 地球連邦軍

## ティターンズ

対立

ムラサメ研究所  
オーガスタ研究所

シャミトフ・ハイマン  
バスク・オム  
ジャマイカン・タニンガン  
ジェリド  
ライラ  
マウアー  
カクリコン  
ヤザン  
サラ

木星船団

シロッコ

●ジュピトリス

心算

知事

影響

知事

反ティターンズ派  
フラン・フルターク  
ベン・ウッター

## ロンド・ベル隊

●ラー・カイラム

チェーン・アキ  
ケーラ・スッ  
ハザウェイ

恋愛

対立

ゲーツ・キャバ

お守り仮  
(お守り仮)

フォウ  
ロザミア

強化人間部隊

アデナウアー

父子

苦痛

クェス・バラヤ

保護

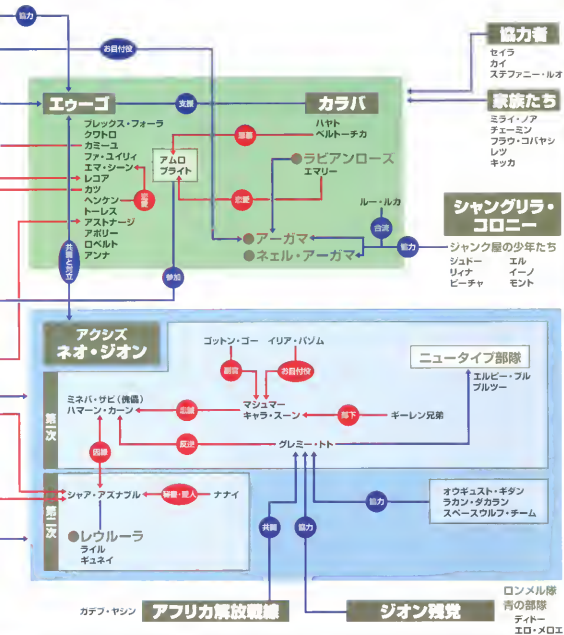
## 反ネオ・ジオン運動

ロイ  
ル・チーナ

抵抗

## キャラクター&組織関係図

(グリプス戦役、第1次、第2次ネオ・ジオン戦争時のもの)



MOBILE SUIT Z GUNDAM

# A.E.U.G.

○機動戦士Zガンダム/エウゴ

## カミーユ・ビタン

■Locs 旧サイド7（グリプス）コロニー群内に位置するコロニー、グリーン・ノア1に住む高出生。連邦軍内で宇宙移民政策を推進行する派閥系セクト「ティターンズ」によって基地化されたサイド7で、彼は生まれる前から入港したティターンズ実験部隊といざこざを起こす。このときたまたまティターンズ基地の威力偵察を強行していた反地球連邦組織「エウゴ」と接触を持ち、一年戦争時のアムロ・レイとは逆に「侵入した側」であるエウゴへと身を寄せることになる。単純な権力への反発から行動を開始した彼は、迷いながらも人間を道義としか見ない権力に対して戦っていくことになる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話/Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ

## Zガンダム

■Height 19.8m/Weight 28.7t

■Notes 機動戦士であるカミーユ・ビタン自身の手で基本設計がなされ、エウゴの後援者のひとつである月面の企業アナハイム・エレクトロニクス社の手で開発された可変試作モビルスーツ。ガンダムMK IIとリック・ディアスを参考に基本設計がなされ、さらに大気圏突入用のフライングアーマーの機能を単機で兼ね備えることが可能のように、ウェイブライダー形態への変形機構を併せ持つ。開発のシャネレーターを搭載したことで大規模な出力強化が実現し、変形機構の実現だけでなく、大出力ビーム砲「ハイパーメガランチャー」を外部よりのエネルギー供給なしに単機で発射することが可能になった。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第21話/Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ

## ウェイブライダー

■Notes Zガンダムの高速巡航形態。スラスタ一頭がすべて後方を向き武装がすべて前方を向くその形態から他のモビルスーツのサポートユニット的な使い方が可能だが、その第一目的としては大気圏突入能力をモビルスーツ単体に付加することであり、スペースシャトルなどと同等のリフティングボディを持った航空機的な形態へと変形する。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第21話

ウェイブライダー

ガンダムMK II

カミーユ・ビタン

Zガンダム



## ガンダムMk-II

■Height 18.5m/Weight 31.4t

■Notes ティターンズの次期主力モビルスーツとして開発された試作モビルスーツ。もともとシェリド・メサ、エマ・シーンのティターンズ実験部隊はこの機体の実験テストのためにグリーン・ノアへ進出した。皮肉なことにここで3機試作されたガンダムMk-IIはすべてエウゴにより破壊され、エウゴのティターンズへの抵抗の意思の象徴としてグリプス戦役（とその際後の第1次ネオ・ジオン戦争）を通じて消滅することになる

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話/Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ

## クワトロ・バジーナ

■Notes 一年戦争時のジオンのエースパイロット。シャア・アズナブルが反地球連邦運動組織「エウゴ」での活動時に使用していた偽名。一年戦争の終戦時生死不明となっていた彼は、現在バクシズで過ごしていたというのが定説になっている数年間の空白期間ののち、クワトロの名を名乗り地球圏へと帰還。エウゴの理想に共感しこの運動へと参加した。これはティターンズの横断に対しコロニー住民や地球連邦内部の反ティターンズ派などが結集し、自然発生的に出来上がった市民運動を母体にしたもので、クワトロらジオン残党や連邦軍内部の反ティターンズ派がこれに参加。支援するようになり軍事相化される。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話/Other Appearance: 機動戦士Zガンダム、機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## リック・ディアス

■Height 18.7m/Weight 32.2t

■Notes 一年戦争後連邦に流入してきたジオン系の技術者を中心に、戦後激しくなってきた宇宙移民者弾圧に対抗すべくエウゴが自分たちの兵力として団体に独自開発したモビルスーツ。当初はクワトロ・バジーナの専用機のみ赤い塗装が施されていたが、機が百式へと乗り換えて以降は彼の機体にあやかり全機が赤の塗装に塗りかえられた

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話

## 百式

■Height 18.5m/Weight 31.5t

■Notes エウゴの戦力としてアナハイム・エレクトロニクスから供与された試作モビルスーツ。開発時に日米の開発者によって呼ばれていたニックネームがそのまま正式名称になっている。機体全面が金色という異様に派手な機体だが、このことになにか意味があるのかは不明。第1次ネオ・ジオン戦争でもう1機の存在が確認されている。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第9話/Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ

クワトロ・バジーナ

リック・ディアス

MOBILE SUIT Z GUNDAM

# A.E.U.G.

◎機動戦士Zガンダム/エウゴ

スーパーガンダム

## スーパーガンダム

■Notes ガンダムMk-IIにパワーアップバーンを搭載し、機動力、火力、シールド出力を強化した形態（「スーパーガンダム」は略称、正式名称は不明）大出力ビーム砲の使用が可能になり、スラスター（及び搭載された推進機）が実質的に増加することにより機動などにも使用可能になった。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第22話

## G-ディフェンサー

■Notes Zガンダムと平行して開発が進められたガンダムMk-IIのサブポートメカ、ドダイなどのモビルスーツ移動システムとしてではなく、モビルスーツ本体のシステムパワーアップを旨として開発された一種の実験機。単体で戦闘機としての使用も可能だが、結局までガンダムMk-IIと組み合わせての運用が主眼。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第22話

## G-フライヤー

■Notes G・ディフェンサー下部にガンダムMk-IIを収容し、モビルスーツトランスポートのように使用する形態。ここからG・ディフェンサーのコックピット部が切り離されていわゆる「スーパーガンダム」の形態へと変化する。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第22話

## アーガマ

■Notes エウゴの主力艦。一年戦争時に大活躍を演じたホワイトベースの存在に強い憧憬を抱くエウゴの中心人物ブレックス・フォーラがコロニー、スウィート・ウォーターにて機密裏に建造させていた。開発時のコードネームは「ホワイトベースII」バリエーションシステムの採用で艦体での大気圏突入が可能。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話/Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ

## ブライト・ノア

■Notes 一年戦争後、急速に保守化し宇宙移民への差別傾向を強めた地球連邦軍にあって、旧ホワイトベースクルーは各自が敵愾されたり閉鎖に囚えられたりといった弾圧に近しい状況を受けていた。ブライト・ノアは移送船の艦艇という閉鎖に追いやりながら軍務を続けていたが、グリーン・ノアでディターンズとエウゴの抗争に巻き込まれ、ディターンズのやり方

G-フライヤー

アーガマ

エマ・シーン

ファ・ユイリィ

カツ・コバヤシ

リック・ディアス  
(ノーマルタイプ)

メタス

を良かね、民間人を連れ、エウゴに身を寄せた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話 / Other Appearance: 機動戦士ガンダム、機動戦士ガンダムZ、機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## エマ・シーン

■Notes ガンダムMK-II実態テストに派遣されたティターンズの新人パイロットのひとり。ここで偶然遭遇したエウゴとの戦闘でティターンズのやり方に疑問を持った彼女は、ティターンズを裏切りMK-IIをもってエウゴへ参加。エウゴの主力パイロットのひとりとなる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話

## ファ・ユイリィ

■Notes カミーユ・ヒタンの幼馴染み。常に安定気味の彼を羨ましい少女だが、カミーユがティターンズともめことを起こしたことから連綿的にはじまったグリーン・ノアの争乱に巻き込まれる。その後アーガマのクルーとなり、後にモビルスーツパイロットもつとめる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話 / Other Appearance: 機動戦士ガンダムZ

## カツ・コバヤシ

■Notes 一年戦争終了後はハヤト、フラウのコバヤシ夫妻の養子となっていたが、かつての英雄アムロ・レイの跡甲斐ない姿に怒り、根を飛ばす。その言葉に動かされたアムロとともにカラバに参加。カミーユらと宇宙へと出る。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話 / Other Appearance: 機動戦士Zガンダム

## メタス

■Height: 18.1m, Weight: 23.8t

■Notes Zガンダムの開発時に高次的につくられた可変モビルスーツ。自式のフレームデザインから空形機体の製作の参考用につくられた汎用機的なのだと思われる。そのため武装的にはあまり大したことはないが電子機器が充実しているため、強行偵察などに適している。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第21話 / Other Appearance: 機動戦士ガンダムZ

## リック・ディアス(ノーマルタイプ)

■Height: 18.7m, Weight: 42.2t

■Notes エウゴが独自開発した最初のモビルスーツ。シオン系の技術者が開発のメインになっているため、形状的には一年戦争時のシオンの名機リック・ドムに似るが、連邦のRX-78ガンダムの技術が多数採用されており、開発時のコードネームは「ガンマ・ガンダム」という。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話

MOBILE SUIT 2 GUNDAM

# A.E.U.G.

○機動戦士Zガンダム/エウゴ

## ディジェ

■Height 18.4m・Weight 33.9t

■Notes エウゴ主力から供与されたシッフ・ディアスへベースに、カラバが開発したモビルスーツ、地上での戦闘に適したホバリング機構などを追加し、ジェネレーターを強化。そうした改修から発生した余熱熱量を効率よく逃がすために背部に巨大な放熱フィンを開発

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第35話

## ジムⅡ

■Height 18.1m・Weight 40.5t

■Notes 連邦軍が一年戦争後に主力モビルスーツとして採用しているジムの改良型

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第2話

## ハヤト・コバヤシ

■Notes 転落、フラウ夫人（旧姓ボック）と結婚し、ホワイベースのマスケットポートに在ったカラバ、レツ、キッカの3人を養子に迎え、基から与えられたケネディ戦争博物館の館長職につく。しかし、じつはカラバの構成員として活動しており、エウゴの地上での活動をサポートした。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話 / Other Appearance: 機動戦士Zガンダム、機動戦士ガンダムZZ

## アムロ・レイ

■Notes 一年戦争時モビルスーツ「ガンダム」に搭乗し、伝説的な戦功を打ち立てたユースパイロット。戦後はニュータイプを危険視する連邦政府の手でアメリカ北西部シャイアンの僻地で農場司理の生活を送っていた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話 / Other Appearance: 機動戦士Zガンダム、機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ベルトーチカ・イルマ

■Notes 地球でのエウゴ支援組織カラバのメンバー。一年戦争での戦災孤児で基本的には戦争を嫌んでいるが、必要に迫られても戦いを厭うのはおかげであるとアムロにハッパをかける。情熱的な性格からか会ってすぐにアムロに好意を抱き接近を図るが、彼のほうもけっこう清楚ではなさそうではあった。

First Appearance: 機動戦

ディジェ

ハヤト・コバヤシ

ジムⅡ

ベルトーチカ・イルマ



## ネモ

- Height: 18.5m/Weight: 36 t  
 ■Notes: エウゴがジムIIに替わる重装甲モビルスーツとして開発、実戦投入した機体。宇宙空間での機動性を高めるためスラスタースターが強化されている他、若干装甲厚になっている。  
 First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』第9話

## アイリッシュ級

- Notes: エウゴの新造宇宙戦艦。アーガマ陣営で得たノウハウを基に作られたバランスのとれた艦艇でモビルスーツ発進用のカタパルトを前後に4基装備し、モビルスーツ運用を主眼においてつくられている。アイリッシュ、ラーディッシュなど4艦が建造された。  
 First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』第9話

## トールス

- Notes: アーガマの航法担当士官。といってもエウゴは軍組織ではなく基本的にバルデザインであるため、軍人風はあまりせず、少年パイロットたちと気軽に話しかける。  
 First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』第3話/Other Appearance: 『機動戦士ガンダムZ』

## ブレックス・フォーラ

- Notes: 連邦軍で得たエウゴの理論的指導者のひとり。軍内部のリベラル派を代表する人物で、武装組織としてのエウゴをまとめている。財界に対しても縁がささ、宇宙移民系の企業によるエウゴに対する資金、技術面での援助なども彼の存在によるところが大きい。  
 First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』第3話

## ヘンケン・ベッケナー

- Notes: エウゴの幹部構成員でアーガマの初代艦長。軍人気質の豪放な人物で、クワトロとは仲がいい。ホワイトベースの艦長だったブライト・ノアをアーガマに迎え入れた恩にその存在の象徴的な意味も考えてブライトにアーガマの指揮を託す。  
 First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』第3話

## アストナージ・メドソン

- Notes: アーガマ所属のメカニックマン。カミーユからZガンダムの設計プランを見せられ、これに感銘を受けた後がアナハイムに開発プランの検討要請をおこなったことからZガンダムの開発計画が顕微化した。  
 First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』第3話/Other Appearance: 『機動戦士ガンダムZ』、『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』



トールス

ヘンケン・ベッケナー

## ガンダムMk-II (ティターンズ・カラー)

■height 18.5m/Weight 33.4t

■Notes ティターンズが次期主力モビルスーツとして開発していた紐作モビルスーツ。この紐を基調としたカラーリングがティターンズのイメージカラーであり、3機生産されたこの機体はそれぞれ左側に機体番号が記されている。船舶の性格上、地球連邦の技術者を中心に開発が進められ、基調的にシオン系の技術が採用されているため、設計思想的には開発時においても開発側のものとはいえないが、それでもセミノック方式からムーバブル・フレームへと基本設計を変更したり、コクピットに全天周スクリーンを採用したりといった最新技術が惜しげもなく注ぎ込まれ、当時最強のモビルスーツをティターンズの手でつくりだそうという意気込みが感じられる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム

第1話

## ジャミトフ・ハイマン

■Notes ティターンズの設立を画策し、この企画の実現後はその実質的な指導者としてノースから実働スタッフを陸から操る。実際には単純な地球人至上主義者ではないが、地球人と宇宙移民との対立をおもなことで経済的、軍事的進取を引き起こし、これに乗りて自身の絶大な独裁権力を獲得しようとする野心家である。そのためにはどのような非人道的な手段も厭わず、30パンチ事件やブレイクス・定規の暗殺などをおこなう。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第13話

## バスク・オム

■Notes ティターンズの実戦指揮官。ティターンズ設立当初からの中核メンバーであり、シャア・ハイマンの右腕として活躍する。地球人こそ連邦であり、宇宙移民者を危険分子と断じる。よく考えるとギレン・ザビ版のジオニズムを逆さまにしたような思想の持ち主。一機の巨艦であり、30パンチ事件などティターンズの行った悪行として名高い残忍行為のほとんどは現場で実際に指揮を執る。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム

第1話

ガンダムMk-II  
(ティターンズ・カラー)

バスク・オム

ジャミトフ・ハイマン

MOBILE SUIT Z GUNDAM

# TITANS

機動戦士Zガンダム/ティターンズ

## サラミス改組

■Notes 一年戦争時の連邦宇宙軍の主力艦サラミスのモビルスーツ運用能力を強化した改組版。サラミス級とのか大きな違いは艦体上面に追加されたモビルスーツ発着カタハルト。武装面や基本性能はサラミスと大差はない。

First Appearance 機動戦士Zガンダム 第3話

## アレキサンドリア

■Notes ティターンズの主力を成す戦艦。1番艦のアレキサンドリアはトゴス・キアの就航までは実質的なティターンズの旗艦として機能していた。異型艦としてシロツクの改造に使われ、「ハリオ」などがある。連邦の艦艇としてはベガス級に次いでモビルスーツの運用を念頭において設計開発が進められた艦艇であり、艦体上面に大型の開放型モビルスーツ発着カタハルトが設けられ、モビルスーツの発着に関する基本設計がここで詰まったことが見て取れる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第3話

## ハイザック

■Height 13.5m Weight 16.1t

■Notes シオン系の技術を活用化吸収するために連邦軍が1年戦争後最初に量産化したシオンの汎用モビルスーツ「ザク」の発展機。頭部など形状的にもザクを思わせるモビルスーツではあるが、中身は「ザク」を連邦の技術者が解析して新設計した、とでもいへばいいもので、同一機や改修型ではない。とはいえ、生産性が高く、高い汎用性のあるもの、という設計コンセプトは同一であり、シオンでのザクと似たような位置付けのモビルスーツであることには変わりがない。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話

## パーザム

■Height 19.4m Weight 40.4t

■Notes ガンダムMk-IIをベースに開発されたティターンズの量産型モビルスーツ。外見上はあまり似通っていないがフレームの構造やハーツなどが共通のものになっている。構造は若干単純化されている分装甲などは強化され、シエネレーターの出力も上がっているため、ビーム兵器の出力に関してガンダムMk-IIと同等かそれ以上の性能を実現している。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第35話

## ジャマイカン・ダニング

■Notes バスク・オムの副官で、ティターンズの実戦指揮をサポートする立場にある。典型的な中層管理職タイプの士官で、出世欲が強く、部下の失敗には非常に神経質。バスク同様、過剰理想の意識は強いが狂信者ではなく、どちらかというところ世間的な野心の強い前衛タイプ。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第2話

ジャマイカン・ダニング

## カクリコン・カクーラー

■Notes グリーン・ノアヘガンダムMk-IIテストのため派遣されたパイロットのひとり。グリーン・ノアの少年、カミュー・ビタンに自分の乗機を奪われ大に面目を潰つられると、力づくでこれを解消しようとする。ジェリド・メサとは友人で以後彼とともに、謀略的に地球へと少年とガンダムを追っていく。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話

## マラサイ

■Height 17.5m/Weight 33.1t

■Notes ハイザックの発展型として開発された連邦軍の新型モビルスーツ。アナハイム・エレクトロニクスで開発され一説によればエウゴへの供与が予定されていたものが、裏切り引きの一部としてティターンズに目されたのだともいわれる。アナハイムはもともとジオン系の技術者が多いため、ハイザックに比べるとはるかに洗練された機体になっている。武装はハイザックと基本的に共用だが、機体のトータル・バランスがハイザックより優れているため、ティターンズでの先行運用ののち事実上ハイザックの後継機種として各地へ実証配備されていた。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第9話

## ガブスレイ

■Height 18.5m/Weight 42.6t

■Notes シロツコの設計による可変試作モビルスーツ。シロツコの手にするモビルスーツの例に漏れず、どこかそれまでのモビルスーツのデザインと異なった異質な印象をもたらす機体のひとつ。フレーム機構と可動装甲を利用して変形しモビルアーマー形態をとる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第21話

## ギャブラン

■Height 13.8m/Weight 50.7t

■Notes 連邦の試作型可変モビルスーツ。変形によってモビルアーマー……というよりは巡航形態をとることが可能で、追加ブースターを装備することで駆動機への保護などの用途に使用できる。両腕にウエリアルに可動するスラスタ付きのバインダーを有し、AMBACの機構を加えたような高連動が可能だが、そのぶん非常に扱いにくくパイロットの負担も大きい。よほどの熟練者か強化人間でなければ扱えない、異常にピーキーな機体である。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第14話

カクリコン・カクーラー

マラサイ

ギャブラン

MOBILE SUIT Z GUNDAM

# TITANS

機動戦士Zガンダム/ティターンズ

ギアブラン

パイアラン

バウンド・ドッグ

ジェリド・メサ

マウアー・ファラオ

## パイアラン

■Height: 18.6m/Weight: 34.2t

■Notes: ティターンズがギリマンジャロで開発していた飛行モビルスーツ。熱核エンジンを搭載し、強力なバッキング機構を備えることで無窮形で大気圏内での縦似的な飛行を実現している。その開発コンセプトから他のモビルスーツとは一線を画した形状をしており、武器も手待ちにするという発想を切り捨て、手のひらへ内蔵する形をとっている。その機体の性格上宇宙空間での戦闘ではあまり有用とはいえない。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第36話

## バウンド・ドッグ

■Height: 27.3m/Weight: 82.7t

■Notes: バスク・オムの手指示で誕生したティターンズの切り札。強化人間部隊用に開発された可変モビルアーマー。ガブレイがモビルスーツをモビルアーマーに変形させるというアイデアだったとするならば、この機体はモビルアーマーがモビルスーツ形態をとる、という発想により近いもの。モビルスーツより一回り大きな機体に武装の基本は内蔵、というモビルアーマー主体の機体設計になっている。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第42話

## マウアー・ファラオ

■Notes: ティターンズの女性パイロット、エウゴによるジャブローの地球連邦軍本部襲撃を誘ったジャミトフが仕掛けた核弾頭の爆発からジェリド・メサを救う。以後ジェリドと密仲になり、行動を共にする。宇宙への脱出後、ジェリドと共に新参のシロッコ配下へ編入され、彼の野望の一端への関与を示唆されるが、ジェリドへの思いからこれを批判的に拒絶。シロッコに利用され捨て石にされようとしたジェリドを守る道を選ぶ。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第12話

## ジェリド・メサ

■Notes: グリーン・ノアへガンダムMk-IIのテストのため入選した新人パイロットのひとり。何気ない言葉からコロニーに住む少年カミーユ・ビダンともてことを起こし、この少年の暴走によって結果的にエウゴにガンダムMk-IIを奪われることになってしまう。当初は「ティターンズに選ばれた」というエリート意識に凝り固まっていた彼だが、この事件以降はこの失敗の汚名をそそぐため、少年と彼の乗るガンダムを軌道に追い続けることになる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話

## EFSF AND OTHERS

◎機動戦士Zガンダム/連邦その他

## ブラン・フルターク

■Notes 連邦軍のモビルスーツパイロットでシヤコロ襲撃をおこなったエウゴ部隊の諜刺を命じられ、部下のベン・ウッターとアッシュマー部隊とオーガス研究所から託された「強化人間」の選成部隊でエウゴと合流したカラハのガルダを追う。ティターンズの台頭を危惧し、強化人間に嫌悪感を抱く正常なバランス感覚の持ち主

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第13話

## ガルバルディβ

■Height 19.0m/Weight 36.3t

■Notes グルグとキャンの中間的な位置付けにあったシオンの試作型モビルスーツを戦術連邦が接收し、これを元に開発したものを自軍のモビルスーツとして制式採用した。よってその名称もシオンのモビルスーツから引き継いだもので「ガルバルディオ」とはシオンの試作モビルスーツの名である。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第3話

## ライラ・ミラ・ライラ

■Notes 連邦軍のモビルスーツパイロットでガルバルディβ部隊の隊長。ティターンズではなく一般連邦軍ではあるが、凄腕のパイロットであり、やっかみから「戦争好き」と敬慕されたりもしている。グリーン・ノアを発したアーガマを襲撃するがクワトロに敗北し、ジェイドらとともにアーガマを追う。ティターンズの存在を懸たがっているが、さすがにその伝えられる無行のすべてを信じてはおらず、30パンチ事件の惨劇を見てショックを受ける。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第3話

## カイ・シデン

■Notes 一年戦争時に軍の現地徴用兵として、ホワイトベースでガンキャノンのパイロットをしていた人物。戦後は軍組織を離れジャーナリストに転身。軍部の規制により宇宙へ向かうことを禁じられている身ではあるが、単身地球上でのティターンズの活動を追っており、ジャブローの連邦軍本部へ侵入する。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第2話 / Other Appearance: 機動戦士Zガンダム



ブラン・フルターク



ライラ・ミラ・ライラ

カイ・シデン

ハイザック・カスタム

ハンブラビ

アッシュマー

ヤザン・ゲートル

ウォン・リー

## ハイザック・カスタム

■Height: 18.0m/Weight: 35.6t

■Notes: ハイザックの外装甲をカスタム化し、ジェネレーターを多少ボアアップしてある。独特なハイザックのカスタムバージョン。遠距離から外敵を狙い撃つような戦いを得意としており、「ハイザック・スナイパーカスタム」とでも呼ぶべき機体

First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』 第39話

## ハンブラビ

■Height: 19.9m/Weight: 34.6t

■Notes: ティターンズの可変モビルスーツ。モビルスーツ。モビルアーマーの各形態での戦闘力が同レベルで高く、「海ヘビ」などといった奇妙な武器とその変形機構を生かしたトリッキーな戦い方を身上とする。3機編隊での運用を基本とし、小隊レベルでのフォーメーション戦闘の威力が特に突出している。その特異な形状から「イカ」とか「ヤッコダコ」などと呼ばれる。

First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』 第31話

## ヤザン・ゲートル

■Notes: ジャマイカの都下としてその腕を買われ、一般の軍組織からティターンズへ編入されてきたモビルスーツパイロット。たたき上げの実験体であるため、ティターンズに対する思想的共感などは持っておらず、彼らの抱く国民意識などは内心で拒んでいる。戦勝のスピリットと快楽だけを目的に生きており、逆にそれを味わうためならなんでもする。

First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』 第24話/Other Appearance: 『機動戦士ガンダムZ』

## ウォン・リー

■Notes: スポンサー企業から派遣されてきたエーゴ組織のトップのひとり。エーゴではかなり大きな発言権を持っており、その責任に応じ、それなりに良識を持って自分なりの懸念意識を動いている人物なのだが、とにかく異常に権威に執着な性格で、口より先に手が出るタイプ（しかも手法をやっている）。

First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』 第8話/Other Appearance: 『機動戦士ガンダムZ』

## アッシュマー

■Height: 19.3m/Weight: 41.1t

■Notes: 大気圏内での飛行を実現した可変モビルアーマー。円盤型のモビルアーマー形態で飛行をおこない、モビルスーツ形態で戦闘をおこなう。比較的その形態における役割がはっきりしたモビルアーマーである。機体バランスを崩さずに空中で変形プロセスを終了させるために、関節部にはマグネットコーティングを採用。

First Appearance: 『機動戦士Zガンダム』 第13話

# AXIS AND THE REINFORCED

◎機動戦士Zガンダム/アクシズと強化人間

## ミネバ・ザビ

■Notes: ドスル・ザビの嫡元。母ゼナとともにソロモンを脱出後、他の残存ジオン兵とともにアステロイド・ベルトの断片「アクシズ」で育つ。ティターンズとエゥーゴの紛争から生じた地球圏の混乱に乗じて勢力を確立しようと地球圏進出を決意したハマーンに連れられ、7年ぶりに公の場へ姿をあらわした。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第35話 / Other Appearance: 機動戦士Zガンダム



ミネバ・ザビ

## ロザミア・バダム

■Notes: 幼少時に目撃したコロニー落しのためトラウマを負った強化人間の少女。自分が失った家族の温もりを求めて、幼児退行に似た精神状態となる。これを利用してアーガマのクルーに精神的なゆさぶりをかけようという陰謀によってアーガマに送り込まれ、接触を持った上でティターンズの手で回収された。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第14話

## サイコ・ガンダムMk-II

■Height: 39.98m / Weight: 167.8t

■Notes: サイコ・ガンダムのパワーアップバージョン。レフレクタービットや有線式ビームソードなどサイコ・ガンダムに未搭載だったサイコミュ兵器も装備し、武器の機と化した凶悪な機体。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第48話 / Other Appearance: 機動戦士ZガンダムZ

ロザミア・バダム

## グワダン

■Notes: アクシズの旗艦として建造された大型戦艦。ミネバの居城としてけた外れな巨大さを誇る。いちおう一年戦争時のグワジン級の発展型である。ジャミトフ、シロッコ、クワトロを迎えるの休憩会館がこの艦内でおこなわれたが、交戦は決裂。このどくどくにシロッコがジャミトフを暗殺した。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第32話

サイコ・ガンダムMk-II

## グワバン

■Notes: ハマーンがグワダン撃沈後に艦橋に投入し、旗艦の機能を果たした予備兵力として隠匿していた新造戦艦。グワダンとさらに発展させた巨大艦で、高い火力と指揮能力を誇る。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第46話

グワジン



## ハーマン・カーン

■Notes: シャアが地球圏へと出奔して以降はミネバの調教としてアクシズの政治的な実権を握り、地球軍連合も彼女の決断による。出奔前後にシャア（クワトロ）となんらかの因縁が存在したらしいが、はっきりとそれが明確に語られることはなかった。

First Appearance: 機動戦士Ζガンダム 第8話/Other Appearance: 機動戦士ガンダムΖΖ

## キュベレイ

■Height: 18.4m/Weight: 35.4t

■Notes: ハーマン・カーンの専用モビルスーツ。ジオンのニュータイプ専用モビルアーマー「エルメス」の正統的な後継機であり、サイコミュによって遠隔操作される無縛式ビーム砲「ファンネル」をその主武器とする。両肩のバインダーの内部に多数のスラスターを内蔵し、宇宙空間での機動性に優れる。

First Appearance: 機動戦士Ζガンダム 第43話/Other Appearance: 機動戦士ガンダムΖΖ

## ガザC

■Height: 18.3m/Weight: 40.8t

■Notes: アクシズの主力である可変モビルスーツ。小惑星帯で開発されたため、その環境に適した非常に特殊な形状のモビルスーツになっており、ジオン系モビルスーツの影はモノアイを除けばほとんどない。

First Appearance: 機動戦士Ζガンダム 第32話

## サイコ・ガンダム

■Height: 40.0m/Weight: 214.1t

■Notes: 連邦軍ムラサメ研究所が開発した可変モビルアーマー。通常のモビルスーツの倍以上の全高（モビルスーツ形態）を誇る巨大な人型兵器で全身がビーム砲とサイコミュの塊のような異様な機体である。ジオンのサイコミュ兵器が火器制御を精神制御でおこなう、という方式をとっていたのに対し、この機体でのサイコミュは機体制御全般と搭乗者への精神コントロールのために使用されるというマッドサイエンスの産物として生み出されている。

First Appearance: 機動戦士Ζガンダム 第17話

## フォウ・ムラサメ

■Notes: ムラサメ研究所でつくられた4番目の強化人間である、ということから元の名と記憶を封塞され「フォウ」とだけ呼ばれる少女。脳波制御によって機体コントロールをおこなうサイコミュシステムが哥特化したような試作モビルスーツ「サイコ・ガンダム」のために調整が施されている。研究所に連れ込まれたマインドコントロールにより、自らの失われた記憶の再生は戦いによってしか実現しない、という強迫観念を持つ。

First Appearance: 機動戦士Ζガンダム 第17話



フォウ・ムラサメ

## THE GRAVITY OF JUPITER

◎機動戦士Zガンダム/木星の引力

## サラ・ザビアロフ

■Notes ニュータイプ研究所出身のティターンズのモビルスーツパイロット シロツコからジェリドに対して部下として与えられた新兵だが、シロツコに優しくされたことで直接の上司であるジェリドよりもシロツコに忠誠を誓うようになり、のちに面談の部下に、非人道的な作戦に怒りを感じる健全な感性を持ち、戦闘でるところでニュータイプの素質を見せる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第22話

## ボリノーク・サマーン

■Height 19.9m Weight 31.6t

■Notes シロツコの手によるモビルスーツの1体。実験、偵察を目的につくられたモビルスーツで頭部にレイトーム、左腕に集合センサーを持つ。そのため、武装は比較的貧弱で格闘戦がメインの機体である。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第44話

## パラス・アテネ

■Height 21.6m Weight 65.0t

■Notes シロツコが開発した重攻撃型のモビルスーツ。本来は肩中のラックに8本の近接ミサイルを積み、絶大な攻撃力を誇るはずだったが、ミサイルまでは開発に手が回らないうちに戦役ではそうした使われ方をすることはなかった

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第28話

## レコア・ロンド

■Notes エクープの中核メンバーのひとりであり情報収集や連絡担当として、積極的に動き回るキャリアウーマン。その反面、女としてクワトロに対して想いを寄せているが、自分の態度に対し、まともに答えてくれない彼の態度に心の中ではイラ立ちを感じている。のちに敵軍の新型モビルスーツ開発に関する情報収集活動の最中にシロツコに出会い、自分を敬慕して女としてしが振舞わないこの男に、クワトロが与えてくれたもののを感じ、惹かれてゆく。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第3話

パラス・アテネ

サラ・ザビアロフ

レコア・ロンド

ボリノーク・サマーン



メッサーラ

## メッサーラ

■Height 25.0m Weight 12.5t

■Notes シロッコが最初に開発した自作モビルスーツ。木星からの帰りの航海中に開発したものだといわれ、既存のモビルスーツのどれとも似ていないデザインライン、変形による巡航モードの採用など木星の重力下での作業経験がそのまま設計に反映しているものと思われる。基本的にヒーム・サーベルなどの近接戦用のもの以外、手持ち武器は使わず、両肩にスッ付けられた2門の大型メガ粒子砲がメイン武器となる。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第10話

## ジ・オ

■Height 24.8m Weight 57.7t

■Notes シロッコが自身の専用機として開発した巨大な量産モビルスーツ。全身に多数のスラスタを備え込んで宇宙空間での機動性を確保し、シロッコの内部にある爆力放をそのまゝ形にしたような機体。その意味でジャミトフ脱獄後にこの機体への搭乗をはじめたのは象徴的である。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第46話

## パプテマス・シロッコ

■Notes 資源輸送船の乗組員として木星へ航海し、そこから帰還して来たニュータイプと呼ばれる男。自身の野望を押し隠し、ジャミトフに対しては心腹したフリをしてみせながら、その老練を誇い隠蔽。モビルスーツパイロットとしても強大な戦闘力を持ちながら、極力自らは戦闘に加わろうとはせず、「自分の戦いは女性のため」などとうそをふいては周囲の女性たちを自分の戦いに引き込もうとする。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第10話

## ドゴス・ギア

■Notes ティターンズの機艦として建造された巨大戦艦。ジャミトフによりシロッコにその指揮権が与えられ、以後グリプスの密着化に専めるバスクに代わり、シロッコがこの艦から実戦指揮をとった。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第21話

## ジュピトリス

■Notes 地球圏へのエネルギー供給のために運行している資源回収用の超巨大輸送船。シロッコはこの船で木星の航海から帰還した。核融合のために使われる元素ヘリウム3を木星の大気から生成し、輸送してくることを目的としている。長期に渡っての生活が必要になるため、船内にはコロニー並みの生活設備を持つ。

First Appearance: 「機動戦士Zガンダム」第21話



クワトロの気配を学習の中に感じるカミーユ。(10話がむす、アムロをおどす(1話))



一年戦争当時と同時に、2機のソニック・ディファスターロニーへ潜入するクワトロ(1話)



クワトロを名乗るシャアだが、EDデブツで「1話からシャアと表記された(1話)」



カミーユをライバルとして付け添うシェードと顔にアドバイスをするライラ(8話)



クワトロの愛機一式、肩に搭かれた「百」の文字は富野監督の愛案らしい(10話)



木曽博の男、シロツは自ら設計した可変(M.A.メッサー)を操る(11話)

## EPISODE CHECK

機動戦士ガンダム。果たしてどんな作品だったのか。まず、ガンダム・シリーズ全体の中で位置づけてみよう。

振り返ってみると、本作はガンダムがシリーズ化していく上で、結果的に強力なカンフル剤となった。富野由悠季監督は制作が決まったとき「今後もガンダムを作り続けることになる」と予感したというが、その言葉通り、本作がなければ、ガンダムの世界がビジネスも含めてこれほどまでに広がり、長期にわたって継続することはなかった。その理由を考えてみよう。

一つは、物語を前作の7年後に設定し、メインの登場人物を入れ替えたことだ。前作の戦争は一年戦争という呼称で歴史化され、作品は年代記的な側面を持つようになった。これをきっかけに、時間を経過させたり、主人公を変えることで、さまざまな時代や場所での「ガンダム」という物語を作ることが可能になり、ここを原点にガンダム・サーガと呼ばれる世界が育ちはじめた。

第二のポイントはMSVの登場だ。MSVは前作終了後、プラモデル人気の中で生まれた企画だった。本作はそうしたMSVを本編の中にフィードバックして登場させた。それは、本作の企画がそもそもスポンサー・サイドからの働きがけてスタートしたことと無縁ではない。だがそれ以上に、視聴者にとっては、フィルムの外(主にプラモデルを基盤とした)の世界にまで広がったガンダムの世界を、フィルム・メーカー側が肯定したという意味のほうが大きかった。ファンにとってのガンダム世界は既にフィルムの中だけのものではなかったのだ。フィルムとプラモデルという2つのメディアとファン。ガンダム世界を構成する3つの要素は、この時点で初めて一線に揃ったのだ。

これが本作を外側から成立させた力だ。この2つの要素を極めて自覚的に融合しそれがビジネスとして成立する。ファンにも受け入れられたことで、ガンダム・シリーズは

約に制作する基本的な方法論が確立したのである。だからこそ、本作は『機動戦士ガンダム』に続く、ニュースタンドとしての位置を占めることになった。

では視点をえて、その内側、物語としてはどんな作品だったのか探ってみよう。それは富野監督の言葉を借りて言うなら「現実批判の物語」だった。このテーマは、監督が企画発表時に発表した「ニューガンダム?ニュータイプ?ニューシリーズ?」という文章の中にもはっきりと書かれている。「面白いかどうかではない。時代はこうだという物語を手に入れたのだ」と。

そして確かに、本作はカタルシスから遠く、そのような作品としてあるのだ。

## グリーン・ノアの脱出(1~10話)

本作は、一年戦争後、地球圏の覇権を巡る内戦が舞台だ。連邦軍内のタカ派ティターンズと、連邦軍内の「ベラル派を含む反連邦組織エゥーゴが抗争を繰り広げ、そこ



アーマーから救出されたシャトルの中、カミーユとライラ。里のぬいぐるみを抱くカミーユ(10話)

にジオンの残党が介入する。物語は、主人公カミーユ・ビダンをその戦争の真ん中に置くことで、その戦争の不明確な全体像そのものを描こうとした。その点で、一部隊の様子を丹念に描い、アムロの成長をそれに重ね合わせた前作の教養小説的な構造とは大きく異なり、はるかに群像劇の性格が強くなった。

カミーユは主人公としてはかなり感情移入しにくい性格だ。例えば、アムロ・レイがフラウ・ポッターを守るためにガンダムに乗り込んだのに対し、カミーユは、偶然ガンダムに乗り込むやいなや、「一方的に殴られる痛さと怖さを教えてやる」と叫んで、逆に一方的にバルガンを発砲した。自分を奮めつけたMPに仕返しをしようとしたのだ。彼のこうした性格の一面は家庭環境にもあった。カミーユは愛人を作った父を、そしてそんな父を見捨てて仕事にばかり没頭する母を嫌っていた。加えて、彼はカミーユという女の名前を付けられたと思ひこみ、そのことでも不満を持っていた。彼は、こうした思いを心の底に溜めようとしたまま、各種の大会で優勝するなど表面では優等生のように振る舞った。先ほどは主人公としては感情移入しにくいと書いたが、実はこれは、いまや読者で決して珍しくない思春期の少年像であるのが興味深い。彼はやがてエゥーゴのバウンティとなり、両親の死を目の当たりにするなど過酷な経験をしつつも、少しずつ成長することになる。

## ジャブロー侵攻作戦、発動(11~16話)

エゥーゴが地球連邦の本拠地に行った「ジャブロー侵攻作戦」のエピソードは、本作が「現実認知の物語」であることの好例だ。

物語は冒頭から、ティターンズの暴行ぶりを克明に描写してきた。ほかの軍人と同様に1階級上の権限が認められることが生む過激暴行、カミーユの母を人質にする非人道的な作戦、コロニー1つを襲撃して全滅させた3Dパンチ事件の真実。

一方で、それに対抗するエゥーゴは、スペースノイドのための正しきレジスタンス組織であるように描写されている。だから視聴者は、ブライト・ノアやエマ・シーンを連邦軍からエゥーゴに転じたこともスムーズに理解できた。

だがエゥーゴを収め込む「現実」はそれほど単純ではなかった。それが、ジャブロー侵攻作戦の前段階で明らかになる。



本作では当初「近衛のシャア」がサブ・アシャ・タイトルとして登場していた

クワトロ・バジーナはジャブロー侵攻作戦を危険かつ効果の薄いものとして退けた意向を持っていた。だが、それはアナハイム・エレクトロニクスを始めとするエゥーゴのスポンサーの意向に沿うものではなかった。結果、クワトロの意見は退けられ、作戦は、スペースノイドへの政治的アピールという理由で実行が決定される。

このように一見正しきレジスタンスに見えるエゥーゴの「正義」もまた、どこかの誰かの利益の代弁でしかないのだ。それは、ティターンズの悪と並べたときに、相対的



シャブローに潜入したレコアと真が知り合いになったカイ。二人はとらわれの身(12話)



シャブローで機を見るMSVの一つ、グフ飛行試験型(12話)



カイに所属するハド。彼はクワトロに本名を明かすことを勧める(12話)



宇宙降参のためのシャトル着陸を止めようとするアッシュの攻撃(13話)



7年間の無情な生活で、心が折れ込んでしまったアムロ(15話)



アムロを救えようとするヘルミーナ。逆巻のシャアにも参加する予定だった(16話)



オーラを身に纏ったサイコ・ガンダムを操るフォウ(17話)



アムロを前に目のハイコロトと化したフォウはカミーユに接近する(18話)



フォウの口づけを前にして、アムロに近づくカミーユ(18話)



サイコ・ガンダムを操るフォウに新しい心身の決断をもたらす(19話)



サイコ・ガンダムのクォンズは突然、当初の人間になった(20話)



このエピソードは数回登場した中で最も悲しい(20話)



後援アイギアに登場するとガンダム、新機軸はアムロでMn-1

## EPISODE CHECK

に「正義」に見えているに過ぎない。本作の世界で描かれる戦争や正義もまた、現実と同様に、高度に発達した資本主義の中に取り込まれているというわけだ。そしてその特異なものは、物語の始まりから最後まで決して揺るがない。

こうしてジャブロー機動作戦は発動する。だが、エウゴがジャブローに降下した時、既にそこは移転中でもぬけの殻であった。エウゴの作戦は全くの空振りになったのだ。この不毛感こそ物語の繰り返しの一つだ。

## ホンコン・シティ、再び宇宙へ(17~20話)

宇宙へ帰還するためシャトルの発射場を求めて地上を転々とするカミーユたち。彼は、帰還のために立ち寄ったホンコンで、フォウ・ムラサメと、運命的な出会いをする。ここで、名前とアイデンティティの両面がドラマのモチーフとして正面から取り上げられる。そして、このくだりが本作前半の最大の山場となった。

フォウはムラサメ研究所に所属する強化人間だ。一年戦争のために記憶を失った彼女は、研究所内で4番目の強化人間であるためにフォウと名付けられた。彼女の最大の特長、それはカミーユと同様、自分の名前を嫌っていたことだ。

2人はどちらからともなく惹かれ合う。お互いに、望まぬ名前を付けられた自分をせめて自分で愛せるようになりたいと、もがいていたからだろう。2人は同じ魂を持っていた。

カミーユは自分を名づけた両親を既に亡くしている。それはカミーユにとって過去を自らの意思で清算するきっかけとなった。だから彼は、昔の記憶を取り戻したいと語るフォウに「思い出なんかこれから作ればいいじゃないか」と言葉をかける。

だが、フォウはその言葉に素直に頷かない。彼女の過去は戦争によって強制的に奪われている。彼女を取り戻したいと望む彼女の記憶は、同時に自分自身の本当の名前、本当の姿のことである。それは、彼女が「強化人間」を偽物であると強く思っていることの裏返しだ。

偽物の自分がいくら新しい思い出を描き重ねても、それは偽物の思い出でしかないのではないかと、でも、偽物の自分を捨ててしまえば、今度は本当の自分を重ねていくには、まず本当の自分を取り戻さなければならない。新しい思い出も求めようとすればするほど、過去にこだわらざるをえない。そんなパラドックスがフォウを苦しめている。だからフォウは、カミーユとその悩みを共有しながら、最終的にその苦悩は癒やされることのない。

これが2人の別離の原因となった。

フォウの乗るサイコ・ガンダムと戦うカミーユ。カミーユは戦いの合間に、彼女にうちつける。両親を恨んでいたこと、自分の女みたいな名前が嫌だったこと、だから男の証明がほしかったこと……。そんなカミーユにフォウは尋ねる。

「今でも、カミーユって名前、嫌い?」

好きさ、自分の名前だもの」

「そう……お互いの居場所に戻りましょう。ここはあなたにふさわしくないわ」

そしてフォウは、自らバラタックスの中へと改めて身を投じ、カミーユは宇宙へと帰還する。

やがて2人はキラマンジャロで再会することになるが、その時のフォウは激しく強化されたために、既に身体の自分すらも失っていることになるのだった。

## 愛情と真切りの約束 (21~31話)

月面のフォン・ブラウン市を制圧する「アポロ作戦」を発動したティターンズ。その作戦に前後して、新型モビルスーツの登場などと相まって、戦況はさらに激化していく。その過程で、前半では顔見せ程度に登場していたバブテマス・シロッコが存在が大きくなり、カミーユたちへのし掛かってくる。

彼はこの時点から自らの野心を明らかにし、ティターンズの権力を掌握しようと動き始める。戦艦ドグ・ギア1隻による鮮やかなフォン・ブラウン市の制圧劇は、彼の戦術家としての才能を示すものだ。だが、彼自身の野望は、ティターンズの創設者ジャミトフや指揮官バスクの持つ反スペースノイドの理念とは大きく違う。こうした作戦を見事にやっつけてくれるのはあくまで、ティターンズ内での自らの地位を向上させるという戦術の一環でしかない。決してティターンズの思想に共闘しているわけではない。

では、彼はティターンズを従えることで具体的に何を成そうとしていたのか。「私は私がいなければ時代が変わらないと信じているに過ぎない」「常に世の中を動かしてきたのは一握りの天才だ」という彼のセリフから推察するに、自らは歴史の表舞台に立つことなく人類の変革を行おうと目算していたようだ。そしてその動機は、権力への志向というより、地球圏の信託を一切を破壊しようとするニヒリズムではなかったのだろうか。

彼は彼の周囲の女性も、彼が望む社会の理想を明確には語っていない。彼が女達に求めているものの正体が彼女たち心の空白を埋めることができるということ、そしてともにいればより大きな力が得られるという、難解的な内容である。

こうしてみると、彼の中に地球圏の権力の奪取というようなありきたりな理想像がないと考える方が、彼の行動は理解できるように思う。紫色のニュータイプの際は、此岸ではなく、あらゆる価値の虚妄が破壊された彼岸を見ていたに違いない。それは、人と人をつなぐことができるとする前作のクライマックスのために用意されたニュータイプの希望とはちょうどネガの関係になる。とすれば、最終回で彼がカミーユに倒されなければならない理由もまた明らかなのではないだろうか。

この読み解きが正しいかどうかは別にしても、彼の思う真実的な未来図は、いかに視聴者にも、登場人物達にも明がされなかったのは事実だ。

本作が、後半になるとわかりにくくなるのは、このようにシロッコの野望の行く先が



フォウの手によってカミーユのもとへと運ばれてきたZガンダム(21話)



ティターンズの奥野喜望江とバブテマスは最終戦の準備を怠らず(21話)



最終戦直前ティターンズの機動隊を見守るしかできないシロッコ(24話)



戦うに迷いながらも、カミーユの夢のセザン・キャプランなどを追う(26話)



「エイトに付き合え、話を聞く」マウアー(28話)



機上でのアキラとシロッコは、カミーユ「いいやいいや」(28話)



カミーユに告白しているセザン・カミーユは彼女と昔を交わす(31話)





前作としてアクシズを支配するハマーン。彼女はシャアに夢を見てはしなかったが(33話)



マリマシジャロ星で一歩動かし難化されてはたフォウ(38話)



バスタブに入リリラックスしたフォウは、カミーユの正統を感じる(39話)



カミーユの船と衝突し、シエルドの攻撃を防ぎ、フォウは脱出(36話)



シャアの裏切りに対し、ティターンズの一員にも動揺はする(37話)



自分の心の向きを断念してくる「カ」を求めてシエルドはティターンズへ参戦(38話)



中央サイトで、お花びのハマーン。彼女もミネバの家族を見て驚く(39話)

## EPISODE CHECK

見えないままに、戦場での一進一退ばかりが描写されることが一因であろう。それに合わせるように、前作の端々に見られた戦争に巻き込まれた市井の人々の生活もあまり描かれることはなかった。

### アクシズの波紋(32~39話)

ティターンズとエウゴの抗争が激化する中、ついにアクシズの旧ジオン勢力が地球圏へと解軍する。ザビ家の生き残りであるミネバ・ザビの旗政で、実質的なアクシズの支配者であるハマーンは、地球圏の内戦で漁夫の利を得て、ジオンの再興を行うとする。

このブロックでは、物語の前半で一度示された「現実認知の物語」「名前とアイデンティティ」という2つのモチーフが再度繰り返される。

前作では一年戦争の真の敵はザビ家だと何度も語られて。そしてそれは政治的な意味においてだけでなく、ニュータイプの本質でもそのようにとらえられていた。こうして絶対善がはつきりしていたのも、前作はハッピーエンドにたどり着けることができた理由の一つだ。

だが、本作で「正義」を担うのはエウゴは、シャアをパイプとして、あっさり旧ジオン勢力と同盟を結ぼうとする。この計画は失敗するものの、政治的な意味での正義など政治の都合でいかににも変わるという、「現実認知の物語」の見本のような展開となった。

またその後の展開の中でエウゴは、前作では決定的な悪意の発露として描かれたコロニーレーザーを最終的に手に入れ、それを決戦で使用する。ここでも、現実の中での善悪というものがいかに無根拠であるかを、エウゴは身をもって示すのである。



アーガマの子供、シントとクルと遊び、お花びの家族を見せるミネバ(39話)

「名前とアイデンティティ」のモチーフは、フォウの再登場した強化人間ロザミアに受け継がれた。真名はロザミアという偽名と、カミーユ(そっくりの「ミ」)の母であるという偽の記憶を与えられアーガマで育つ。大人っぽい顔立ちで、物語の前半では優秀な戦士として登場した彼女が、重鎮気味のカミーユをお兄ちゃんと呼ぶ姿は、狂気すら感じさせる。そして、フォウの時と同じく、彼女は本当の自分から分からなくなったまま混乱を抱えて、死ぬことになる。

### グリプスの戦い、そして(40~50話)

前作で描かれたニュータイプ像は、どれほどに現実が混乱しようとも、絶対正しいことは見失わない(例えば、真の敵を理解できる)力だと描かれていた。それは、前作を希望に満ちたハッピーエンドで終わらせた最大の要因の一つである。

だが、うってかわって本作のニュータイプは、どうであったらうか。カミーユは



## MOBILE SUIT Z GUNDAM

ロザミアが死んだ直後に、ファの言った言葉を反駁する。「ニュータイプも強化人間もなにもできないのさ……」。その通り。カミーユはそのニュータイプ能力で、ハマーンを「生きてはいけない人だ」と悟り、シロッコを「どこからいなくねれ」と拒否する。だが、彼はアムロのように人を救うこともできず、それ以上のことは何もできなかった。

ラストシーンにおけるカミーユの崩壊というの、もともとニヒリズムを克服できる能力がない人間が、カレフルに島し切ったその結末であつたのだろう。こうした描写だけ見れば本作では、ニュータイプという一種の超能力者を、本質的に否定してしまつたとすら思える。そしてそれは、テレビアニメとしてはいささか異色だが、「時代とはこうだ」ということを追求した物語のラストとしては当然の帰結だったのだ。



（大きな星がついたり消えたりしている——）カミーユは崩壊した。（50話）

こうして終了した本作は、さまざまな否定的な議論を呼ぶことになった。その理由は、まず先にも書いたように物語の観念的なわりにくさとカタルシスの欠如であつた。また、21話以降はエピソードが散発的になってしまい、たとえ悲劇に終わるとしても、そこへ向かつて物語のうねりを作ることには失敗しているのも事実だ。

こうした物語以外にも、当時のファンに不評だったものはいくつかある。ニュータイプが映画「幻魔大戦」風のオーラを身にまとうなどあまりに超能力者的に描かれたことや、死者の残留思念と思われる描写が頻出し、またそれを受けてモビルスーツがパワーアップするなどの展開は、リアルな作風であるべき「ガンダム」にはそぐわないとの意見もあった。

だが、これらのネガティブな点は、踏まえた上でも、近年再評価の声が高いのは事実だ。それは、単にモビルスーツが百花繚乱とその性能を競い合っているからだけではないだろう。

前作「ガンダム」が経過しても「空が落ちてくる」とコロニー落としにおびえるロザミア。これはPTSD（心的外傷ストレス障害、強いショックを受けた時に心に残った傷が起すさまざまな障害）という言葉が混同した今から見ると至極頷ける描写だ。また、正義の見えない内戦という題材もどちらかというと放送当時より、冷戦後の現在の方が強い意味を持って迫ってくるはずだ。そして、ニヒリズムというテーマ。

本作は早すぎた作品だったのだ。



カミーユを兄だと思い込まれたロザミア。強化人間ではないかとカミーユは疑う（40話）



ハマーンのZガンダム、キッペレイ、アプスに父事に向かう時の姿（43話）



アプスを監視艇として、ゼタンの門（ア・バオアーク）に近づける（48話）



シロッコ設計のMS、ザ・ノーマ・ザマーン、ジ・オ、バラス・アテナ（48話）



カミーユの目の前で死めエマ、彼女がカミーユに言葉を残す（49話）



「黄楯は私の手に世界を救しつづけている」とシャアに言うシロッコ（50話）



映画のあったときまで主人公の力を借りてシロッコに戦うカミーユ（50話）

## CHILDREN

◎機動戦士ガンダムZZ/少年たち

## フルアーマーZZガンダム

■Height 19.65m/Weight 87.2t

■Notes ZZガンダムの強化案として提出された装甲を軽減し、機動力を強化するという改良型構想の副産物として生まれた増設装甲、武装システム。これを装備したZZガンダムを「フルアーマーZZガンダム」と称する。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第46話

## ジュード・アーシタ

■Notes 第1次ネオ・ジオン戦争でZZガンダムに乗り、エースパイロットとして活躍した少年兵。もともとはサイド1のはずれにあるコロニー、シャングリラでジャンク屋を営んでいた両親不在の少年少女グループのリーダー格で、戦災で行方がわからなくなった両親にかわって妹を育てるため、義務教育そっちのけでグリップス戦役の影響で流れてきたモビルスーツなどの機体の修理にいそいそといた。たまたまそこにエゥーゴ船隊の艦艇「アーガマ」が入港したことで、アーガマとネオ・ジオンの追撃隊との戦闘に巻き込まれ、その戦後をつとめるブライト・ノアに見出されて、ZZガンダム。のちにZZガンダムのパイロットとして第1次ネオ・ジオン戦争を戦うことになった。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第1話

## リナ・アーシタ

■Notes ジュード・アーシタの妹。自分のために無理をし、無軌道な行動をとる兄のことを気遣い、自分たちのシャングリラでの生活の将来性に限界を感じていたこともあって、兄たちをアーガマに乗せるために一役買う。兄が自由奔放すぎるため、そのフォローのために導育的な部分が強く出る傾向があるが、根は気が強く、頑固さではシュートにひけをとらない。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第1話

## コア・ファイター

■Notes ガンダムMk-IIやZガンダムではオミットされていたコックピットを戦艦機として独立運用できるコア・ブロック・システム。ZZガンダム開発計画ではこれを再評価し、採用しながら、変形システムにより、巡航形態をとることが可能な機体として開発がすすめられた。機体の性格上さほど重武装ではないが、軽騎射としても扱いやすい機体で、予備パーツとしての意味もあり、多数生産された。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第11話

フルアーマーZZガンダム

ジュード・アーシタ

コア・ファイター

リナ・アーシタ

コア・ベース



## コア・ベース

■Notes ZZのパーツ上半身と手持ち武器であるミサイルメガビーム・ライフル、コア・ファイターの組み合わせで形成される戦闘機。運動性がよくこの形態でもそこそこの攻撃力を持つ。この形態で機首となるライフル側にもコクピットが設けられており、コア・ファイター、ライフル、いずれからでもコントロールが可能。ただ、ライフル側のコクピットはZZ変形後は手持ち武器になるため機首に居住性が悪い。

First Appearance: 機動戦士ガンダム ZZ 第11話

## Gフォートレス

■Notes ZZガンダムの近接形態。スラスター、ノズル類が後方に集中し、火器が前方に集中する形態であるため、長距離近接戦、敵艦等への強襲といった用途に適する。コア・ベース、コア・トップGフォートレスの3形態により、ZZガンダムは非常に高い運用能力を獲得することになった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム ZZ 第11話

## コア・トップ

■Notes ZZのパーツ下半身とコア・ファイターの組み合わせで形成される量産型。内蔵武器とスラスターが集中するパーツがメインとなるため、加速力と火力に優れる。かつてのコア・ブースター的な使い方が想定されていたと思われる機体で、そのぶんバランズもすぐれる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム ZZ 第11話

## ZZガンダム

■Height: 19.86m. Weight: 32.7t

■Notes エウロコがZZガンダム開発のノウハウを基に大型化、量産化がなされたモビルスーツの流れに合わせた次世代のモビルスーツとして開発された量産型のモビルスーツ。量産後、量産甲と高い移動能力を両立するために近接形態への変形システムが採用され、バレットの生存率を高めるためにコア・ブロック・システムを再度採用。この二点の画期的なものではあるが、Aパーツとコア・ファイター(コア・トップ)、Bパーツとコア・ファイター(コア・ベース)という組み合わせでの運用も可能となった。こうした設計のおかげもあり、火力、機動性、運用性、移動能力などいずれもトップクラスにある、当時「最強のモビルスーツ」の名に恥じない機体ではあったが、生産性は悪悪で、量産化プランや改良型のプランがいくつか存在するにもかかわらず結局は見送られている。モビルスーツクラスの機体としては前例的にハイメガキャノン内蔵武器として持つが、さすがにエネルギー消費が激しいため、連射はできない。

First Appearance: 機動戦士ガンダム ZZ 第11話

## ガンダム・チーム

■Notes シャングリラ入港当初はグリス戦役での被害が大きく、アーガマでは、パイロットは精神療養を起こしたガミー・ビタンを除けばフア・ユイリのみを残し全滅。モビルスーツはZガンダム小隊、ガンダムMK-II半壊という状態でもともに実働可能なモビルスーツはメダスのみといった有様だった。シャングリラでZガンダムを修理したのち、ラビアンローズからの増援によりZガンダムを搬入、ガンダムMK-IIを実働可能とし、グラナダで正式を搬入して、他に類を見ないガンダムタイプのみモビルスーツ部隊が編成された。これをガンダム・チームと呼ぶ。



ガンダム・チーム

## エル・ビアンノ

■Notes シャングリラコロニーでのジュード・アースタのジャンク屋仲間で、おもに情報収集担当。強気な性格と早熟なお色気からコロニー管理局などから濃密ジャンクの情報を入手し、ジュードやビーチャにその情報を流して彼らがサルベージしたジャンクの代金から分け前をもらっていた。アーガマ脱走後はおもにガンダムMK-IIのパイロットとして活躍。

First Appearance: 『機動戦士ガンダムZZ』第3話

## イーノ・アッパーブ

■Notes メガニックに詳しいジュードの親友。ジャンク屋時代はフア・モビルスーツで直接サルベージするジュードのバックアップをつとめる重役の相棒だった。真面目な性格でアーガマでの厳しい生活にもすぐに順応するが、その仲間思いのやさしい性格からビーチャとモンドの真打ちの群をかぶってしまう。

First Appearance: 『機動戦士ガンダムZZ』第1話

## ビーチャ・オレグ

■Notes 少年ジャンク屋仲間では最年長で、モンドとふたりで仲間の稼ぎを仕切り、そのうまいまえをはねのけるを常とするこっけい少年。ジュードたちが引き上げたヤザンの脱出ボートに対し、前によって自分たちの権利を主張しようとしたところ、生きて出てきたヤザンにつかまってアーガマ襲撃の片棒が担がれ、この事件でジュードをスカウトすることになったブライトにくどれ早々とアーガマ脱走を志願する。のちにアーガマをネオ・ジオンに売ろうとしてネオ・ジオンにつくが、けっさよくコキ使われるのに嫌気がさしアーガマに戻る。

First Appearance: 『機動戦士ガンダムZZ』第1話



モンド・アガゲ

MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

# CHILDREN

●機動戦士ガンダムZZ/少年たち



## モンド・アガセ

■Notes: ジュドーのジャンク屋仲間のひとり。ピーチャの相棒。ピーチャ同様こすっからい性格で、アーガマの実態を知っているのはピーチャとともにネオ・ジオン側に属するが、そこでの待遇に嫌気がさし、アーガマへ帰還。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第1話

## ネエル・アーガマ

■Notes: ネオ・ジオンのコロニー落とし阻止のための攻防戦で破滅し、半壊での航行に不意になったアーガマにかり、ジュドーたち少年ニュータイプ部隊に与えられた第2の乗組。主眼としてハイ・メガ粒子砲を駆使している。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第37話

## メガ・ライダー

■Notes: アナハイム・エレクトロニクスが開発したモビルスーツサポートメカ。一年戦争時におけるドガイなどのモビルスーツ運用用の機体に、グリプス戦役で正式が配備された外付けメガランチャーの機能を持たせようとしたもの。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第19話

## ルー・ルカ

■Notes: エウゴのモビルスーツパイロット。アーガマ支援のため派遣されたドッグ屋ラビアンローズからの使者としてシャングリラに赴き、アーガマのクルーと合流する。少年パイロットたちの中では唯一のエウゴ正式メンバーであり、そのせいであってジュドーたちに対して保護者的に接する部分もあったが、戦いの中で次第にジュドーに惹かれていく。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第7話

## ブライト・ノア

■Notes: 一年戦争の伝説赤い白ベースの指揮官をつとめたアーガマ艦長。シャングリラで出会った少年ジュドー・アースタにアムロ・レイやカミーユ・ビダンに似たニュータイプとしての資質のようなものを感じ取り、彼をZガンダムのパイロットへと誘う。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話 / Other Appearance: 機動戦士Zガンダム、機動戦士ガンダムZZ、機動戦士ガンダム 逆襲のシャア。

## カミーユとファ

■Notes: カミーユ・ビダンはグリプス戦役最終局面でZガンダムでバブテマス・シロッコを倒すも、シロッコの致命の影響をもちに後遺症を罹患。ファ・ユイリィはジュドーらシャングリラの少年たちを迎え入れると、カミーユとともに生きるためにアーガマを離れた。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第1話 / Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ



## ヤザン・ゲートル

■Notes グリプス戦役で活躍したティターンズのエースパイロットのひとり。グリプス戦役の最終局面でも乗機を完全破壊されたから仕方なく脱出し、シャングリラコロニーに流れついたところを教団ボッドことジュード・アシアによってサルベージされる。ティターンズの破壊とネオ・ジオンの侵襲を知り、行動態度をサブイバルに切り替えた後はアーガマ連合のニュースを知って。エーゴへの革命道しるめのために少年たちをそそのかしてZガンダム奪取を強う。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム、第24話



ヤザン・ゲートル



ゴットン・ゴー



チャラ・スーン

## ゴットン・ゴー

■Notes ネオ・ジオン海洋艦エンドラの副官。マシュマー、セロ、チャラ・スーンというなぜか奇人ばかりが派遣されてくる上官に振り回される典型的な中間階級。本人は実面で有能な実戦指揮官であり、度々アーガマに遠征攻撃をかけて艦を窮地に陥れた。

First Appearance: 機動戦士ZガンダムZZ、第2話

## チャラ・スーン

■Notes アーガマ遠征に度々失敗するマシュマー・セロに対するお目付け役としてエンドラに派遣されたネオ・ジオンの女性士官。乗機のモビルスーツパイロットでもあるが精神科医に問題を抱えており、モビルスーツに乗ると人格が豹変。極端に攻撃的になるためモビルスーツに乗ることを嫌う。マシュマーがハマーンによって派遣されてのちはエンドラの艦長となりアーガマ遠征を断行。

First Appearance: 機動戦士ZガンダムZZ、第10話

## R・ジャジャ

■Weight 20.0m, Weight 36.4t

■Notes チャラ・スーンの専用機として彼女がエンドラに持ち込んだモビルスーツ。一年戦争時のゲルグクの機体デザインをベースにビーム兵器の使用を前提としてプラスしたような機体。当然機動性も大幅に強化されており、白兵戦用というよりは万能型の機体になっている。

First Appearance: 機動戦士ZガンダムZZ、第10話

## マシュマー・セロ

■Notes ハマーンの命でサイド1への降伏勧告のためシャングリラに派遣された。海洋艦エンドラの初代艦長をつとめる青年士官。ハマーンに心酔しており、常に彼女に付与されたバラの花を胸にしている。ハマーン真面の部下ではあるが、実戦経験は無いに等しく、トンチンカンな指示を出しては部下のゴットン・ゴーを悩ませる。

First Appearance: 機動戦士ZガンダムZZ、第2話

MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

# RAIDERS

機動戦士ZガンダムZZ/侵入者たち



エンドラ

マシュマーセロ

## ガルスJ

■Height: 19.5m / Weight: 52.7t

■Notes マッシュマー・セロが実験機を任された遠征艦エンドラは、量産化機体の実働テストのために多数の試作モビルスーツを搭載していた。これはその1体であり、グフ的な重装甲の白兵戦用モビルスーツを目指して開発された機体。汎用性よりは一言を重視した機体だが、意外なバランスのよさを発揮したためにちに量産化された。ただ、白兵戦用の機体としては内蔵武器が多いため重量が重く、機体も大きくはなってしまうことがやや欠点となっている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第3話

## ズサ

■Height: 15.0m / Weight: 23.2t

■Notes エンドラ艦載の試作モビルスーツの1体。支援用メカと組み合わせての運用を検討するため作られた合体可変モビルスーツ。ブースターポッドに多数のミサイルを積み、その機體を使った、強襲や支援を目的とする。のちにこれも量産。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第5話

## ハンマ・ハンマ

■Height: 21.5m / Weight: 40.3t

■Notes 一説にはハーマン・カーン専用機として開発されたともいわれる試作機。多数のスラスターを内蔵し、宇宙戦での圧倒的な機動力と胸に内蔵の有線式ビーム砲でのオールレンジ攻撃が開発の最大ポイント。手持ち武器のヒーム内蔵シールドは第2次ネオ・ジオン戦争時のヤクト・ドーガに受け継がれている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第10話

## ゲゼ

■Notes: グモン・バジャックの手によるシャングリラの作業用モビルスーツ。本来は解体作業などのためのもので、作業用の4本のアームを持ち、胴体部にシールド一周する外付けコクピットがつくことで機体前後の区別無く作業状況を確認できる。大ききめにはミドル・モビルスーツ程度のものだが、その作業用途のため手でもそれなりのパワーは有する。グモンの手で2機生産されている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第4話

## グモン・バジャック

■Notes シャングリラのジャンク屋。回収したジャンクを流用してハンドメイドで作り上げたモビルスーツ「グゼ」を持ち、ネオ・ジオンに恩を売るためにエンドラのマッシュマーに協力を申し出る。所詮は作業用、Zガンダムの敵ではないのだが、その後モヤザンと組んでアーガマ出航を阻止しようとする。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第4話

ハンマ・ハンマ

ゲゼ

グモン・バジャック



MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

# ETRANGER

◎機動戦士ガンダムZZ/異邦人

## ミリー・チルダー

■Notes 月のアナハイム・エレクトロニクスからアーガマに補給物資を運んできた技術者。開発を担当したメガライダーの故障のために同行していたが、輸送ランチごとネオ・ジオンに捕獲され、アーガマに対する農として利用されてしまう。自身の機転でこの危機を脱して以降はラビアンローズにメカニックとして同行。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ/第16話

## エマリー・オンス

■Notes エコーゴ所属の技術士でドッグ艦。ラビアンローズの艦長を任されている。艦内で密かにZガンダムに続く新型ガンダムの開発をすすめており、これをアーガマに引き渡し、備ったアーガマの修理をおこなうためにサイド1周辺海域まで艦を移動。そのことをアーガマに伝えるためにルー・ルカをシャングリラに派遣した。有能な技術者であり、指揮官だが、不偏不党があるらしく重荷者のブライト・ノアに(一方的な)想いを寄せる(が、あまりまともに相手にされない)。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ/第11話

## ラビアンローズ

■Notes エコーゴ所属のドッグ艦。もともとアナハイム・エレクトロニクスが自社製品の開発研究のために開発したもので、複数の艦艇やモビルスーツの修理機能を持つ巨大艦。グロブス戦時降からアーガマにとっては移動基地のような役割を果たしており、その現状を復讐者。

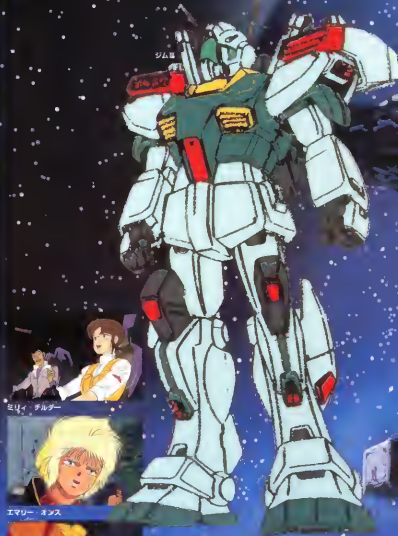
First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第34話/Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ/機動戦士ガンダム0083;

## ジムⅢ

■Height: 18.06m/Weight: 38.6t

■Notes カラバがエコーゴやアナハイムの技術支援を得て開発した最新型モビルスーツ。ジムⅡをベースにガンダムMk-Ⅱの駆動系やジェネレーターなどを取り入れ、そのために増加した出力の余裕を利用してビーム兵器の高出力化やオプション機銃の充実などを実現している。その機体の性能からバックパックはガンダムMk-Ⅱとほぼ同型。ジム系には珍しく2本のビームサーベルを持ち、外づけの追加腕として両腕にミサイルポッド、腰部のマウントラッチにミサイルランチャーの装備が可能。外見的にはジムはより若干カメラが小さくなっている部分が特徴的か。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ/第32話





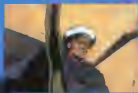
ディザート・ザク



ジオン戦役



サラサ&ラサラ



ロンメル

## ジオン残党

■Notes 一年戦争後、ジオンの地球降下作戦の失敗とその後地球圏からのジオン勢力撤退によって、多数のジオン兵が地球へと取り残されたまま地下に潜り、抵抗活動を続けることになった。特にアフリカ大陸では「戦後」もこうした「隠れジオン」がかなりの数取り残されていた。

## サラサ&ラサラ・ムーン

■Notes 衛星群に隠れその存在が忘れられていたコロニー。ムーン・ムーンを宗教的に統治する神官サラサ・ムーンとその女子の娘で、コロニー外の状況に目を向けない姉を批判的に見るラサラ・ムーン。彼女らはたまたま訪れたアーガマとエンドラの争いに巻き込まれ、外の世界での戦争の実態を知る。

First Appearance: 『機動戦士ガンダムZZ』第14話

## ロンメル

■Notes 『ジオンの地球撤退に間に合わず、砂漠に潰れ続けたジオン残党部隊を率いる指揮官。アクシズに占拠されたダカール資源のために密かに砂漠を彷徨するガンダムチームを倒すために一年戦争当時の機体を集めた残党部隊を率いてガンダムチームを襲撃する。

First Appearance: 『機動戦士ガンダムZZ』第25話

## ディザート・ザク

■Height: 18.5m/Weight: 44.7t

■Notes 一年戦争時のジオン公国用主力モデルスーツ「ザク」を砂漠での戦闘用に徹底的にカスタマイズしたもので、動力配や関節部に防塵用のシーリングが施され、砂漠での移動をスムーズにするため関節にホバーを添設。

First Appearance: 『機動戦士ガンダムZZ』第25話

## ドワッジ改(ロンメル用)

■Height: 18.2m/Weight: 43.5t

■Notes ドワッジを士官用にさらにカスタマイズしたタイプで通常型よりも機動性を強化。関節に加速用ブースターをつけたことで純粋なホバー移動スピードを倍加させ、ジオネレーター出力強化の恩恵を受けて拡散フィールドが一段強力なものになっている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダムZZ』第25話

## ドワッジ

■Height: 18.2m/Weight: 43.5t

■Notes 一年戦争時にアフリカ戦線向けに配備されたドムの砂漠仕様仕様。『ドワッジ』の名はドムの最終生産型に与えられたコードネーム。通常型に比べ、関節へのシーリング、燃料タンクの追加、関節機構の強化などが主な相違点。

First Appearance: 『機動戦士ガンダムZZ』第25話

ドワッジ改(ロンメル用)

ドワッジ

## BLOOD AND RACE

◎機動戦士ガンダムZZ/血と民族

## 青の部隊

■Notes ジオン解放によって政治的混乱状況の続くアフリカ大陸で、民族解放の理想を遂げる活動するケリラ部隊。シオン公園の置き土産である、戦場から回収した旧シオン系モビルスーツをメインに部隊を編成し、すべての機体を青一色で統一することで自己アピールしている。地球環境の破壊や過激的な生活状況を憂わない選別政府に対する反発はアフリカでは大きく、彼ら以外にも数多くのケリラが活動している。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第30話

## アイザック

■Height: 18.0m/Weight: 41.6t

■Notes 選別軍の量産型モビルスーツ「ハイザック」の電子装置を強化し、強行偵察型に改修した機体。「アイザック」は通信・探知に巨大なレドームを装備し、背面にカメラボットを装備している。本来は宇宙での戦闘のためにつくられた機体だが、地上でも使えないことはない。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第30話

## カプール

■Height: 18.2m/Weight: 41.5t

■Notes ネオ・ジオンが地球侵略のために開発していた水陸両用モビルスーツ。アッガイなどの旧シオン公園モビルスーツのデータのみをもとにアクシズで開発されたため、実際に地球での運用で問題が生じることが懸念されたが、実運用では想像以上に高性能な機体であることが判明した。水中移動時には手足を折り込み球体に近い移動形態をとる。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第24話

## ディドー・カルトハ

■Notes アフリカ民族解放戦線「青の部隊」の隊長。自家から設立したネオ・ジオンの専横グレイマー・トートを破壊で扱い、自分たちの理想を語る。ガンダムチームとの遭遇戦で傷つき倒れ、その最期を看取ったことでクレミーは自分の「血」に殉じることを決意する。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第30話



ディドー・カルトハ



ラカン・ダカン



グレミー・トト



ドライゼン

## ラカン・ダカン

■Notes: 前作での戦術を好む武士タイプの新オ・ジオン士官。本家あまり政治的関心の無い人物だが、地球圏侵襲以降、外交重視の政策をとるハマーンにちょっとしたイラつきを感じており、ジオン守旧派とともに反乱に商討する。強化人間やニュータイプにどちらかといえば否定的。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第22話

## バウ

■Height: 18 5m Weight: 34.7t

■Notes: 第1次ネオ・ジオン戦争でネオ・ジオン側が、エゥーゴのZガンダム、ZZガンダムなどのガンダム系モビルスーツの設計を参考に開発した可変モビルスーツ。分離して上半身がバウ・アタッカーという攻撃機に下半身がバウ・ナッターという戦艦機に変形するが、コクピットは固定。コア・ブロック・システムも搭載していないため、バウ・ナッターは無人機としてバウ・アタッカー側からコントロールされる。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第15話

## グレミー・トト

■Notes: 一親により旧ジオン公国、デギン・ザビ公王の庶子であるとも、ギレンのクローンともいわれるネオ・ジオン将校、そして反乱者。自らの出生の秘密を隠してネオ・ジオンの軍組織に潜入し、実戦指揮の中で次第に頭角をあらわす。クロニングや強化人間の技術を用い、独自の人工的な「ニュータイプ脳」を用意し、これを切り札にハマーン・ガンへ反旗を翻す。エゥーゴとの三つ巴の戦いで戦死。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第9話

## ドライゼン

■Height: 22 0m Weight: 36.7t

■Notes: ネオ・ジオンがリック・トムの設計思想をベースに新開発した重戦型モビルスーツ。重装甲と高い機動性の両立というビジョンが実現されている。開発時期にネオ・ジオンの地球降下作戦が企画されていたために、宇宙戦のみでなく陸上での行動に必要な機能も追加されている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第23話

## ドバーン・ウルフ

■Height: 22 0m/Weight: 36 8t

■Notes: ネオ・ジオンが新開発したサイコガンタムのデータを基に「強化人間やニュータイプでなくても扱えるサイコミュ技術搭載機」を目標に開発した一種の実験機。インコムなど疑似サイコミュ兵器を搭載し、大火力と高い機動性を兼ね備えたモビルスーツ。両腕は熱線砲向けの機体で、エースクラスのパイロットでなければ乗りこなすことは難しい。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第44話

MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

# THE REINFORCED

機動戦士ガンダムZZ/強化人間

## エルビー・ブル

■Notes: ネオ・ジオンが連邦から手に入れた強化人間の技術とクローニング技術によってつくられた。「人工的なニュータイプ」のプロトタイプであるらしい少女。アクシズで戦死のためだけに作りだされ育てられていた彼女は自分の戦死からの解放を求め、偶然出会ったジュドー・アースタに自分と共闘するものを感じ、彼にすがろうとする。その不幸な出生に比べ、明るく人間的な温もりを持った少女だが「もうひとりの自分」との対決により死す。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第17話

## キュベレイMk-II(ブル用)

■Height: 18.4m/Weight: 35.2t

■Notes: エルビー・ブルのために用意されたネオ・ジオンのニュータイプ用モビルスーツ「キュベレイ」の実質的な2号機。ニュータイプ用の機体はサイコミュ搭載の關係でその振動/バイロットに合わせて調整するため、この機体は、ブル専用。赤く塗られ、サイコミュでの遠隔操作が可能なブルツ用の3号機も存在する。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第17話

## ブルツ

■Notes: グレミーが用意していたおそらくエルビー・ブルのクローンだと思われる少女。育成段階から精神調整を受けているため、性格はブルの姉に対して、冷静で非情な戦闘マシーンである。しかし、ブルを救えなかった無念さから必死に彼女を救いから解放しようとするジュドーに最終的には心を開いた。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第32話

## サイコ・ガンダムMk-II

■Height: 39.98m/Weight: 187.8t

■Notes: ネオ・ジオンがティターンズの研究所から奪取したサイコ・ガンダムMk-IIの部品を組み上げた機体。グリプス戦役時にロザミア・バダムの手で起動したものとまったく同一。この機体から得た情報をもとにネオ・ジオンはクイン・マンサを策定した。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第46話

Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ

## ザクⅢ改(マシュマー用)

■Height: 18.5m/Weight: 34.7t

■Notes: バランスと汎用性を重視したため、逆に出た部分がない機体になったザクⅢを、強化人間マシュマー・セロの乗機とする際に彼の能力に合わせた適応的なカスタマイズしたもの。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第42話

ブルツ

キュベレイ(ブル用)

エルビー・ブル

ザクⅢ改(マシュマー用)



サイコ・ガンダムMk-II

ゲーマルク



## クイン・マンサ

■Height 34.2m/Weight 143.2t  
 ■Notes: 通用が強化人間用に開発したサイコミュ兵器「サイコ・ガンダム」シリーズの技術に基づいて、ネオ・ジオンが最強のサイコミュ兵器として作り上げた巨大モビルスーツ。多数のファンネルとハイメガキャノンと同時に構み、そのうえビーム兵器を受け付けないという鬼神のような攻撃力を有する。強力なサイコミュが搭載されており、パイロットには強大な精神力が必要

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第44話

## ゲーマルク

■Height 22.0m/Weight 46.3t  
 ■Notes: ネオ・ジオンがサイコ・ガンダムから得た技術を導入したサイコミュ搭載モビルスーツで、完全な火力重視型の機体。2段階に分離するファンネルシステムを持ち、ハイパーメガ粒子砲を主砲として搭載。機動性は若干鈍いがオールレンジ攻撃とガスR、ガスRとのフォーメーションでカバーする。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第40話

## ガスエル

■Height 19.0m/Weight 40.5t  
 ■Notes: ネオ・ジオンが「ガルバリディ」を基に開発した機体。Zetaガンダムにも搭載されているヒームスーパーライターのビームランチャーが固定武装として追加されている他、機動力も強化されている。ガスR、ゲーマルクとの3機編隊での運用を念頭に開発された。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第40話

## ガスアル

■Height 19.0m/Weight 40.5t  
 ■Notes: ガスエルの兄弟機。基本的には同一の機体だが、パイロットの違いで若干チューニングが異なる。外見上の相違点はカラーリングと肩の張り出しがつく位置の違い。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第40話

## リゲルグ

■Height 21.0m/Weight 43.7t  
 ■Notes: 1年戦争時のゲルグクを基に開発された高機動用の実験機。両肩にウィング・バインダーを装備し、高い機動性を持つとともに、大型バックパックを装備して実験行動時間が大幅に増加している。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第37話

## イリア・パゾム

■Notes: ハマーンの命で強化されたマシュマー・ゼロにつけられたお目付け役。おそらくはニュータイプ研究所の研究員だろうと思われる。強化と精神改造により精神的に不安定な状態のマシュマーを補正し、彼が最悪のコンディションで戦えるようにすることをその任務とする。そのため自らもモビルスーツに乗って戦術に参画するが、常に一歩引いた冷静な視点で戦局を見る。マシュマー戦死後の行方は不明。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第37話

クイン・マンサ

ガスエル

ガス

リゲルグ

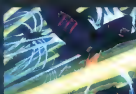


イリア・パゾム

MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

# NEO GEON

○機動戦士ガンダムZZ/ネオ・ジオン



量産型キュベレイ



キュベレイ

## 量産型キュベレイ

- Height 18.4m / Weight 35.2t
- Notes: グレミー・トクが密かに開発していたネオ・ジオンの象徴ともいえるニュータイプ専用モビルスーツ「キュベレイ」の量産機。パイロットに合わせて調整が必要なニュータイプ専用機を量産できたのは強化人間の技術とクロニンガを組み合わせた。同一の精神パターンを有する「人工ニュータイプ」をパイロットとしているため、要はパイロットごみでの生産機。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第46話

## キュベレイ

- Height 18.4m / Weight 35.2t
- Notes: ネオ・ジオンの指導者ハマーン・カーンの乗るオリジナルのキュベレイ。ネオ・ジオンの象徴としてハマーン自らが搭乗し、第1次ネオ・ジオン戦争ではその最終局面で一度だけ出撃。パイロットの能力に大きく左右されるのがニュータイプ専用機であり、この戦争でもやはりハマーンの機体は際立った強さを見た。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第3話

Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ

## ハマーン・カーン

- Notes: ネオ・ジオンの指導者ミネバ・ザビの境見人を自衛するニュータイプの女性。グリプス戦役でのティターンズ、エゥーゴとの三すくみの抗争でもっとも多くの戦力を遣わせ、戦乱後の復興、復興した状況を利用して本格的な地球圏制圧を開始する。圧倒的な軍事力を背景に、もともと優れた統合能力を失いつつあった地球連邦政府を倒壊し、サイド3の確保などを図る。シュート・アサキとの戦いのためにはじめて自らモビルスーツを駆り、その戦績で生死不明となる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第8話

Other Appearance: 機動戦士ガンダムZZ

## ザクⅢ

- Height 18.5m / Weight 34.7t
- Notes: 一年戦争時にジオン公国の象徴的な存在であった汎用型量産モビルスーツ(ザク)。地球圏下作戦実施にあたりその設計思想を踏襲し、その名を留したモビルスーツを、という声に答える形で開発されたネオ・ジオンの量産型モビルスーツ。ザクの本質とその汎用性を捉え、可能な限り機体各部をモジュール化、そのパーツ交換であらゆるシチュエーションに対応できるモビルスーツにしようとしている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第35話



ザクⅢ

ハマーン・カーン

ザクⅡ



## サダラーン

■Notes クワダ、クワパンに続くネオ・ジオンの艦隊旗艦。地球降下作戦実施にあたって新たに開発とされたもので、ハリュートシステムによる大気圏突入能力。大気圏内での航行能力を持つ。前2旗艦よりも小型だが武装は過不足なく充実しており、指揮能力も高い。ただ、自体で圧倒するというような顕著的な意味性は薄くなっている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第18話

## ミネバ・ザビ

■Notes ドズル・ザビの遺児。ネオ・ジオンの形式的な総帥で、ハマーン・カーンの被後見人。ジオン殘党が小惑星帯に追いやられてからは常にその結束の象徴となってきたが、一般にはグリプス戦役でシャアの手で何処かへ連れ去られたともいわれ、第1次ネオ・ジオン戦争でハマーンが暗行したのは影武者だともいう。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第35話

Other Appearance: 機動戦士Zガンダム

## ジャムル・フィン

■Height 15.0m/Weight 24.7t

■Notes おそらくはハンブラビなどの連邦軍可変モビルアーマーシリーズにヒントを受けて開発されたと思われるネオ・ジオンの可変モビルアーマー。胴体部に高出力のメガ粒子砲を搭載し、その火力を生かすことを基本につくられている。基本的にオプションのブースターを使った強襲用の機体で格闘戦形態はおまけに近いが、軽量化でスピードがあるためそこそこ戦える。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第38話

## ガザロ

■Height 17.0m/Weight 28.7t

■Notes ガザロの正統的な後継機。変形機構もガザロ同様で作業ボッドのような独特のモビルアーマー形態に変形する。外観上の最大の相違点は両肩に追加されたミサイルポッドの有無。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第6話

## ガ・ゾウム

■Height 18.0m/Weight 31.6t

■Notes 本来ガザビとして設計が開始されたが、テスト段階でのポテンシャルの高さから別な機体名称が与えられたという経緯を持つネオ・ジオンの重機。ガザシリーズとの最大の相違点はそのモビルアーマー形態の位置付けで、ガ・ゾウムの場合は格闘戦能力よりも移動力を重視した遊撃形態に近いものになっている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムZZ 第17話

## セイラ・マス

■Notes 一年戦争時のホワイトベースクルーのひとり。一般にはシャア・アズナブルの妹ともいわれる。現在は事業を営み、故郷で訪れたダブリンで偶然リィナ・アーシタと相遇する。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance: 機動戦士Zガンダム、機動戦士ZZガンダム





ジューはいきなりZガンダムに乗り込み、それを操縦してみせる(2話)



ジューとちはZガンダムを操縦して奮いしようとしたのだ(2話)



両腕が不斉で、リイを操縦するため、シャングリの販売はやめられない



ハマーンからもらったハムを大切にしているエンデルの機主マシュー(3話)



ルーは、ラビアンローズからコア・ファイターを選んでくる(7話)



R-ジェットはギョウの機体機という設定のMSだ(12話)

## EPISODE CHECK

本作は、Zガンダム の終了後に放送された直接の続編となっている。

だが、その作風は大きく違った。子供達がいとも簡単にモビルスーツを扱い、子供っぽい動機で戦闘を繰り広げる当初の展開は、正直に言ってガンダムと呼ぶのものは「かられるような、幼稚な印象」だった。はっきりいえばこの作品は、ガンダム・シリーズの中でも稚子のような存在なのである。

だが、それからもう13年が経過した。一視聴者としての僕は、この作品について欠点を指摘することはとうに飽きてしまった。むしろ、欠点は欠点として認めながら、純粋に作品を見直すことで、本作がどのようなルールでできていたかを改めて考え直すことのほうが、かえってガンダムとは何かを考えるきっかけになるのではないかと感じている。そこには、現在放送中の「Vガンダム」へとつながる連続性も感じられるはずだ。

では、本作は一体どんなガンダムだったのか。それは「ガンダム」というのは結局、巨大ロボットじゃないか」という問い直りにも似た、ロボットものとしての原点回帰を強った作品だったと言える。熱血漢の少年、合体変形するメインメカ、といった要素は、そう考えると至極当然な方法論であっただろう。また、前作以上に登場するパラエティ豊かなモビルスーツやMSVの数々も、かつてのロボットアニメに登場したヤラレメカと同様であると考えれば納得がいく。

では、なぜ原点回帰する必要があったのだろうか。その目的は、ドラマに活力をもたらすことにあったのだろう。前作で観念的になり袋小路に入ってしまった観のあるドラマを、かつてのロボットアニメの構造を持ち込むことで、フィルムの本来持つエンターテインメントの世界へと引き戻そうとしたのだろう。

確かに、前作の世界観をそのままに、力技によって原点回帰を果たそうとしたために、いかにも本に竹を挫いたような印象が漂っているのは否めない。だが、現在見直してみると、欠点以上に気が付かされるのは、スタッフの悪意かどうかは別にして、本作は本作なりに一つのまとまった物語になっていたという事実だ。

## ダブルゼータの鼓動(1~11話)

サイド7シャングリラに旅と住んでいる14歳の少年ジュー・アーク・ランバ。やカミューと打って変わったその明朗快活な性格や、2人よりも年少に設定されたことばかりが強調されている。だが、一番重要なのは物語を通じて彼の両親が登場せず、親代わりをする人物も現れないという点ではないだろうか。

「ムロやカミューにとって、両親とは一種の檻であった。彼らは両親への反発心をきっかけとして、世の中の仕組みを知り、人生の経験を積むことになった。だが、ジューの両親は出稼ぎにいったきり行方不明という設定。そしてジューは、この設定以上に両親については語っていない。ジューの家庭は、不仲だったとも、円



アーガマに乗り込むことになったジューの母親達。なぜか本作の冒険が描かれる展開



満ちたとも描写されず、ただ両親の不在だけが示されるのである。

この設定となったのは前作とカラーを変えようとした結果だろう。ジュードに家族のドラマを演じさせるのは、想定される小中学生の視聴者を楽しませるという番組の趣旨からもややはするし、両親が健在であればジュードが家族を捨ててアーガマに乗り込むという展開も難しくなるであろう。

だが、作品が終わってみると、ここでジュードの両親も登場せず、さらに物語の中で彼の親的な役割を果たす人物もいなかったことは、単に作劇の段取りの問題だけでなく、この作品のドラマとして意味のあることであったように思えてくるのだ。

ジュードは本作で、いつも戦争を起こした世の中の大人を非難している。目先のことでしか考えない大人は、自分たち子供が迷惑しているのに気づかず戦争を続けている、と、果たしてこの時に、ジュードの頭の中には、具体的な大人像があるだろうか。おそらく彼は、具体的な大人の姿などイメージできていないはずだ。彼は「戦争を起こす無責任な大人」という抽象的なイメージに対して怒っているだけなのだ。

もし、ジュードの両親（あるいはその役割を果たす人物）が登場していたら、彼の怒りはまずその人物への反感となっただろう。そしてその反感を通じ、ジュードは世の大人の世界を感じたはずだ。ところがこの作品ではそうした大人とジュードの直接の衝突を避けるように物語を進める。物語からは、ジュードの青い正論を否定するような現実を背負った大人が、見事に排除されているのだ。それは、現実認知の物語であった前作とは大きく違う点だ。そして、そういう環境だったからこそ、ジュードはカミーユのように順従することなく、主人公を全うできたのではないだろうか。

なお、原点回帰に関連して付け加えると、話に初登場した「ZZガンダム」が合体。後に、まるでスーパーロボットのように決めポーズをとったことも、その一例である。

## リナを求めて（12～17話）

本作では、物語をシンプルにするため、ジュードの戦う動機もまたシンプルなものになった。12話でオースティンの兵士、クレミーに連れ去られた妹、リナを取り返すという目的がある。リナは本作のマクガフィン（事件の鍵となるもの）なのだ。

そして、ではそんな動機で戦うジュードの周囲にはどんな人物が配されたのだろうか。もちろんアーガマにはプライトをはじめとする大人がクルーもいたが、ジュードの周囲には、同年齢の仲間達が配され、ドラマは基本的にこの仲間の中で展開された。仲間には、ジャンク屋時代の仲間のピーチャ・オレグ、モンド・アガケ、イーノ・アップバ、エル・ピアノ。そこに志願兵のルー・ルガが加わった。

『機動戦士ガンダム』にあって、『ZZガンダム』になかった能力の一つに、共同生活の場所の面白さがある。例えば、マチルダと少年兵たちの記念写真、アムロが飾り物を見ることがなくなってしまったミライの機……。これらのシーンは、架空の世界を裏打ちする生活描写であるとともに、同年代の登場人物が一括の空間で生活する、いわば学園モノと共通する面白さとして視聴者には受け止められていた。例えば、そのS



ZZガンダムのコア・ファイターとZガンダム。本作ではガンダム系MSの扱いが変えられる（11話）



ちなみに番組名は「ガンダムZZ」、MS名は「ZZガンダム」である（12話）



クレミーはリナにリディアの教育を語ろうとするか（13話）



グレンローズのエイミー・飯島は、戦術家のプライトの心とを好きになっしょう（14話）



忘れられたコロニー、ムーノムーンの教育、サラ・ムーノ（14話）



アーガマの乗組となり決意などの下書きをさせられるキャラ（16話）



ZZガンダムは、機動にハイメカキャノンがあるなど異変進化が極端に進んでいる



「シュドー」になつてしまったプル  
やがてアーガマにいくことに  
(19話)



プルはシュドーの本当の名である  
リナにつらく当たる(19話)



トールズの幼なじみで、スパイも  
やらざるを得なくなったセシリア  
(21話)



グレミーはプルを強姦し、キュー  
ベレイム・8で破壊へと投入する  
(23話)



シュドーとハマーンと出会い、仲間  
になれと誘われる(22話)



アーガマは「リポート」を引いて大空  
を飛ぶ(20話)



後に、Vガンダムにもそっくりな  
MSが登場するカプラー(24話)

## EPISODE CHECK



アタシス内でシュドーと出会ったプルは、書  
を読み出してデートする(16話)

F検証部分ばかりが隔られる伝説的ムック「ガン  
ダムセンチュリー」に、脚本家の松崎健一がホウ  
イトベースの風鳥場をめぐるドタバタ劇を書い  
たのも、「ガンダム」に学園モノの匂いをかいで  
いたファン心象の反映であった。

アーガマという軍艦でありながら、シュドーが  
同世代の仲間に見られているのもまた、同じ理  
由で設定されたに違いない。そしてその学園モノのような雰囲気は、中盤以降シュ  
ドーたちがアーガマを離れて独立行動したり、さらには新造戦艦ネェル・アーガマをま  
るごとく任されるという展開でさらに強調されることになる。

主人公サイドが、まるで学園モノのようなノリなら、敵のネオ・ジオンも、前作のイ  
メージを引き継ぐわけにはいかない。ハマーンこそ前作のまま超然と振る舞ってい  
るが、前線の指揮官の印象はそうではない。

マッシュマー・ゼロは、ハマーンに恋する純真な騎士だし、グレミー・トトは敵である  
はずのルーにあっさりとも一目惚れする。女性士官のキャラは、モビルスーツに乗ると  
気分が高揚するというヘンな性格の持ち主だ。さらに、マッシュマーの副官で小市民的  
な性格の持ち主ゴットン・ゴーがコメディリリーフとして、これらのキャラクターに  
絡んでくる。

本作が鬼子だと思われている最大の理由は、これまでの「リアルな」という統詞で  
語られたガンダムの世界観に、このコメディリリーフで、いともあっさりとは壊してしまっ  
たからだ。

## エルピー・ブルの衝撃(18～23話)

こうしてスタートした「明るいガンダム」の物語。ひととめともいへばキャラク  
ターがエルピー・ブルだ。彼女はわずか10歳の少女で、敵のネオ・ジオンのパイロット  
だ。シュドーはリナを探して潜入したアクシズで彼女と出会い、まさか彼女が自分の  
プルは、そのままシュドーになってしまうのだ。

ところが、世界観の混乱を理由とした本作への反響とは相反して、プルには絶大な  
人気を集めることになった。

確かに、冷静に見れば、プルはファンに受けるような要素をしっかりとおさえたキ  
ャクターである。まず、麗顔であること(10歳だから当たり前だ)。それから、可愛  
いけどちょっとワガママという都合のいい性格であること。シュドーをまるで兄のよ  
うに慕うという設定もポイントが高い。さらには、お風呂好きという設定まで用意さ  
れていた。これでファンが熱中しないわけがない。

特に、こうしたファンのお好みそうな女性キャラの定型を抜けているようにも見た、  
富野監督作品において、プルのようなキャラクターが登場するインパクトは小さくな  
かった。

ひらいてまったく新しいタイプのキャラクターが登場する一方、ガンダムシリーズのエピソードを思わせる「泣き虫セシリア」というエピソードもあった。しかし、こちらは全体を支配する『メティ調のノリとちぐはぐで、セシリアが死んでしまうとゆう結末は、泣けるというよりも、なんと悲味の悪いエピソードとなってしまった。

## 砂の海の向こう (24~32話)



はしゃいでいるばかりでなく時に、人の人生の厳しさを感じ取り涙を流すブル

本作は、前2作と違い、大河ドラマ的要素よりも1話完結を重視した展開が多くなった。特に、主人公達ガンダム・チームがアーガムと別行動をとり、砂漠の中をダカールを目指した中盤部分は、さまざまなゲストキャラクターやモビルスーツが登場して、各エピソードを盛り上げた。

先にも書いたように、本作では既にモビルスーツはもはや世界観に裏打ちされた存在ではなくなっていた。むしろキャラクターの強いイラレメカと考えた方が自然である。そういう意味では、本作はガンダムの『メカ』を使いつつ、懐かしさやコロン・コロニーへとアプローチしていたとも言える。



お風呂が好きなブル。メガライダーの cockpit もこの有様だ

## 宇宙へ還る (33~37話)

連邦の機能不全は全く変わっていなかった。そんな連邦をおどろかすようにネオ・ジオンはダブリンへのコロニー落としを決行する。その爆心地の中で、ブルは自分の分身であるブルツォと戦って死んだ。序盤では単なる軟弱な色男にしか見えなかったグレミーも、次第にハマーンへの反感への野望を覗かせるようになる。物語はこのあたりから急速にシリアスの色が濃くなっていく。

その過程で、本作では「似たものの同士の戦い」というモチーフがちらちらと顔をのぞかせるようになる。



8年経った今も昔を懐かしそうに登場を繰り返していたコンメル卿 (28話)



島の冒険から襲撃される地方ブルターにいた、ヘンな芸術家シクス・コック (30話)



砂漠の中でさまざまな人に出会うことになるシュートたち (29話)



悪人の特化したケルグを倒り、シュートたちを救済するマサイ (28話)



ネオ・ジオンが無慈悲にダカールにミネルバとハマーンが入った (27話)



ブルとオウリム。そこに登場されたミネルバ達をシリアスは行方不明に (29話)



嵐の海を見つめて、シュートとブルアークが合流することに (32話)



作中に引き継がれる「としてアーカマを皮肉るバヤ」(35話)



ダブルでカミーユの必勝を助けていたバヤ、ジウドとつかの間の両面をやる(35話)



サイコ・ガンダムMK-IIは、パイロットを苦しめる状況へと変化する(34話)



真面目にバトルをかけたフルツと戦う。なお、フルツ側のメカクラに注意(35話)



ハマーンは民間人に変装して、アーガマ襲入を企てる(39話)



女装したスタンハのハレムへ送り込もうとするジウドとイーノ(40話)



スタン(旧ジオンのMSのレプリカをコレクションしていた)(41話)

## EPISODE CHECK

一つは、ブルとフルツである。フルツは、ブルのクローンだ。ブルはフルツに語りかける「人間はね、自分を見るのが不愉快なのよ」。その言葉を裏付けるようにフルツはサイコ・ガンダムMK-IIで、キュベレイMK-IIのブルを倒す。だが、自分と同じ顔を持った相手を殺したことは、彼女の精神に大きな影響を与えることになった。

もう一つはグレミーとハマーンである。本編中では、あまり説明もされず、ザビ家の血を引いているらしいことが匂わされる程度だったグレミー。だが、実は設定ではギレン・ザビの嫡子と、ニュータイプ女性の卵子から生まれた試験管ベビーであるとされていた。つまり、ジオンの精神の後継者であるハマーンと、血の後継者であるグレミーが、真のジオンはどちらかで争うというのが、終盤に至る構図となっていると見ることもできる。そして、この構図だからこそ、真の後継者であるミネルバ・ザビが実は替玉で、本物は既に「Zガンダム」の最終回で、シアによって誘拐されていたという最終回のオチが効いてくるわけだ。

ただ、こうしたモチーフは、散発的に登場するだけで、キャラクターの心情や演出面ではそれほどフィードバックされておらず、もったいない結果になってしまったと思う。

## ネル・アーガマの戦い(38~44話)

ジウドたちの戦場は再び宇宙へと移る。だが、ハマーンとの最終決戦は遠く、しばらくは独立したエピソードが続く。このブロックで印象的なのは、40、41話だ。これは番組の延長が決まったために挿入された、完全にお遊びのエピソードだという。

ポイントは3つある。まず一つはジウドたちが変装という名目で女装を披露すること。もう一つは旧ジオンのモビルスーツが変装すること。ここには「ガンダム」で役になり変装しなかったものの、ブームの中でプラモデルだけ発売されたアッグガイとゾゴックもあった。そして、ゲストキャラクターの美少女の死。

こうして要素だけ並べるといかにも平凡なエンターテインメントストーリーが思い浮かぶが、事実その通りである。そしてこの凡庸さこそが、本作の一番の特色なのだ。お遊びのエピソードだからこそ、本作の持ち味がストレートに出たエピソードのように思える。

## 戦争の終わり(45~47話)

最後の決戦が始まった。グレミーはルー操るZの銃口に割れ、ジウドはハマーンとついに決着をつけた。ジウドとのモビルスーツ戦に敗れたハマーンは、手をさしのべるジウドを振り切って、暴発するキュベレイと運命を共にした。ハマーンの敗因は、誰も信用しなかった彼女が、ジウドの強いニュータイプ能力に惹かれ過ぎたことだ。

ジウドは、全ての戦いが終わった後、おとりがたなで駆けつけた連邦の高官たちをなじる。ジウドが目の前的大人に、自分の不満をぶつけることができた数少ないシーンのうちのひとつだ。だが、そこでジウドが殴ることができたのは「気が済むなら俺を殴れ」とわざわざ言ったブライトだけである。先に書いたように、ジウドは最後まで、現実には生きている大人と衝突しないよう「配慮」されていたのである。

「なぜ、そうした物語になったのだろうか。それは、ジュードに込められた『明るいガンダム』という番組当初の想いを継ぎようとした結果ではないだろうか。現実の価値の混乱を描いた『Zガンダム』と同じ枠組みの中で、古典的なロボットものへと原点回帰させるには、それくらい用意周到に主人公と、現実の混乱との距離をおかなければならなかった。」

なお、最終回に前2作を思わせるシーンが盛り込まれているのは興味深い。やはりガンダム3部作の最後ということを感じたのだろうか。ハマーンとジュードの生身での一戦打ちが「ガンダム」、ジュードにこれまで登場したニュータイプが力を貸すくだりは「Zガンダム」で、さらにアクシズの爆発の中からブルツァがジュードを導くのは再び「ガンダム」と似た展開となっている。また、ラストの木犀に立つジュードをメインキャラが見送るというシチュエーションはガンダム・シリーズではないが「重戦機エルガイム」のラストと重なって見える。

こうして本作終了後、ガンダム・シリーズは一時期の休息に入ることになる。富野由悠季監督は、'77年から'86年の本作までほとんどとぎれることなく作品を提供してきた。最近のインタビューでは、この当時はさまざまな意味で疲れ果て、もはや物語を作る上でのモチベーションというのとはなかったという趣旨の発言をしている。

そんな状況の産物である本作は、何れも数々ように見子のような作品であった。だが、ガンダムのフィールドでエンターテインメントを目指すという大方針だけは決して間違っていなかったと僕は思う。

『Zガンダム』の最大の欠陥は、現実の矛盾を突きつけただけで、「では、なぜ人はその矛盾だらけの世界に生きていても幸せを感じ、生きていられるのか」という問いかけに対して答えられなかったことだ。現実の世界の矛盾を描いたが、その現実で視聴者がなすべきように精神を崩壊させずに、生きているのかという部分を（意図的に）省いているのだ。

その問いに答えるには、エンターテインメントを目指すという方法論はまさに正しい。ただ、本作はそのエンターテインメントを非常に狭くとらえていた。その結果、もっと人間くさいやりとりにならなければいけない足踏が、まるでギャグアニメのような隙になってしまった。エンターテインメントとは単に、おもしろ可笑しければいいというものではない。

だから、今『Zガンダム』の人間味溢れる展開を見るとき、描かれることのなかったヒューマンな『ガンダムZZ』の画面が僕の脳裏を横切るのである。



ブルツァは消し、ブルツァを出現させ、ガンダム・チームと戦わせる (46話)



父島が危なオアシスの機体活動を行っている少女、ルナーナ (42話)



ブルツァが持った巨大MSクイン・マンサ。手前のZよりもう一回り大きい (46話)



ハマーンと最後の決戦をつけるべく一戦打ちをするジュード (47話)



全ての戦いが終わり、千歳の約束の満開の満開たちをなすジュード (47話)



行方不明になったリナは、モイラに助けられ無事だった (47話)



リナと無事なリナを助けるジュード。彼は木犀に救出に行く (47話)

MOBILE SUIT GUNDAM

# CHAR'S

○機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

# COUNTER ATTACK

## Vガンダム

■Notes 1 無敵者であるアムロ・レイ自身が機本設計を担当したモビルスーツ「ガンダム」の序作のもとに開発された13番目の機体であることから「V」の呼称が与えられ、奇しくもアムロ・レイ最後の乗機となった。マント状に背中へ展開される大型の垂直降着装置「フィン・ファンネル」を装備し、これによりいわゆる「オールレンジ攻撃」をおこなう。機体特性的にはサイコミュ搭載以外は、シンブルかつ効率的に作られた運動性重視の機体であり、Zガンダムまでの熱帯的な白大化、機体武装化を脱し、MS開発の途点に戻ったものなどといえる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## アムロ・レイ

■Notes 1 一年戦争時にサイド7で偶然遭遇された伝説のエースパイロット。同コロニーに米軍実験のために運び込まれたモビルスーツ「ガンダム」のパイロットとなり、以降宇宙世紀を彩る「ガンダム伝説」の幕を開けた。第2次ネオ・ジオン戦争では連邦軍の実戦部隊「ロント・ベル」の中核を担うエースとして活躍。かつてのナイーブな少年の面影を残しつつも、大人の軍人としての自己を確立している。

First Appearance: 機動戦士ガンダム(第1話)  
Other Appearance: 機動戦士Zガンダム、機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ベース・ジャバー

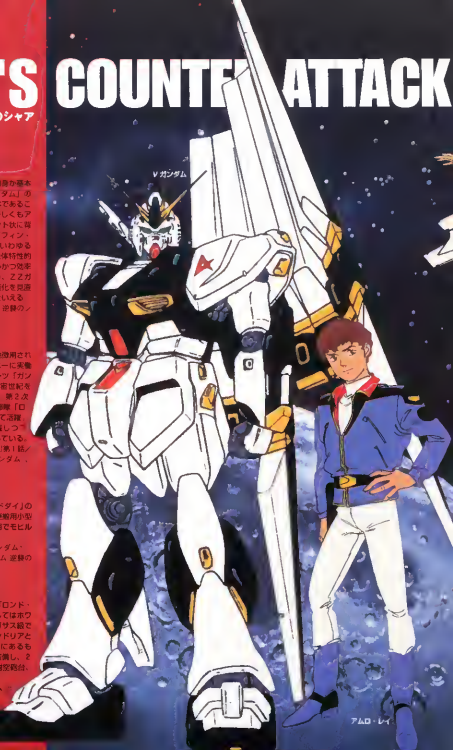
■Notes 1 一年戦争時のジオン軍、「ドダイ」の流れて込む地球連邦のモビルスーツ連隊用小型艇。これらのサポートシステムの採用でモビルスーツの活動範囲がぐっと広がった。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム  
Other Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ラー・カイラム

■Notes 地球連邦軍の独立実験部隊「ロント・ベル」の機体開発。連邦軍の編制としてはホワイトベースをはじめとする一連のベガス級ではなく、ラーディッシュ、アレキサンドリアといったグリプス戦役の戦艦群の流れにあるもの。MS駆逐用のカタパルト2本を装備し、2連装カタパルト4門を主武装に多数の対空砲台、ミサイルランチャーを装備する。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア



アムロ・レイ



## ブライト・ノア

一年戦争時に「ガンダム」の母艦として名高い「ホワイトヘース」を指揮したことと著名な近き艦長指揮官。一年戦争時代から常に船頭に立ち続けた彼は其艦指揮官として絶大な信頼を得ており、30代前半の若さで独立部隊「ロンド・ヘル」の常駐的な艦長指揮官を任される。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話 / Other Appearance: 機動戦士ガンダム、機動戦士ガンダム2、機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## チェーン・アギ

機動戦士ガンダムに好意を寄せる「ロンド・ヘル」所属の技術士官、アムロのザガンダムの基本設計をサポートし、その開発を任される。出所が不明確で急遽搭乗が決まったサイコミュ・フレームの信頼性に疑問を抱き、常にそのサンプルを持ち歩いている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## リ・ガズィ

■First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

■Notes: Zガンダムの量産型として設計された生産検討用試作モビルスーツ。変形機構をバック・ウェポン・システムで代用するなど、徹底した構造の簡略化。生産コストの低下が図られているが、そのぶんZガンダムがもっている高い運動性と汎用性の欠如という技術的アドバンテージは失われた機が強い。けっさく量産されることはなかった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ジェガン

■First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

■Notes: 第2次ネオ・ジオン戦争における悪役軍の主力モビルスーツ。シム、ネモに続く伝統的な「連邦軍の悪役モビルスーツ」。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア / Other Appearance: 機動戦士ガンダム F91

## ケーラ・スウ

■Notes: 「ロンド・ヘル」所属のモビルスーツパイロット。ニュータイプではなく、ユースとコンビを組むにふさわしい敏腕パイロットとして記された。そのため、サイコミュ搭載モビルスーツに適合した。脱出したところを敵モビルスーツに襲いつぶされるという死を遂げた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## クラップ級

■Notes: 「ロンド・ヘル」の主力艦艇。宇宙世紀0083年の連邦宇宙軍の主力で、第2次ネオ・ジオン戦争では多数の艦艇が活躍した。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア



## CHAR'S COUNTER ATTACK

◎機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

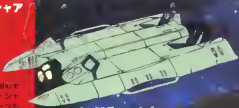
シャクルズ

● 連邦議のヘース・ブセ 三〇四

權に一年戦争時の「トタイ」の流れを組むモビルスーツ運用用小型艦 連邦のベース・シャパーに比べ若干小型で基本的にモビルスーツも1機のみに対応。あまり大規模に部隊を展開しなかった。第2次ネオ・ジオンだけあり 連邦のものより生産数も若干少なめ。

First Appearance: 機動戦士Zガンダム 第26話

Other Appearance 機軸組士カンナム 逆轉の







## レウルレーラ

「オ、オ、オ、シオンの手振眼振が素敵」  
 自らが通する「オオ」シオンの象徴的な意味合いを持った発音であり、それがこの「オオ」  
 雄虎火力やその強大さは第2次オオ「オオ」  
 戦時中最も大膽な言葉を大膽なモビル 賢達  
 カタリートの数は、基がた、モビル の機  
 能数に、この時代では大規模な戦い、代々、  
 オオの勢力は「した大艦をその中心人物  
 の尊厳として」おえる伝説があるが、これを  
 「ヤア」オオと「オオ」ったと「と」  
 First Appearance 機動戦 カタリートの  
 オオ

シャア・アズナブル

● 第2次ネオ・オン運動 集約的  
 時はシオンの王 ス・ハイロトナドとてを著  
 録せし者戦跡に生死不明なる事 今迄  
 地球諸邦通動(ス・エ)の御部とし 地境無  
 とは海嶺 クリス役按てはシロ レイと  
 し遷移進化を講ぐる能い。このときはれめてシ  
 オン・スム・タウツンの皇子とする自らの出  
 生を明かし 戦役終結後 再び生死不明なる者  
 が、一説ではこのときレザ、サビの遺訓によ  
 りハバアズから去られ去れたもの。この  
 か び年の歴代戦闘の時 第2次ネオ・  
 オン戦争時存続力あるヘースムニ不承子  
 兩屬して 第2次ネオ・シオを再興 今度は  
 地球諸邦へと正面向かへる情むこと なる

First Appearance 戦艦カグ・カム 第 話  
 Other Appearance 戦艦カグ・カム  
 機動カグ・タ、沙羅

## サザン

■**サイコ・ネオ・シオンのシャープ専用モビルスーツ** サイコミュの小型軽量化に成功した新技術「サイコ・フレーム」をベースにニュータイプ専用のモビルスーツとして設計された。一年戦争以来のシャープのイメージカラーである赤に全身が塗装され、故郷一年戦争時に罹害した故郷を想わせる高い運動性と雷火力を共存させることを実現したモビルスーツである。背部的ファンネルホルダーに計8機の高機動ファンネルを搭載し、その威力、防御力、機体操作性を誇るなど多岐の武装を持ち、高い戦闘力を誇る。

First Appearance 機動戦士ガンダム 逆襲のシャープ

## ナナイ・ミゲル

■**キャラクター** ネオ・ジオンのニュータイプ研究  
所所長であり、シャアの作戦相談士官として  
陣営にも常駐し、政治的な舞台ではシャ  
アの側近に密着するような存在までこま  
てこなすなどでもありな人物。当然のよう  
にブライバードでもシャアの愛人をつと  
め、つとめる。ウェストに感化するなど女性  
として強い面なども見せる

First Appearance 機動戦士ガンダム  
逆襲のシャア

MOBILE SUIT GUNDAM

# CHAR'S COUNTER ATTACK

◎機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## α・アジール

■Name: α (Alpha) 55 4th MS Unit

■Role: 新生ネオ・ジオンの最高司令官であるためにつくられた最強の巨大モビルアーマー。ジオング風の脚のない下半身にブースターユニットを装備し、高加速して敵艦隊に突入。戦場でオールレンジ攻撃をおこなうことで1機で敵艦隊の壊滅すら可能な怪物兵器として開発されている。ニュータイプ研究に一日の長のあるジオンの技術開発陣によって有翼式メガアーム、ファンネルなど、それまで開発されなかったサイコタイプのサイコミュ兵器が詰め込まれ、瞬間に1ファンネルを投射したことでビーム兵器への防御も完璧であり、サイコミュ兵器を使いこなせるニュータイプのパイロットを得れば戦艦の強さを誇る。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ケース・バラヤ

■Role: 地球連邦軍や連邦次官アデナウアー・バラヤの娘。地球舞踊のお嬢様だが、優秀な父への反発から新人類としてのニュータイプへ強い憧憬を抱く。ネオ・ジオンとの調和的聯絡の使命を帯びた父に連れられて宇宙に出るが、シャトルの故障によって父とともにラー・カイラムへと回収。アムロとともに交渉場所を選ばれたコロニー、ロンデニオンへとたどりつく。そこでシャアと接触した彼女は折衷主義的なアムロの態度への反応もあり、よりわかりやすいシャアの姿勢に共感。ネオ・ジオンへと出奔してしまう。善悪といった概念的なものよりは悪感情期に感受性につき動かされて行動し、それが結果的に大人たちの戦争の道具として利用されることになった。ある意味悲劇の少女である。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ハサウェイ・ノア

■Role: ブライト・ノアの長男。父の任地であるロンデニオンへ向かうために乗り込んだシャトルがたまたまアデナウアー・ウェス親子に奪取されたために父の面識するラー・カイラムへ同乗することになり、このとき交流をもったウェスに強く心を惹かれ、ネオ・ジオンへと出奔した彼女を追って前線へと出撃するラー・カイラムへと寄り込む。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア  
Other Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

アルバ・アジール

ケース・バラヤ

ハサウェイ・ノア

ギラ・ドーガ (レズン用)

ヤクト・ドーガ (クェス用)

ヤクト・ドーガ (ギア)

レズン・シュナイダー

ギユネイ・ガス

## ギラ・ドーガ (レズン用)

■Height 20m Weight 23.3t  
 ■Notes ジオンの伝説に基づきギラ・ドーガの集合も指揮官用の機体はその個別のため機体部にはいわゆる「ツノ」がつき、一般兵のものとは区別される。一年戦争時からエースパイロットクラスの機体は同一機種でも特徴的なカラーリングが施されていたが、これも踏襲された。  
 First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ヤクト・ドーガ (クェス用)

■Height 21m Weight 28.0t  
 ■Notes ヤクト・ドーガは機が試作され、機がギユネイの専用機として調整され、パイロットが確定せず予算として保管されていた機体がニュータイプとしての需要を見る意味を含めてクェスへと与えられた。ファンネルも機を操縦他、メカ子母艦内蔵のシールドを持ち、その他ガスタムの手持ち武器が各種存在する。  
 First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ヤクト・ドーガ (ギユネイ用)

■Height 21m Weight 28.0t  
 ■Notes ギラ・ドーガを元に試作されたニュータイプ専用モビルスーツ。サイコミュ調整機種の大ききのために、それまでは巨大なものとならざるを得なかったニュータイプ用モビルスーツ (モビルアーマー) を通常型モビルスーツと同サイズで実現しようという研究からつくられた一機の実験機。このため機体の基本フレーム自体はギラ・ドーガのものから用いられ、これに搭載可能なサイコミュ技術の研究からサイコ・フレームの技術が生み出された。  
 First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## レズン・シュナイダー

■Notes ネオ・ジオンの実戦モビルスーツ部隊を率いる女性士官。ランバ・ラルやラン・ダカランといった古いタイプの兵士、モビルスーツパイロットの最後の生き残りともいえるべき人物で、超能力者めいたニュータイプや人間的に人類の能力を高めた強化人間といった存在を経験者としての価値感から異端として忌み嫌う。  
 First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

## ギユネイ・ガス

■Notes ニュータイプ研究所出身の強化人間だが、グリプス戦役や美・連ネオ・ジオン戦争の頃の強化人間に比べると格段に機体的安定性に優れる。精神面での自律性の確保に重大な困難のあった強化技術が、この時期に情動的な面の制御技術も格段に進歩し、より強化対象者に無意識のかからず技術へ進化したことが見受けられる。常にシャアの悪意の部下としてもっとも過激な戦線の訓練に立つが、必ずしも彼の姿勢に心酔している訳ではなく、シャアに取ってかわろうという野心も持つ。  
 First Appearance: 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア



## CHAR'S COUNTER ATTACK

のみ。この映画が、同時に紛れもないロボットアニメでもあるという宣言なのだ。

では、ロボットアニメとは何か。別に難しいことはでない、ロボットが演じるアクション映画のことなのだ。

西部劇でライバルがいかに早撃ちかを描いてから、クライマックスの決闘に至るように、この映画でも、シャアが乗る深紅のモビルスーツ、サザビーの強さは推定となく描写される。一方、アムロの乗るVガンダムもその強さを存分に見せつける。サザビーと直接対決する前にまず、アムロの機体の性能を十分顕著にアピールする。そして、さらに敵の優秀なパイロットを機転を利かせた作戦で撃墜するシーンを描くことで、アムロの能力の高さを示す。こうして、観客はお互いの手の内や、機体の性能を十分知った上で、最後の“決闘”を見守ることになるのである。これがエンターテインメントでなくて何であらう。

だが、ロボットアニメがエンターテインメントに足る素材であることが認知されるまでに時間がかかったのもまた事実だ。だからこそ、この映画はロボットのアップから始まる必要があった。ロボットを単なる道具ではなく、エンターテインメントの要素として物語と不可分なものだということをしっかりと描く。それこそがロボットアニメをエンターテインメント映画として昇華する唯一の方法なのだから。

この映画にはこんな戦闘シーンがある。Vガンダムを取り囲んだ敵モビルスーツは、ガンダムをファイザーで固定すると、そこに電流を流す。この戦闘方法がアニメでは初めて描かれた変え品を変え、敵ロボットが使う技だ。この「ロボットアニメの記号」として、このシーンは、この映画の中にもしっかりとなじみ、観客の心に残るべき記号として残っている。

画面はVガンダムがファイザーで固定されたとき、この映画はロボットアニメだ、という思いが、このロボットアニメは映画であるという感覚が交差する。その瞬間は、矛盾することなくフィルムの上に定着されている。

### 再会、シャアとアムロ

男二人に女一人。この組み合わせで成り立つもの映画が作られてきた。ハッピーエンドのものもあれば、アンハッピーなものもある。そしてこの映画に出てくる、男二人と女一人は、アンハッピーエンドを迎えた。その後の時間を過ごしているのである。女は既に死んでいる。男たちは彼女のことが忘れられない。だが、男たちは会ってもいまはもういない女について話すことはない。お互いに彼女が自分のものであり、そして相手によって奪われたと感じているからだ。だから、二人は心の中でこっそりと女のことを思い出す。そして、その思いが心の底の深いところに染み込んでいるからこそ、二人は対立しあうことになる。

「逆襲のシャア」は、このように永遠に失われてしまった愛情についてのラブストーリー



「ザクザク」のシャア・アムロ。この映画で初めて登場するシャア・アムロのキャラクター。



「ザクザク」のシャア・アムロ。この映画で初めて登場するシャア・アムロのキャラクター。



「ザクザク」のシャア・アムロ。この映画で初めて登場するシャア・アムロのキャラクター。



「ザクザク」のシャア・アムロ。この映画で初めて登場するシャア・アムロのキャラクター。



「ザクザク」のシャア・アムロ。この映画で初めて登場するシャア・アムロのキャラクター。



「ザクザク」のシャア・アムロ。この映画で初めて登場するシャア・アムロのキャラクター。



## EPISODE CHECK

リーでもある。ただ、このラブストーリーには甘い言葉は一つも登場しない。

アムロとシャアはサイド1のロンデニオンで再会するが、その時に交わすのは地球の運命につ

での情に三葉ばかりである。さらに二人は、  
 殴り合い。アムロは手放さず手をかける。二人  
 が愛情とは関係ない言葉が飛び出す。重なるほ  
 とその間に横たわる核心部分。

「でも、アムロとシャアは、ララァを助けるはずだ。まだでけは信じてあげよう。そのことを夢に見たという。この少年は死んでいないのだ。本当は、一年戦争と戦った「ストーリー」は変わっているというのに」

[illegible]

最後のセリフの後に、14年前のセリフに聞こえるのは偶然ではないのだ。



「そして私は、父シオンの下に召されるであろう」。シャアは人類滅亡を宣言する

火の大きさに僕らは気づかされる。

人にも、マ・ダモアリーのラスト  
のあの日、ウラナが死んだあの日に

は物語の終盤近く。そうなった時に、  
「……」と気づかされたはずだ。  
「……」は彼女を……。だから  
……だと、この映画……。……

を直感的に理解して、この本で述べられていることを理解するだろうか。

「ラストシーン」として、離れていく。そうは思えないだろう。その中で、逆襲のシャアが、ある。そのセリフが悪いのほが、自

## ルナク= 半角カタカナ

人間以上の存在とは何だろう。古今、このテーマに挑んだSFは多いし、ガンダムシリーズでは、ニュータイプといういわく言い難い存在が、その部分に触れている。

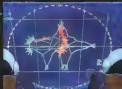
ニュートタイプとは一体なんだったのだろう? 宇宙空間に出た人類の脳がその可能性を発揮するようになった、というような、SF設定的なさまざまな言葉を用意することとはもちろん可能だ。でも、ここではあえてそういう定義の仕方をするのばやめよう。

こんなふう考えることはできないだろうか。例えば、人込みの中、ふと主人公が振り返ると、そこには別れた恋人が立っていた。そんなよく思わせる映画の中の平均的なシーン。その時、主人公を何気なく振り向かせているのも、主人公達が感じる何気ない予感や直感、あるいは、予感や直感の源を借りて、主人公達を物語の渦の中心に

の「予感」何か。それがガンダムではニュータイプと呼ばれているのではないのか。

シンジが少女、クェス・パライは、シャアに導かれ、ネオ・ジオン軍のパイロットとなる。彼女はルナツーを襲撃する作戦で初陣を迎え、そこで連邦軍の軍艦を撃破する。その時、彼女の中に「予感」が生まれる。実は、その軍艦には彼女の父親が乗船していたのだ。だが彼女は「予感」の理由を理解できない。そして、退却する彼女は意味不明の気持ち悪さに悩まされることになる。

自分の父親が乗船する軍艦を撃破する。これは偶然だ。軍艦意な言い方をすれば、ドラマを盛り上げるためのテクニク。それではない。ところがこの映画自体、それ、ニュータイプ彼の必然と見えるように、すでに定めていく。ほかにもこの映画、シンジが敵軍の方のモビルスーツ、リ・ガズィが敵に隠された。そこへ駆けつけるアムロのVガンダム。これもエンターテインメント映画には欠かさない、タイミングの良さだ。だが、敵パイロットはつぶやくのだ。「ガンダム騎士、呼び合っているの?」と。ここでも、物語



フライトたちがセットした軍艦がアクシズを二つに切り裂いて行くが……

語を盛り上げるためのタイミングの良さが、敵パイロットによってニュータイプの能力の一つへと解釈されている。

もちろんそれ以外の場面では、単純な戦闘能力の高さを説明するためにニュータイプの能力が使われていることも多々ある。だが、この映画の中で、ドラマチックな偶然をニュータイプ

の初陣アムロもしていることもまた事実なのだ。そして、物語の中の「予感」が、偶然の川み。そして、その真意のラストシーンを準備している。この「予感」は、「ガンダム」の歴史の中で、決まっているものでもある。

## アクシズ破壊計画

人類が体験した最後の戦争は第2次世界大戦だ。ベトナム戦争があるじゃないか、湾岸戦争はどうした、という声もあるだろう。だが、国際法上は、宣戦布告を行わなければ戦争ではない。逆に言うなら通常の「戦争」は、スタートの号令はないまま、気が付くという間にか始まっているものなのだ。それはなんだか戦争映画のようではないか、と思うのは僕だけだろうか。戦争映画を見ている僕たちは、いつも気が付くと予告なしに戦場の中にいる。もし、これから戦争が始まる、なんて予告があるとしたらそれは「戦争映画」でない。おそらく「戦争を描いた歴史映画」ともいうべきものだ。

逆巻のシャア、の設定年代はオ宇宙世紀0083年になっている。でも、そんな年代は本編では一言もでてこない。そのかわり、開幕早々、我々はいきなり50年ルカを迎える。防へと善き込まれる。「どこだ、艦橋教える」「北極星の方位」少女の耳に飛び込み、でくるパイロットとブリッジのやりとり。既に戦争は始まっている。その時、僕はこの映画が、戦争映画でもあることに気が付かれた。そして、それは後半、墜下するアクシズを防こうとする作戦で一層明らかになる。



アクシズを落とすの作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。



アクシズを落とすの作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。



アクシズを落とすの作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。



アクシズを落とすの作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。



アクシズを落とすの作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。



アクシズを落とすの作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。



アクシズを落とすの作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。アクシズを落とす作戦の始まり。







# THE DESIGN WORKS OF GUN DAM

From the original anime to the movie and Neo Zeon War

UC0087-0093

● Episode 1~2 各話設定 グリーン・ノア

ティターンズ エゥーゴ **RX-178ガンダムMk-II**

自らが正義であることを印象づけるため、ティターンズが作成したガンダムの後継機。突出した機能よりもトータルでの性能が重視されている。



Mk-IIコックピット

エゥーゴ・強襲用宇宙巡洋艦アーガマ  
エゥーゴの象徴ともいえる艦。フォルムは異なっているが、ホワイトベースを基にして設計されている。

アーガマ ブリッジ

## エゥーゴ・RMS-099リック・ディアス

自らの存在を公にする前にエゥーゴが配備を進めた。ガンダムとリック・ドムの長所をあわせて作り出した機体。連邦軍が用いる型式番号を用いているのはそのためである。



## ティターンズ・RMS-106ハイザック

旧ジオン軍から吸収した、ザクの生体ラインで作られたMS。ビームライフルは装備できない。



## 第1話「黒いガンダム」

宇宙世紀0087年。シャアの乗るリック・ディアスがサイド7のコロニー、グリーン・ノアに向かっていた。クワトロ・バジーナと名を変えたシャアは、反連邦組織エゥーゴに参加。ジオン残党狩りを標榜し、その実、連邦の支配をなくす。軍内部のジェリト組織ティターンズの実態を露うとしていたのだ。途中、シャアはかつてのアムロ、ララァに似た何かの存在を感じる。その思念を放っていたのはグリーン・ノアに住む少年カミーユ・ビダンだった。カミーユはふとしたことからティターンズのジェリトと殴り合い、エゥーゴと喧嘩して尊厳を受ける。が、ガンダム Mk-IIの突然の落下に乗じて脱走する。一方、シャアはグリブスに潜入し、ティターンズの秘密基地を偵察し、危険な兆候を察知する。だが、裏面に現れた黒いガンダムの攻撃を受け、辛くも脱出。シャアはMk-II捕獲のために、グリーン・オアシスにアーガマのメガ粒子砲を発射させる。

## 第2話「旅立ち」

リック・ディアス隊を率いたシャアは、ガンダム Mk-II を奪うため、アーガマのあけた穴からグリーン・オアシスに潜入。連邦軍のジムIIと激しい戦闘になる。一方、軍の機関から逃げ出したカミーユは、再び基地内に乗り、連邦軍とエゥーゴの戦いの混乱に乗じてティターンズが発見したガンダム Mk-II 3号機を奪取する。カミーユは、シャアに追いつめられたカクリコンに陥れられ、さらに2号機まで奪ってしまった。それを見ていたブライトは、カミーユにアムロの再来を感じる。ブライトは戦いに民間人を巻き込んだことをバスクに抗議するが、ティターンズたちから暴行を受けてしまう。カミーユはシャアに同行して脱出をはかると、別れた自分の家と、戦火に陥れられるファの姿を認める。宇宙に出たカミーユは、その静けさと広がりにならざるを覚える。

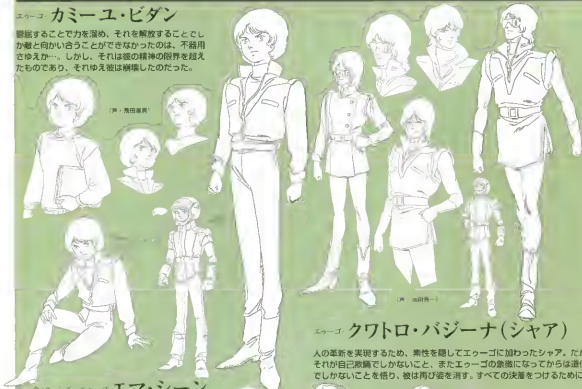
## 第3話「カプセルの中」

カミーユたちを収容したアーガマに、ボスニアのガルバルディ隊を率いるライラが襲撃を要求してきた。アーガマはこれを拒否し、ガルバルディ隊と戦闘に突入。さすかのシャアもライラに苦戦するが、ライラは母艦の支援が得られずやむなく撤退していく。が、ほっとする間もなく、アーガマにガンダム Mk-II の返還を交渉するため、ティターンズからエマがバスク・オムの親書を携えてやってきた。その親書にはカミーユの高橋を人質にとったという裏切内容が書かれていたため、さしものエマも顔をくらませる。エゥーゴの艦長官ブレックスは、ティターンズは地球に渡をひかれた人々の私兵だ、とエマに語りかけるのだった。宇宙に漂うカプセルに母ヒルダが閉じこめられていることを知ったカミーユは、ガンダムで脱出に向かう。が、あと少しというところで、バスクの命令を受けていたジェリドのハイザックの射撃がカプセルを打ち砕く。眼前で母の命を奪われ、カミーユは泣き叫ぶ。

## Episode 1~2 各話設定 グリーン・ノア

## エウゴ・カミーユ・ビダン

鬱屈すること力を溜め、それを解放することこそが戦と向かい合うことができなかったのは、不器用さゆえか……。しかし、それは彼の精神の限界を超えたものであり、それゆえ彼は崩壊したのだった。



(原・西田隆典)

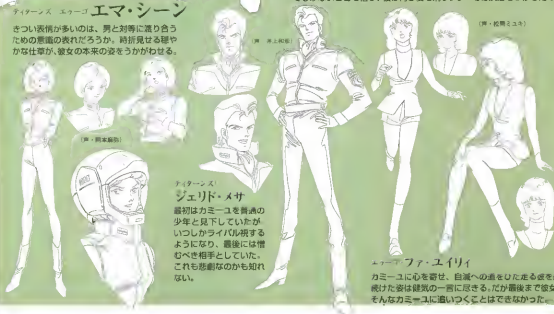
(原・西田隆典)

## エウゴ・クワトロ・バジーナ(シャア)

人の革新を実現するため、素性を隠してエウゴに加わったシャア。だがそれが自己欺瞞でしかないこと、またエウゴの象徴になってからは退化でしかないことを悟り、彼は再び姿を消す。すべての決着をつけるために。

## ティターンズ エウゴ エマ・シーン

きつい表情が多いのは、男と対等に立ち向かうための意地の表れだろうか。時折見せる理やかな仕草が、彼女の本来の姿をうかがわせる。



(原・岸上和雄)

(原・松岡ミユキ)

(原・脚本協力)

ティターンズ

## ジェリド・メサ

最初はカミーユを舞臺の少年と見下していたがいつしかライバル視するようになり、最後には憎むべき相手としていた。これも悲劇なのかも知れない。

## エウゴ・ファ・ユイリイ

カミーユに心を寄せ、自滅への道をひた走る道を追い続けた姿は健気の一言に尽きる。だが最後まで彼女は、そんなカミーユに追いつくことはできなかった。

## 第4話「エマの脱走」

目の前で母親を殺され、カミーユは錯乱しながらジェリドのハイザックを通う。が、シャアとエマに引き止められ、カミーユは Mk-II とともにティターンズに引き渡される。妻の死に、フランクリンはバスクに抗議するが、愛人の話を指摘されて何も言い返せないのだった。Mk-II を取り戻したバスクはリック・ディアスを逆に奪取しようとし、エマに出撃を命じる。が、バスクのやり方に憤りを感じていたエマは、3号機でカミーユ父子を連れてティターンズを脱走。アーガマに帰還したエマに、シャアは心変わりしが信じられないと告げる。

## 第5話「父と子と…」

フランクリンは Mk-II 開発に携わった技術士官だったが、エウゴのリック・ディアスを土産にティターンズに戻ろうとする。フランクリンは整備士のアストナージュを人質にとり、リック・ディアスを奪って逃走。同僚の性能を試験しながらも、コロニーの愛人を思い浮かべていた。父が許せないカミーユは Mk-II で出撃。父に就きを告げるが、引き金を引けない。そのとき、父から流れてきたビームがリック・ディアスを打ち抜く。脱出するものの、爆発の衝撃で虚空に消えていくフランクリン。目の前で二度も両親を殺されたカミーユは、誰の言葉も信じられなくなる。

## 第6話「地球圏へ」

地球連邦本部ジャブローの依頼のため、アーガマはレコア少尉を機体に降下させるべく準備していた。レコアはエマに、スペースノイドの集会所にバスクが毒ガスを使った30/パンチ事件のことを話す。エマは信じていることができず、盗み聞かしていたカミーユもこれには驚く。ホウセンカで大気圏に突入するレコアの降下準備が難い。シャア、アポリ、ロベルトが防空衛星機陣に出撃する。が、そこにボスニア部隊との共同作戦を決定したティターンズが急襲してくる。小隊長はジェリドだ。レコアを守るため、カミーユは片側だけのガンダムで出撃。ジェリドをアーガマから引き離すが、戦闘で逆洋艦モンブランがライラによって撃沈される。

## 第7話「サイド1の脱出」

敗北したジェリドを責めるジャマイカンに、ライラは今回の敵は特別だとジェリドを擁護する。アーガマにニュータイプが存在を感じ取っていたのだ。アーガマはバスクの艦ガサ作戦で全滅したコロニー・30/パンチに立ち寄り、カミーユはシャア、エマとともに大量殺戮の惨劇を目のあたりにし、言葉を失う。彼らを追って侵入してきたライラのガルバルディβとカミーユのガンダムの戦闘がコロニー上空で始まり、ライラはカミーユの高い能力に圧倒される。その時ライラはニュータイプを認められないオールドタイプの心理的屈折を理解する。強い味方だったライラに、カミーユの放ったビームが炸裂し、彼女は何に落ちていく。

## マトッシュ

シャアに勝つために運行されたカミーユを奪回したMGP機力を高めた機体。機体名人物

(声・清水敏也)

## ファの母

カミーユを知らぬ身として、ティターンズに運行された。以後の消息については、明らかになっていない

(声・渡辺佳子)

## メズン・メックス

宇宙部の主任。機体の開発においては、エウゴの機体としての両面とも考えられていない

## ビタン夫妻

カミーユの両親。父のフランクリンはガンダム Mk-II の開発主任、母のヒルダは船の装甲材質の研究に従事していた。

(声・竜崎洋三)

(声・岡本夏子)

## ロベルト・アポリ

リック・ディアスに金目込み。シャアのパートナーとして活動した。たりともし仲間を守るために、戦死した

(声・小島良)

## ミサイルエレカ

一年戦争以来コロニー守衛機など多く用いている。ミノフスキー粒子砲の落下での破壊を考慮した。年経過剰ミサイル搭載機

## ホム・アビス

小型のフォートエンジン。を個人で、ひとり乗りの有戦艦。土にのこし一用

## テンパーゼーション

戦艦に似た大型のフリイト機。兵をつとめていたシャトル。この時代の宇宙軍用機としては一番一般的なもの

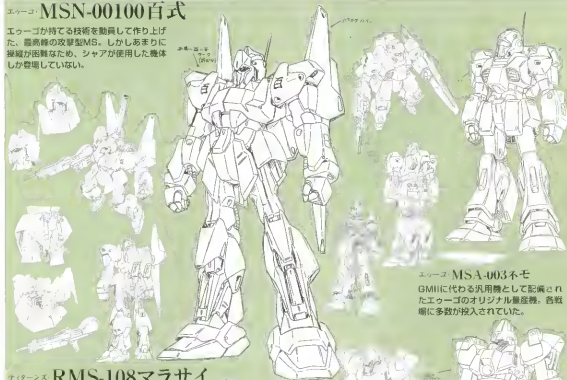
## ジュニア・モビルスーツ

MSを小型化したもので、戦艦にも乗る作業用と小一用が存在する。ただし機体色はほぼ統一していない

Episode 3~11 各話設定 サイド7宙域〜大気圏突入

エウーゴ MSN-00100百式

エウーゴが持てる技術を動員して作り上げた、最高峰の攻撃型MS。しかしあまりに複雑なため、シャアが使用した機体しか登場していない。

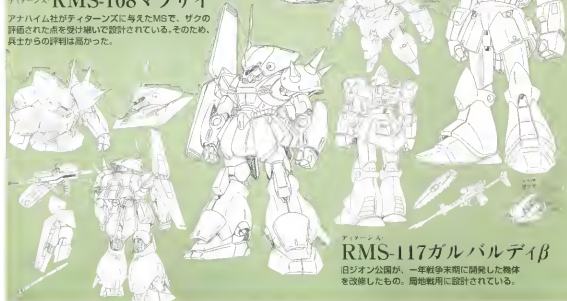


エウーゴ MSA-003不惑

GMIIに代わる汎用機として配備されたエウーゴのオリジナル量産機。各戦場に多数が投入されていた。

ティターンズ RMS-108マラサイ

アナハイム社がティターンズに与えたMSで、ザクの評価された点を受け継いで設計されている。そのため、兵士からの評判は高かった。



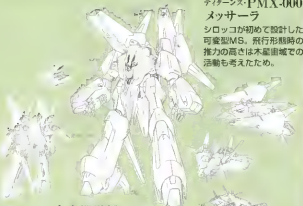
ティターンズ

RMS-117ガルバルディβ

旧ジオン公国が、一年戦争末期に開発した機体を改修したもの。局地戦用に設計されている。

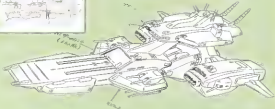
## ティターンズ PMX-000 メッサーラ

シロッコが初めて設計した  
可変型MS。飛行形態時の  
推力の高さは本星圏域での  
活動も考えたため。



## ティターンズ 宇宙巡洋艦 アレキサンドリア

サイズの割に砲塔やMSの搭載数が多い。  
アーガマのライバル艦的存在。同型艦に艦  
橋の形状のみが異なるバリエーションがある。



## エゥーゴ 宇宙戦艦アイリッシュ級

アーガマでの経験を元にして建造された新  
艦艇。そのため各所に似た部分が見受け  
られる。ラーディッシュ他、数隻が就役した。



## ティターンズ エゥーゴ 宇宙巡洋艦サラミス改級

サラミスに射出カタパルトなどのMS用装置や、対空用砲塔  
を増設したもので、両軍が多数用いていた。



## 第8話「月の裏側」

カミーユは彼を正規のパイロットにしようとするブレックスたち  
に反発するが、エマから地球で出会ったアムロの話を聞かされる。  
エマは、彼が宇宙に出られずに帰国しているのではないかと言う。  
一方、ライラを失って激怒したジェリドが月面に降りるアーガマ  
を攻撃してきた。カミーユは初の月面での戦いのハンディとジェ  
リドの気迫に死の寸前まで追い詰められるが、間一髪、シャアに  
助けられる。アーガマはアンマンに入港し、シャアはジオン船代  
の部下からアクシズとグリプス移動の報告を受ける。その頃、カ  
ミーユとエマは、月面を走行中、待ち伏せしていたカクリコンの  
攻撃を受けるが、偶然転がってきたハロのスクラップに救われる。

## 第9話「新しい絆」

ジャブローを偵察中のレコアは、連邦の兵士にスパイ容疑で逮捕  
される。が、そこへ現われたかつてのホワイトベースのクルー、  
カイ・シデンに助けられる。一方、拾ったハロにアムロの情報が入  
っていると考えたカミーユは、修理中に熟睡し、ミーティングに  
遅れてしまう。それを察知したウォン・リーに、カミーユは修  
正を受ける。エゥーゴはグラナダに入港中のティターンズ戦艦を  
襲い取る作戦を実行。シャアたちの先遣隊を追ってカミーユも出  
撃するが、その隙を狙ってアーガマをカクリコンが襲う。エマは  
リック・ディアスでこれを迎え撃つが、カクリコンの猛攻に危機  
にさらされる。カミーユはエマの危機を感じて全速力で戻る。

## 第10話「再会」

ガンダム用フライング・アーマーをアーガマに搬入中、ジャマイ  
カンがアレキサンドリアで攻撃をしかけてきた。ジェリドとカクリ  
コンはガンダムを捕すため、時差攻撃でカミーユに襲いかかる。  
カミーユはウォンとシャアの助けで危機を乗り切り、アーガマは  
月から脱出。作戦の集結地点へと向かう。そこで激突中のシャトル  
を発見したカミーユとシャアは救助に出るが、突然、シロッコ  
のモビルアーマーから攻撃を受ける。それを切り抜けたアーガマ  
はシャトルを回収し、機長のブライトを迎え入れる。カミーユは  
両艦をバスクに捕らえられ、難民になったファと再会する。

## 第11話「大気圏突入」

月へ戻るベンケンに代わり、ブライトがアーガマの新艦長になっ  
た。アーガマはジャブローへの降下作戦を開始するが、神秘艦に  
なっているカミーユは、ファと喧嘩。偶然の再会を果たした2人  
だが、心はずれ違ふ。カミーユのガンダムはフライングアーマー  
に乗って出撃するが、シロッコとジェリド、カクリコンらが軌道  
に追撃してくる。シロッコのメッサーラにエマのリック・ディア  
スは片腕をビーム・サーベルで叩き落とされ、カミーユは大気圏  
突入直前までジェリドとカクリコンに肉薄される。が、バリエー  
トを破られたカクリコンは、大気圏で燃えつき、落下していく。

## Episode 3~11 各話設定 サイド7宙域~大気圏突入

## エーゴ・ブライト・ノア

アーガマの艦長になり、またしても早すぎたニュータイプに行く末を見守ることになった男。でも彼は、永遠に真相を知ることはできないのかも知れない。



(声・飯塚洋子)



エーゴ・ブライト・ノア  
(全長 174cm)  
(体重 65kg)



(声・古谷徹)



エーゴ・ブライト・ノア  
(全長 174cm)  
(体重 65kg)



## エーゴ・レコア・ロンド

女性の性を打ち破ろうとしたがために、逆にそれに囚われてしまったレコアが求めたのは、純粋な愛だった。

(声・藤生真沙子)



(声・今村やす子)



## カヲバ・アムロ・レイ

アムロにとって「Z」の時代は休息の時だった。そして叱咤する多くの声と、複雑な想いに満ちたシャアとの両会で目覚めた彼は、再び宇宙を目指す! 決断のときを求めて...

## エーゴ・ヘンケン・ベッケナー

エーゴの理念に共感して参加した、彼のような人物こそが、本当の意味で戦いを支えたのだろう。

(声・藤原啓治)



## エーゴ・ブレックス・フォーラ

ブレックスはシャアの厳さと危うさを知りつつ、理論的指導者の役割を託した。その大きな戦の結果は、成功だったというべきなのか? 答えは誰も知らない。





## ティターンズ・カクリコン・カクーラー

敵に回せば力量、性格ともに確かな男だが、味方にすれば彼のような人物は親善の力になる。その事実を再認識させてくれた。

(声・戸谷公夫)



## ティターンズ・バスク・オム

ジャミトフの片腕となり、カミーユたちを苦しめた人物。いつかはティターンズの総帥になり、地球圏の覇者になることを夢見ていたのである。

(声・石川英郎)



(声・石川英郎)

連発軍・ライラ・ミラ・ライラの助戦にならなければ、宇宙で生きる真の意味はたどりつけなかったその姿は、すべてのオールドタイプに通じる。



## 第12話「ジャブローの風」

ジャブローに降下したカミーユとシャアは、迎撃部隊の攻撃をかわしながら中心部へ進んでいく。そこへ宇宙からカミーユを追ってきたジェリドのマラサイが奇襲をかけてくる。一方、捕らえた基地将校をシャアが尋問した結果、ジャブローは移転中であり、1時間以内に地下の核弾頭が爆発することがわかった。シャアは全軍を撤退させるが、基地内にレコアとカイの思念を感じ取ったカミーユはざりざり2人を救出、全速力で脱出するガルダへ向かって飛ぶ。ジェリドもまた混乱する基地から命がら脱出をはたす。ジャブローは核爆発とともに消滅する。

## 第13話「シャトル発進」

軍の監視下にあるアムロをフラウが訪ねてきた。フラウはハヤトの妻となりカツ、レツ、キッカの養い親となっていた。カツはアムロが軍の言いなりになっているのが独立したい。ジャブローを脱出したカミーユたちはハヤトの先導でケネディ宇宙空港へたどり着く。ハヤトはシャアが正体を隠しているとのカイからの手紙を受け取り、シャア本人に真偽を問う。が、あくまで否定するシャアの態度を許せないカミーユは、怒って殴りかかる。そこへプランのモビルスーツ隊が攻めてきた。プランのアッシマーはシャトル1機を破壊し、ロベルトは脱走を遂げる。かろうじてアポリ一機残のシャトルが宇宙へ帰還。シャアとカミーユは地球に残る。

## 第14話「アムロ再び」

カラバのアウトムラを追撃するプラン隊の支援に、ニュータイプ研究所からギャプランに乗る強化人間ロザミアが出撃してきた。アムロは、フラウ親子の見送りをききかけに再び戦いに身を投じようと決意。カラバ参戦のため、カツとともに輸送機を奪ってケネディへ向かう。一方、シャアたちを乗せたアウトムラはロザミアのギャプランに発見され、プラン隊の襲撃を受けていた。アウトムラの危機を知ったアムロは、カツを救出させ、輸送機ごとプランのアッシマーに激突する。不意を突かれたアッシマーはダメージを受けて数週。アムロはカミーユのガンダムに救助され、シャアと7年ぶりに再会する。

## 第15話「カツの出撃」

アウトムラと合流したものの、離陸生活が長かったアムロは戦いへの情熱を再燃させることができず、カツをいらだたせる。そんな中、ヒッコリーのシャトル基地に誘導する使者として、ベルトーチカがやってきた。ベルトーチカは一年戦争の英雄だったアムロに興味を抱く。サンフランシスコに連れたアウトムラはロザミアの攻撃に遭い、カツは独断でMK- で出撃しよう。捕獲に不慣れでピンチに立ったカツをカミーユが救出し、2人は共同でギャプランにとどめを刺す。脱出するロザミアの脱走意図に、2人の思念は通じ乱れ始める。

## ●Episode 3~11 各話設定 サイド7宙域~大気圏突入

## タイタース パパテマス・シロッコ

この人物を形容するならば「歪んだニュータイプ」という言葉が一番に連ない。革新するということは、独善だけでは許されないのだ。



[原・島田雄]



[原・島田雄]



## ウォン・リー

エコーゴを爆から支えるアナハイム社から派遣された男。社会を変え、戦争を止めた大人の理想の人物ともいえる。

[原・島田雄]

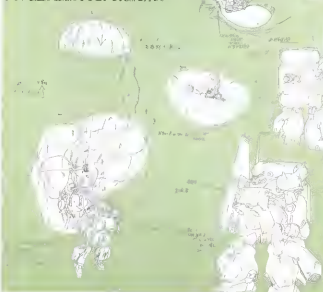


[原・宮内志来]



## バリュート・システム

巨大なクッションを展開、それをさらに空気の流れで包んで大気圏に突入する機材。汎用性は高いが、装置が複雑になるという欠点を持つ。



## カイ・シデン

心を迷わす続ける彼もまた、アムロと同じ。不幸なのは、彼には再び立ち立てる人がいないこと。

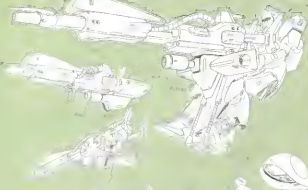


## フライング・アーマー

ガンダムMk-II用に試作された、大気圏突入オプション。Zガンダムのウェーブライダー形態の原型にもなった。大気圏内飛行能力も付与されている。

## メガ・バズーカ・ランチャー

MSが用いる最大火力のメガ粒子砲。MSの最大の利点である機動性を犠牲にするため、使用できる範囲は限られる。



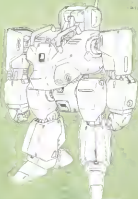
### 再突入カプセル

シャッポローの破壊直後を生き残り、シロアツが用いた、ひとかけりの大型再突入カプセル。コトネームは全ウツセンカ



### Jr モビルスーツ

前に紹介した小サイズ機とは異なり、こちらは作業用のもの。小型のメガ粒子砲の機を可能で、ウェンタを運用していた



### 宇宙用カプセル

人型のカミーユの母を閉じこめたカプセル。こゝろを食糧品に人を入れるのは、宇宙に生きる者の最悪の敵に化す



### 人工衛星

軌道にありながら空域監視網（上）と、軌道にありながら電波発信機（下）

## 第16話「白い闇を抜けて」

カミーユたちを宇宙に帰還させるため、アウドムラはヒッコリーへ飛び、カミーユ、シャア、アムロはヒッコリーへと降下するが、それを遮断してきたスードリからプランが急襲してくる。ベルトーチカの機に迎え、腰りながら目覚めはじめたアムロは敵を選え撃つ。カンはシャアを強引にシャトルに乗せて宇宙へ送る。戦闘に加わっていたカミーユは宇宙へ帰ることをあきらめ、アムロと協力してアッシュマーに向かっていく。ダメージを受けたアッシュマーのプランは負けを告げ、カミーユを運搬しにしようとする。それをアムロのビームサーベルが貫く。アムロは完全に復活する。

## 第17話「ホンコン・シティ」

日本のムラサメ研究所から、強化人間フォウ・ムラサメの操縦器巨大モビルアーマー、サイコ・ガンダムがスードリに襲入された。一方、アウドムラはニューホンコンに到着。アムロとベルトーチカはルオ商会に補給の協力を求め、そこで偶然、シャトルの順番を待つミライ親子に再会する。しかし、正体を怪しめたアムロは用心棒にとらわれ、ミライたちはベルトーチカと逃げ出すが、そこにサイコ・ガンダムが出現。ホンコンの街は炎に包まれていく。追撃に向かったカミーユは想像を超えるサイコ・ガンダムのパワーに圧倒される。しかしカミーユの強い怒りの怨念がフォウを逆巻かせ、ビームサーベルが命中。フォウはたまたます逆襲する。

## 第18話「とらわれたミライ」

アムロはミライにアウドムラへ来ることを勧めるが、彼女は夫ブライトの黒幕になるまいと決意していた。ミライ親子の存在を知ったディターンズ特務部隊のウッターは、母子を人質にし、アウドムラの引き渡しを要求してくる。カミーユは偶然出会ったフォウとドライブをしていたが、敵同士とは知らず、互いに心をひかれあう。カミーユは強盗でミライたちが奪われたことを知り、激しいアウドムラに戻る。一方、アムロは自分とミライたちの人質交換を試みるが失敗。ハヤトは降伏と見せかけ、カミーユをMk-IIで水中ひそかに潜行させる。水中でのガンダムとマリリン・ザクの戦闘の最中、アムロとミライ親子は脱出に成功する。

## 第19話「シンデレラ・フォウ」

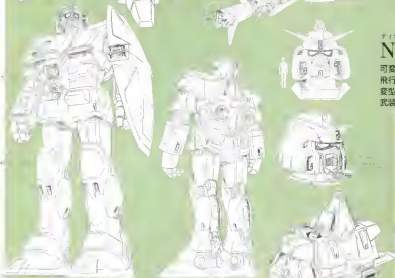
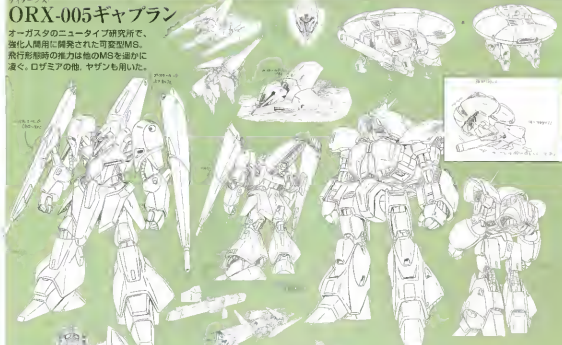
アウドムラにホンコンからの退去命令が出る中、カミーユとフォウは脱れぬ時を惜しむ。夜票を見下ろすビルの上、フォウの重たい背を重ねるカミーユ。フォウは自分が戦災児で記憶を失っていることを話す。だが、スードリの襲撃が始まるやいなや、フォウはカミーユの制止を振り切り、走り去っていく。カミーユはアムロに回収され、ガンダムで出撃するが、サイコ・ガンダムのパイロットがフォウと知り、愕然とする。カミーユは一向に宇宙へ行こうと呼び掛けられ、いじめられるのは嫌だ、という彼女の言葉に何も返せない。カミーユは飛び去るフォウを止められない。

## ●Episode 12-20 各話設定 ジャブロー〜ホンコン・シティ

ディターンズ

## ORX-005ギャブラン

オーガスタのニュータイプ研究所で、強化人間用に開発された可変型MS。飛行形態時の推力は他のMSを遙かに凌ぐ。ロザミアの他、ヤザンも用いた。



ディターンズ

## MRX-009サイコ・ガンダム

ムラサメ研究所で建造され、フォウが乗り込んだ可変巨大MA。その戦闘能力は強大で、カミーユたちは、サイコミュにより人に戦うことを強制する「悪魔のマシン」と呼んだ。

ディターンズ

## NRX-044アッシマー

可変することにより、初めて単体での大気圏飛行を可能にした機体。いわばこの時期の可変型MSの概念を立証した存在である。ただし武装は大型ライフルのみ。

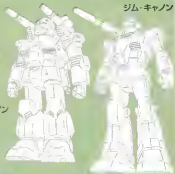
サイコ・ガンダム  
変形システム

サイコ・ガンダム コックピット

## MSVシリーズ

ジャブロー攻略戦などに登場したMS/バリエーションの数々。これらは一年戦争で活躍したMSや戦闘機、の原型及び発展型である。

ジム・キャン



ガン・キャン  
開発型



ザクキャン



強行機開発型 ザク

カンタンブル



アクト・ザク



飛行型 ザク

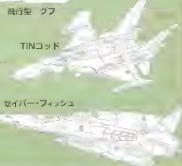


TINコッド



マリン ザク

セイバー・フィッシュ



## 第20話「灼熱の脱出」

アウドムラはニューギニアのティターンズ基地脱出に失敗。が、それを阻止しようと、ウッターがフォウに出撃を命じる。任務に成功すれば記憶を喪失と約束されて、サイコ・ガンダムを操るフォウ。ガンダムで迎撃に出たカミーユはサイコ・ガンダムのコクピットに飛び移り、フォウに自分のことを語って聞かせる。2人の心が溶け合い、フォウはもう1人ではないことによりやく心の平穏を取り戻す。カミーユの脱出を助ける決意をしたフォウは、スードリのブースターを出し、これで宇宙へ帰ってほしいと思いを送る。スードリの爆発を見送るながら、カミーユはブースターで宇宙へ脱出する。残したフォウへの想いに心を引き裂かれながら。

## 第21話「ゼータの鼓動」

ティターンズと手を結んだシロッコは、旗艦ドゴス・ギアを指揮し、ジェリド、マウアーを部下に持つ。ジェリドとマウアーは新型モビルスーツ・ガブスレイで出撃。アーガマに猛攻をかけ、エマのリック・ディアスを粉砕し、カミーユを死の寸前まで追い詰める。だが、止めを刺そうとしたジェリドのガブスレイに突然、ビームが命中。それは完成したZガンダムが放った光のもののだった。衝撃で宇宙空間に放り出されたカミーユはファに救出される。パワーで勝るZガンダムは、ジェリド、マウアーの攻撃を避ける。

## 第22話「シロッコの眼」

フォウへの想いを断ち切りがたく、理由もなくいらだつカミーユ。ファまで戦場に巻き込まない様子は、パイロットになろうとする彼女と距離が近づく。一方、シロッコの選んだニュータイプ候補生サラとシドレの副将に出たジェリドは、新型モビルスーツ・メタスとGディフェンサーを暴走中のレコアを発見する。ジェリドは独断で攻撃をかけ、アーガマからはレコア報道にカミーユと、実戦は初めてのファが出撃。カミーユは色づくサラのビームを受けそうになったファを助け、シドレを打ち砕く。サラは襲ってくる敵の意志に恐怖して撤退し、ジェリドは部下1人を失った闇を睨ってドゴス・ギアに選んでいく。

## 第23話「ムーン・アタック」

ティターンズが月の軍事衛星、フォン・ブラウ市を制圧するアポロ作戦を発動した。シロッコはジェリド、マウアー、エマの2人を出撃させる。それを阻止すべく、月面で激しいモビルスーツ戦を展開するエッゴ。アーガマは奮戦するが、グラナダからの援軍は間に合わず、ついにドゴス・ギアはフォン・ブラウ市の制空圏に入る。市民を盾にしようというのだ。ジェリドもろともカミーユとシャアを追い撃つシロッコの作戦に気付いたマウアーは、ジェリドを救うため急行。突撃しようとするジェリドの攻撃を妨害する。シロッコはフォン・ブラウ市に強行無罪し、アーガマとラーディッシュは撤退を余儀なくされる。

## Episode 12~20 各話設定 ジャブロー〜ホソコン・シティ

## カフ・ハヤト・コバヤシ

ハヤトは、良き兵士であると同時に良き父でもあらうとして、カズを宇宙に送り出した。そんな彼は果たしてカズの死を、どんな思いで聞いたのだろうか。



(声・河本清信)

## フラウ・コバヤシ

カズたちの養母としてだけでなく、実の子を胎内に宿すフラウ。アムロを叱責する姿には、かつてない力強さがにじむ。



(声・養母のふり)

(声・役高虎美)

(声・破音女子)

ハヤトの母

## ミライ親子

ブライトの妻になったミライとハサウェイ、チェーミンの3人。後にハサウェイは、短いながらも激動の人生を歩むことになる。

(声・白石幸美)

## レッズ&amp;キッカ

カズと離れ、ふたりになってしまったレッズとキッカ。地上に残った彼らに、死の瞬間のカズの想いが届いたことを切に願う。



#### 連邦軍・プラン・ブルターク

アウトムウ連邦軍の隊長。しかし  
ティターンズではない。自らも  
M4に乗り込んで暴徒に攻撃を仕  
掛ける。能動的な人物でもある

(声・中村晃利)

(声・大沢幸治)

#### 連邦軍・ベン・ウッター

プランの副隊長。連邦軍の機  
隊をまとめた後の計画。命  
運な人物に見えるが、部下か  
らの評価は低い

(声・入江雅子)

(声・高田真子)

ナミカ・コーネル  
フォンの副隊長と艦隊の司令官。プラン  
の命令に服従された。ムササミ  
研究所のインストラクター。フォ  
ンを連累して殺す非道な女性

#### ステファニー・ルオ

カンコンにある軍務委員会。ルオ  
委員の実質的な責任者。なぜ彼ら  
がカッパを支援するのか、その理  
由は固く守られている

### 第24話「反撃」

フォン・ブラウン市に潜入したカミーユは、ドゴス・ギアから下  
船していたジェリドとマウアーに発見されてしまう。窮地をカッ  
パに救われるカミーユだが、市内でファのメタスとヤザンのギャブ  
ランの戦艦が迫り、西はパニックに。カミーユとカッパは避難路  
へと逃れ、そこで市民がエウゴを支持しているを知る。突如機  
隊を呼ぶエウゴは市をティターンズから奪い返し、ジャマイ  
イカンはフォン・ブラウン市から撤退していく。一方、連邦議会  
に出席するため地球に降りたプレックスは、ティターンズによっ  
て暗殺されてしまう。シャアはジョンの息子として政治の舞台に  
出てゆかざるを得ないことを知る。

### 第25話「コロニーが落ちる日」

シロッコの部下サラがアーガマに投降。ジャマイカンはシロッコ4  
をグラナダに落とす作戦を密告する。ジャマイカンはシロッコの  
台帳を告げく思っており、それが今回のコロニー落としを決意  
させたのだ。サラの話を信じたカミーユにアーガマのクルーは従  
い、これを阻止するためモビルスーツ隊を発進する。その頃、サ  
ラは自分に好意を寄せるカッパを利用して、アーガマからの脱出をは  
かるうとしていた。サラはカッパにギャプランに死角があることを  
教え、ドッグから逃げていく。カミーユはカッパの情報でギャプ  
ランを避け、エマの活躍でサイド4はグラナダに直撃することなく、  
大きく道筋を変える。ジャマイカンの作戦は失敗に終わった。

### 第26話「ジョンの亡霊」

ヤザンはジャマイカンを戦艦に巻き込もうと画策。機動作戦でエ  
マのMk-IIとカッパの6Gディフェンサーをおびき出す。その  
空域には1年戦争で廃船になったグワジンが漂流しており、カッ  
パはコアファーターで逃げ込むが、追ってきたヤザン隊のアドルに  
捕らえられてしまう。一方、エマの支援で出撃したカミーユは、  
ヤザンのギャプランと一戦打ちになり、グワジン内に戦艦の機を  
移す。カッパはゲルググを動かし、バスーカでギャプランの片翼を  
吹き飛ばしてカミーユを助ける。形成が不利になったヤザンは戦  
艦を離脱し、アレキサンドリアにMk-IIを誘導。ブリッジを攻  
撃させ、ジャマイカン抹殺の計略を成功させる。

### 第27話「シャアの帰還」

アーガマとラーディッシュは、宇宙に帰還するシャアのシャトル  
を回収する作戦を編み出す。が、それを追うアレキサンドリアか  
らヤザン隊が追撃に出た。ジェリドもサラとマウアーをともない、  
メガランチャーでZガンダムを撃破しようとする。シャアは真実  
のシンクとクムを連れてシャトルからポートで脱出。アーガマと  
の合流地点へと向かう。サラのランチャーはカミーユのZガンダ  
ムを捕らえたが、閃光はすわかにそれ、シャトルを派遣させた。  
シャアのポートは無事、アーガマに救出された。



Episode 12~20 各話設定 ジャブロー〜ホンコン・シティ

連邦軍・フォウ・ムラサメ

この作品の象徴ともいえる、悲劇の強化人間。彼女の導きがなければ、カミーユの勝利はなかったに違いない。



マッ  
ラ・ド・ア・レン

(声・島津良子)

カッパ・ベルトーチカ・イルマ

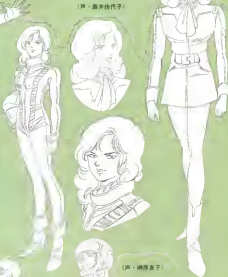
男を奮い立たせる女、それがベルトーチカ。彼女の力を借りて、アムロは再び戦いと向き合う覚悟を決める。



(声・田村万梨子)

ティターンズ・ロザミア・バダム

徹底的に精神を破壊され尽くした強化人間であり、彼女の心の叫びは、あまりにも悲痛な程に満ちあふれていた。



(声・島津良子)

(声・田村万梨子)

(声・田村万梨子)

ティターンズ・マウアー・ファラオ

敗北を続けるジェリドを愛した女。ライラ、カクリコンに就いて彼女すらも失い、ジェリドの感情は爆発する。



アウドムラ

シャトルの打ち上げを行う超巨大航空機。一度飛行を始めたら、本来は滅多に地上に降りることはない。同型機にスードリ、メロッドが確認されている。



アウドムラ シャトル発着口



## エューゴ・ドダイ改

エューゴが使用している大気圏内用サブライツシステムとは、いわゆるヘース・ンパー同様、連射軍で設計されたものである。



ティターンズ・ベース ジャババー  
自動操縦システムを兼ね、飛行性能はト  
ダイ改と大差ないが、機体下部にメガロ  
子断を1門搭載している。

## オブチカ

新機体にあるアムロが、着て戦うための新機体であるメーラン山への通称などに用いた。自作の軽飛行機



HLIV  
自衛隊用として用いられ、大  
気圏内用性能があり、反復使用  
が可能。Heavy-Lift Vehicleの略  
で、旧式の機体である。

戦争博物館展示物  
ハヤトが機体をつとめてい  
たメーラン山。展示する博物館の機  
体。展示する機体だったカン  
キョウも見受けられた。

シャトル用ブースター  
メーラン山に大気圏内用のための  
機体を与えるためのブー  
スター。これはカルダからの  
打ち上げに用いられるタイプ

## 第28話「ジュピトリス潜入」

レオアがレプリカのゲルグに乗り、ジュピトリスに潜入する。カミーユは自ら死地に行くレオアを止めようとするが、脱走は通じず、レオアはメタスをファに託して発進する。カミーユは後方支援のためZガンダムで出撃していたが、ダミー爆石に隠れていたところをサラのメッサーに発見され、戦闘に入った。メタスがカミーユの後を追ったファは、その戦闘に参加する。一方、ジュピトリス潜入に成功したレオアは、秘密行動中にシロッコに出会ってしまう。シロッコに不意に引き込まれるものを覚悟するレオア。警備の隊をついて脱出したレオアだが、シロッコのことはブライトに報告できなかった。

## 第29話「サイド2の危機」

シャアが月のフォン・ブラウンへ向かった頃、ティターンズはサイド2にG-3ガスを流し込む作戦を準備していた。月の拠点グラナダ進攻の足掛かりを作り、エーゴに強力なコロニーを見せしめようというのだ。それを知ってサイド2に急行するアーガマ。しかし、サイド2の市長は市議員の反対を制してティターンズに降伏しようとするが、アレキサンドリアのガディはこれを断絶。カミーユはZガンダムで出撃して高ガス舞台にアタックをかけるが、指揮を執るジェリドのガスレイは手強い。追い詰めるカミーユだが、カツのネモがガスポンベの襲撃に成功する。

## 第30話「ジェリド特攻」

アレキサンドリアはヤザン艦を襲に、アーガマをコロニーの残骸に誘導、そこに潜むジェリド、マウアーがこれを撃沈する作戦を開始する。ヤザン艦の降参にZガンダムをはじめとするモビルスーツ軍はおびき寄せられてしまい、アーガマはジェリドたちの襲撃を受ける。カミーユはアーガマ戦線にあわて駆けつけるが、ジェリドのガスレイがこれを防戦。カミーユはZのビームでジェリドを撃ち抜こうとするが、マウアーはガスレイごと艦に張りジェリドを守る。ジェリドはアーガマ撃沈を狙って特攻するが、操舵を失い、宇宙空間に流されてしまう。

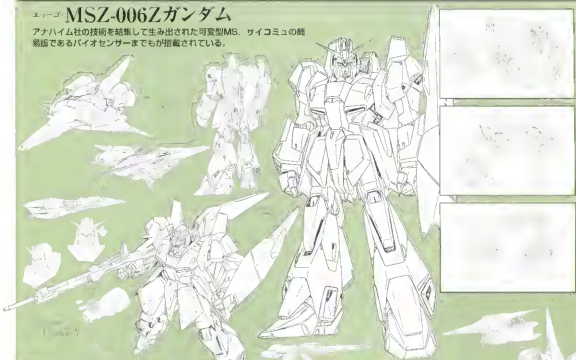
## 第31話「ハーブムーン・ラブ」

アーガマは補修のため、フォン・ブラウンへ入港。忙しいクルーたちをよそに、シグとクムは外へ出たがり、いつのまにか姿を消してしまふ。カミーユとファは2人を捜しに街に出るが、そこでサラに出会う。サラはシロッコの救命を帯び、アーガマ乗組のため港に避難を仕掛けにきたのだ。サラは優しく推してされたカミーユに感謝のことを告白してしまい、2人で艦歩を回収しようとする。が、今一歩でそれに失敗し、カミーユはサラを連れ戻す。アーガマは修理もおぼつかないままシャア、ウェンと合流すると発進。追撃してきたハンブラビ隊と戦闘になり、サラはこの機に乗じてアーガマから逃走する。

●Episode21-32 各話設定 宇宙〜グワダン

エゥーゴ・MSZ-006Zガンダム

アナハイム社の技術を結集して生み出された可変型MS。サイコミュの簡易版であるパイオセンサーまでもが搭載されている。



エゥーゴ・RX-178+FXA-05D

スーパーガンダム

能力的に見劣りし始めたガンダムMk-IIと、そのパワーアップ用メカ・G-ディフェンサーの合体形態。装甲・機動性・火力のすべてが向上する。



エゥーゴ・MSA-005メタス

Zガンダムに先行して開発された、試作機的な色合いが濃い機体。飛行形態を重視しているため、MS形態時には腰部構造が脆弱になってしまう。

## タイターンズ-RX-110ガブスレイ

攻撃力に重点を置いた、可変型攻撃用MS。巨大なクローを用いた接近戦も得意にしている。



タイターンズ-RX-139ハンブラビ

特異な形状の飛行形態を持つ機体で、全身に5つのセンサー（モノアイ）を装備、広い視野を持つ。



ゲルグクのレプリカ  
内部の機構はネオのものと異なっている。シャビトリスへの侵入などに使用された。



## 第32話「謎のモビルスーツ」

シロッコが旧ジオン勢力アクシズに接触するとの情報が入った。敵より早くアクシズに接触するべきとのウォンの主張が通り、アーガマは発進。追ってきたシロッコのドゴス・ギアに先制攻撃をかける。シャアはレコアを補佐役にメガバスター・カランチャーをドゴス・ギアに向けて発射するが、シロッコの与えるブラスチャーのため、強いはずでしよう。カミーユも出て出撃するが、ヤザンのハンブラビに首戦を強いられる。次第に劣勢に追い込まれるアーガマ。そこへアクシズから派遣されたガブCの大部隊が現われ、アーガマの救援に回る。一方、その戦いのさなか、レコアはシロッコに心惹かれるようになっていた。

## 第33話「アクシズからの使者」

アクシズのガブC部隊に襲われたアーガマ。ブライト、シャア、ウォン、カミーユたちはアクシズからの招きに応じてグワダンでミネバ、ザビと会合する。が、弱冠9歳のミネバがハマーンの操り人形と化してしまったことに怒ったシャアは、ハマーンを襲い、交戦は決裂。アーガマのクルーは監視されてしまう。シャアはカミーユと芝居を打ち、罪地を脱するが、ハマーンを暗殺するためグワダンの内部に潜入する。結局、それは失敗に終わり、シャアは皆と合流して脱出。そこをドゴス・ギアから発進したヤザンが急襲する。アーガマはラディッシュからの援軍で危機を脱する。その頃、シロッコはミネバに空想を働かし、アクシズに接近する。

## 第34話「宇宙が呼ぶ声」

グワダンでシャアをかばって負傷したレコアは、度々なる戦場で心にも大きな深手を負っていた。シャアが一向に構わず向いてくれないとしないからだ。そこへアクシズと手を結んだシロッコが、ヤザンにアーガマ攻撃を命じる。ヤザンはダミーのマラサイを匿しにモビルスーツ隊を引付け、その間にアーガマを沈めようとする。ヤザンが攻撃してきたとき、レコアは何かが囁んでいると感じ、シャアの制止も聞かずに出撃。しかしレコアの情緒不安定な動きがかえってヤザンを感じさせ、ヤザンのアーガマ攻撃は成功しない。戦況により、メタスは撃破されレコアは生死不明に。

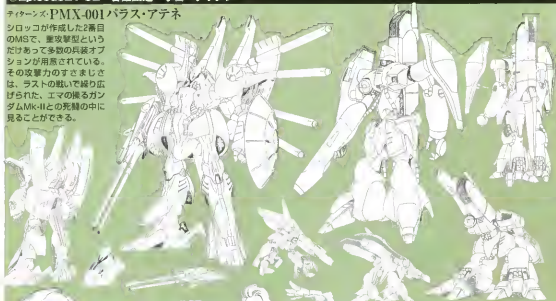
## 第35話「キリマンジャロの嵐」

ラビアンローズで修理を受けたアーガマは、カラバ支援のため衛星軌道上からキリマンジャロへの降参作戦に出る。タイターンズの基地へ攻撃しようというのだ。その作戦中、ヤザン隊が襲ってきて、カミーユはコントロールを失ったシャアの西式を助けてキリマンジャロに降下する。海に降り立ったカミーユは、サイコ・ガンダムを見つけ、汚水口から基地に潜入。そこでジャミトフとフォウに出会う。だが、フォウは脳波の両コントロール中で、カミーユとの両会にも何の感情も表さない。基地から逃走したカミーユとシャアは、カラバのアムロに救出される。

## ●Episode21-32 各話設定 宇宙へグワダン

## ティターンズ・PMX-001パラス・アテネ

シロクコが作成した2番目のMSで、重攻撃型というだけあって多数の兵器オプションが用意されている。その攻撃力のすさまじさは、ラストの戦いで繰り広げられた、エマの乗るガンダムMK-IIとの死闘の中に見ることができる。



## アノス・AMX-003ガサC

遠く離れたアステロイド・ベルトで、再戦の日に向けて力を蓄えていたアキシズ軍が作り上げた量産MS。変型タイプにも拘らず陸海空両用なのは、限られた資源をできるだけ有効に利用しようとしたためである。

## ディメンス・ヤザン・ゲーブル (声・大塚芳忠)

彼にとっては人の革新など関係ない。戦いの中で、いかに快感を得るかがすべてなのだ。そのため最後にはカミーユの怒りをもって機体を切断されるが、しぶとく生き残る。

## イクス・ミネバ・ザビ

ザビ家の末裔であるのに、なぜ人はこの幼い子供に希望を感じるのだろうか。しかし戦いの終結後にシャアによって連れ去られたといわれ、その後の彼女の成り行きを知る者はいない…。

(声・伊藤静)

## イクス・ハマーン・カーン

太陽の光が乏しいアステロイド・ベルトの生活が、彼女を歪めたのか。それともシャアとの経緯が、戦いに走らせたのか…。野望を抱き、それに覆れていく彼女は、「Z」から「ZZ」の時代の人々の象徴のようにも感じる。

(声・関智史)



【声・松本千夏】



#### シンタラム

ジャアに奪われる予感から、ミーユ・イブの策謀を止めるのを助けていたが、彼らと戦ったことはどうでもよいことだったかも知れない

#### ティターンズ

##### ダングルラムサス

ヤザンの部下のひとり。元来性格の悪い方ではなかったと思われるが、ヤザンと一緒にいることにより、さらにサディスティックな面がある



#### メラニー・ビュー・カーバイン

アハイム社の会長であり、エウゴに對する最大の仇敵。彼女の目的は不明だが、宗教と人権の交わりから立ち回っている

#### ティターンズ・アドル・ゼノ

ヤザンの発想の源で、優れたプロバシンの中でガブと笑顔を演じる



## 第36話「永遠のフォウ」

ジャアがキリマンジャロ基地に再攻撃を命令しないのに不満を抱いたカミーユは、単独で基地に潜入。フォウを救おうとするが、偶然、怪我の治療に来ていたジェリドに発見されてしまう。フォウは以前の優しい姿に戻っていたが、カミーユは彼女がティターンズの生み出した強化人間であることを知る。カミーユはフォウを連れ出して基地から脱走するが、カラバの攻撃が始まる。彼女と彼女の表情は一度、強化人間として目覚め、ジャミトフを宇宙に送すため、カラバのモビルスーツに攻撃を加えていく。が、ジェリドがカミーユに襲いかかる瞬間、フォウは正気を取り戻し、カミーユをかばってジェリドのビームに貫かれる。果敢とするとカミーユ。

## 第37話「ダカールの日」

ジャアとカミーユはアウドムラでタカールへ向かう。連邦議会を占拠して、ジャアの演説を世界に放送するため。ベルトーチカたちは反対派を拘束し、通信施設を奪ってジャアの到着を待つ。メロウドからのミサイル攻撃を受けながらもジャアは、ムロとカミーユの援護で地上に降下。ジャアは正体を明かし、議会からティターンズの非道な世界に訴える。ジェリドはパイアランで通信施設を破壊しに出るが、タカールは連邦の租借地であるため、ティターンズへの反感を地球の人間に植え付ける結果に終わった。その頃、セイラは兄ジャアの放送を地中深く聞いていた。

## 第38話「レコアの気配」

地球をムロに託してカミーユとジャアはシャルで再び宇宙に戻る。だが、衛星軌道上で2人の到着を待ち受けていたアーガマはヤザン軍の攻撃を受けていた。カミーユに代わって幼いシンタとクムはメタスを動かそうとするが、それを防いだファが自ら出陣。ハンムラビの海へビ攻撃からアポリを救う。カミーユとジャアはアーガマ救援に駆け出し、ジャアはメガランチャーで敵の旗艦アレキサンダーに照準を絞る。しかし、発射の瞬間、プレッシャーを感じたジャアは銃を外してしまう。カミーユはアレキサンダーに死んだと思っていたレコアの気配を感じ取っていた。

## 第39話「湖畔」

ティターンズの宇宙要塞グリプスで、バスクは強化人間の部隊編成を急いでいた。シロコが復讐できず、自ら戦いの先頭に立つため。その頃、アーガマは補修のため星光コロニーであるモルガルテンに停泊していた。カミーユたちはひとときの休息を楽しむが、そこへカミーユを兄と呼ぶロザミアという少女が現れる。奇妙なことにロザミアは、カミーユと一緒に写った幼い頃の写真まで持っているのだ。展覧プラントの中に隠れていたティターンズの隠れハイズックとジャアの一式との戦闘がコロニーの中で始まり、カミーユたちもそれに巻き込まれる。そこでカミーユは奇しくもミネバ・ザビを連れ戻したハーマン・カーンと出会う。

ファ  
新コスチューム  
メタスのパイロット  
になった。彼女の新しい機内着。軍正を  
見せるようになった  
のはカミーユのファ  
バールが。それとも  
無防備な姿を決定  
した。その中心を決定  
した。彼女が機内着  
に機内着を脱ぎ捨て  
ないことだけは、変  
わりない

## ●Episode21-32 各話設定 宇宙へグワダン

## ティターンズ・大型宇宙戦艦ドコス・ギア

ティターンズ艦隊の旗艦となるべく建造された大型戦艦。多数のMS射出カタパルトと砲塔を備えたその威容は、まさに彼らの攻撃性を具現化している。

ドコス・ギア 艦橋

グワダン 艦橋

## アクシズ・大型宇宙船艦グワダン

アクシズ艦隊の旗艦で、一年戦争時のグワダンをベースにしていることがわかる。同型艦が他に2隻存在しているともいわれている。

ジュビリス MSデッキ

## エウゴ・シャクルズ

宇宙空間用のサブ・フライト・システム。上部にMSを搭載可能な点は大気圏内用と同じだが、運用方法はかなり異なるであろうことが推察される。

ティターンズ

## 超巨大輸送艦ジュビリス

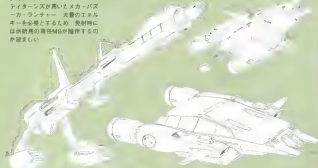
木星からのヘリウム3の移送用に建造された、この時代では最大の艦。木星船団は中立を旨としているのだが、シロッコは己の野望を果たすためティターンズに属した。

ティターンズ・ゲター

ティターンズの各部隊に配備されていたサブ・フライト・システムで、基本的な性能はシャクルズとほとんど同等である。しかし推進剤タンクが露出していないなど、洗練されたデザインをしている。

## 強化メガ・ランチャー

ティターンズが使い、メカ・パス  
ーカ・ランチャー。大量のエネルギーを必要とするため、発射時には供給用の専用MSが動作するの  
が望ましい。



## ブラフステーション

ティターンズとコロニーのトット  
ル。人間の移動には、大型のロケッ  
トではなく、この複雑な機体を携え  
るのが空流のようである。



## G3ガスボンベ

ティターンズはコロニー内の居住  
区を破壊するために用いたもので、  
かつてシオンが使ったものより  
も熱安定性の高いガスが充填  
されている。



## スペース・バス

サイド内のコロニー製をの  
軸するために作られた。民間  
会社は小型の宇宙船。もちろ  
ん人権力は低く、敵艦隊も  
破壊に強い。



## リムジン・エレカ

いつの時代にも通えることの  
ない、大型の乗用車。しかし  
そのハタリも強い。古  
新で、民衆の支持を得る。

## 第40話「グリプス始動」

モルガルテンから連れてきたロザミアにエマは違和感を感じてい  
た。シャアは強化人間の疑いありと見て、ロザミアの精神鑑定を  
医師のバランに依頼する。その頃、ティターンズがグリプス空域  
にコロニーレーザーを建造中との情報が入ってきた。カミーユは  
偵察に出るが、そこでメッサーラに果ったレコアと遭遇、大きな  
ショックを受ける。レコアは、いつか私の心はカミーユにも理解  
できる、完成したコロニーレーザーから早く暴動しろと言い残し  
て去っていく。バスクはついにコロニーレーザーをサイド2に発  
射し、多くの人の悲しみと苦しい思念がカミーユに響いてくる。

## 第41話「目覚め」

バスクがサイド2に毒ガスを注入する作戦を開始した。指揮を任  
されたレコアは、ティターンズへの忠誠を試されているのだと覺  
悟する。サイド2からの緊急通報を受けたアーガマは現場に向  
行、レコアはすでに毒ガスを注入した後だった。レコアに怒り  
をぶつけるカミーユ。そんな中、ロザミアが強化人間であることが  
検査の結果わかった。やがてカミーユの乗るZが敵と記憶を取り  
戻したロザミアはネモに乗ってアーガマから脱走、シャアがそれ  
をう。カミーユの前に現われた彼女がティターンズの中尉ロザ  
ミアと名乗り、Zガンダムの破壊とパイロットの抹殺を宣言する。

## 第42話「さよならロザミア」

グリプスのレーザー攻撃に備えてグラナダは逃避行動を取り、ア  
ーガマはラーディッシュとともにサイド2に進路を向ける。一方、  
ドゴス・ギアに買収されたロザミアは同じ強化人間であるゲーツによ  
って可変モビルアーマー、バウンド・ドッグのパイロット訓練を  
受けていた。サイド2の空域に到着したアーガマはティターンズ  
と戦闘になり、カミーユは13/パンチで再びロザミアと会う。しか  
しサイコミュに支配されたロザミアは肉親を殺したのはZガンダ  
ムとの偽の記憶に支配され、一緒にアーガマに落ちろと言うカミ  
ーユの呼び掛けにも反応しなくなっていた。結局、サイド2での  
戦闘はバスクの開始であり、ティターンズはグラナダに接近する。

## 第43話「ハマーンの嘲笑」

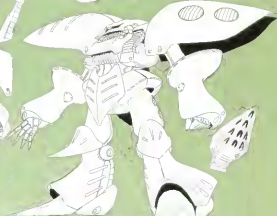
ティターンズのコロニーレーザーがグラナダを射撃距離に取  
めた。アナハイムのメラニー・ヒュー・カーバイン会長はアーガマ  
に特使を派遣。アクシズのハマーンと手を組み、この事態を収拾  
させるよう依頼してくる。プライトとシャアはこれを受け入れ、  
カミーユはグワタンへ被害を誘って飛ぶ。アーガマにやってきた  
ハマーンはシャアに目を下げさせると、これを了解。アーガマと  
ラーディッシュが闘争を掛け、その間にグワタンがコロニーレ  
ザー砲を破壊する間隙作戦に出る。ハマーンはバスクの後方支援  
に回ると見せかけて、グワタンの主砲をバリスエンジンに発射。  
グリプス2はその機能を停止させられてしまう。



# **Episode33-50 各話設定 地球〜決戦**

## **ティターンズ・PMX-003 シ・オ**

高出力のジェネレーターを搭載するシロコによる4輪目のMSで、復讐の最後の乗機になった。脚部の構造上素早い歩行は困難だが、50にも及ぶアポジモーターを持つため、移動にはなんら支障はない。



## **アガンズ軍・AMX-004 キュベレイ**

ハマーン用に作成されたサイコミュ搭載MSで、ビットからファンネルと名称が変わったオールレンジ兵器を多数内蔵している。かつてのエルメスにMSの機能を融合したものといえる。

カラバ

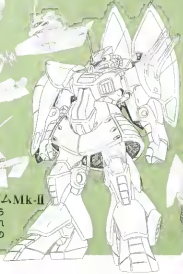
## **MSK-008**

### **ダイジェ**

リック・ディアスを中心に地上の反地球連邦組織カラバが独自に開発、アムロが乗機として用いた機体。そのためリック・ディアスと共通のオプション兵器を用いることが可能になっている。

## **ティターンズ・MRX-010・サイコ・ガンダムMk-II**

悪魔のメカ、サイコ・ガンダムをさらに強化した、超大型のMA。放出される悪魔はあまりにすさまじく、多くの人の悪志を取り込もうとした。





ティターンズ・NRX-055 パウンド・ドッグ  
ニュータイプ用に開発されたサイコミュ搭載可  
変MAだが、一般兵による操縦も可能。その異  
様な外観は、他に類を見ないほどだ。



ティターンズ  
RMS-164 ババグム

ティターンズがエゥーゴやアクシ  
ズの対決のために開発した。最  
後の最悪戦。しかし大量生産の  
間にティターンズは破壊。ついに目  
撃者通りに用いられることはな  
かった。



ティターンズ  
PMX-002 ポリノーク・サマーン

ソロノコの手による3機目のオリ  
ンダルM2で、武蔵よりも季節  
と機体設計に主眼を置いている。そ  
のため機体との連携時に最大の能  
力を発揮するが、そのような機会  
には恵まれなかった。



ティターンズ RX-160 バイアラン

後援でコストがかさむ愛宕機をなし、大気圏内  
の準低速飛行を目指して開発が進められた機体。その  
目的は達せられず、また機体バランスなどにも各  
種の欠陥が認められる。カリマニャロでは本気度試  
験のため用いられていた。



ティターンズ  
隠れバザック

撮影して作成するエゥーゴの機体やMSを攻撃す  
るために開発されていた。ロングレンジ・ライ  
フルの攻撃を可能にしたカスラム社製のハイザック。サ  
ラの汎用性の高さを示したのもといえる  
が、両機はシャアの敵ではなかった。



## 第44話「ゼダンの門」

エゥーゴと手を結んだかに見えたハマーンだが、一方でティター  
ンズのジャミトフとゼダンの門で会見していた。ザビ家利権の後  
押しを約束させるためだ。しかし交渉は決裂し、ハマーンはアー  
ガマに援軍を要請する。そのころ、シロッコの指示でアーガマの  
船底にポリノーク・サマーンで出ているサラはカミーユと対峙し  
ていた。シロッコに利用されているだけだとカミーユは呼び掛け  
るが、サラは聞き入れようとはしない。そこへゼリドも現われ  
る。サラの悪念を感じたカツは出撃するが、彼女もカツを利用す  
るかのように、ハマーンの味方にはならないでくれと話す。

## 第45話「天から来るもの」

サラはZに捕らえられ、アーガマに収容される。そうした中、エ  
ゥーゴの艦隊はゼダンの門に砲撃戦を開始する。エゥーゴがティ  
ターンズの戦力を釘づけにしている間に、ハマーンがアクシズをゼ  
ダンの門に激突させる作戦だ。その戦術中、サラは逃亡を図り、カ  
ツは彼女を追う。そんなシロッコのところに戻りたいのか、と  
疑問するカツ。一方、ファのメタスはレオアのバラス・アデネと遭  
遇し、彼女が生きていたと知って呆然とする。そこへゼリドが  
攻撃をかけてきた。ファを助けようとして戦死するアポリー。ア  
クシズはついにゼダンの門に激突し、ティターンズは最大の拠点  
を失う。この間、ハマーンは密かにグリプスに戦力を送っていた。

## 第46話「シロッコ立つ」

ゼダンの門を失ったジャミトフは、シロッコも交えてハマーン、  
シャアと会見する。が、サラを取り戻したカツが、シロッコの  
命を狙い、会談場所であるグワダンにGディフェンサーで潜入し  
た。それを聞いたカミーユはカツを止めようとくれとサラに集む。一  
方、それぞれの悪念が詰め合った会見は失敗に終わり、野心を持  
つシロッコは、サラの引込起こした混乱に乗じてジャミトフを暗  
殺。その罪をハマーンに背せて、ティターンズの実権を握る。シ  
ロッコはジ・オでハマーンのキュベレイと交戦するが、その戦い  
のさなか、カツはハマーンを射とうとしてサラを射撃してしまう。

## 第47話「宇宙の渦」

エゥーゴはアクシズの手に残ったコロニーレーザー砲を奪取すべ  
く、グリプス2を渦のように取り囲むGメールシュトローム作戦を  
始動する。カミーユは艦隊をグリプス2に向けため、アクシズの  
船底に出撃。カツもサラを失った悲しみを晴らすように、命令  
を無視してGディフェンサーで出撃する。カミーユはハマーンと  
ニュータイプ同士の大激しい戦術中、意圖の海に漂い、さまざまな  
人の悪念と出会う。ハマーンともわかりあえるのだと気づかされ  
るが、ハマーンは心の交流を拒絶。カミーユへの怒りをあらわに  
する。メールシュトローム作戦は成功し、ハマーンは全艦を撃退。  
エゥーゴはグリプス2を制圧する。

## セイラ・マス

戦いに疲れ、ひとり寂しく生きることを選んだ彼女は、そんな自分のことをあきらめにも似た心境で呼ぶ。ニュータイプになりそこねた女と…。

ティターンズ制服のレコアと  
その7年前  
シヤア・コロで受けた虐待から已むを得ず  
脱走した。シヤア・コロの定例で受ける  
虐待の行動を、誰か替えることが  
できるのだろうか

ティターンズ アジス・アジハ  
タカール守衛隊に配備されていた  
アジス・アジハのハイロッド・シヤア  
の調教師。その立場にも正義  
があることを理解する。調教師の  
高い「アジス・アジハ」の立場も、  
増々で完全に掌握できるとは  
ないことを認識していた

（原・矢野一樹）

## ロザミア（ロザミィ）

カミーユを見たときの第一印象を激  
したロザミィ。そんな彼女を不審に  
思いつつも受け入れたのは、カミー  
ユの彼女の中にフォウと似たものを  
感じたからに他ならない。それは、  
決して負けたらいい

## 室内屋のフォウ

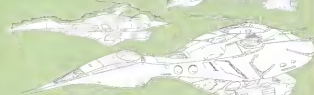
カミーユ・ド・カミーユと再会したフ  
ォウ。しかしその精神は戦場にも破壊され  
破壊マシーンになることを強要されてい  
た。人の意思を奪うことの恐怖と破壊さ  
を知らなければならない

（原・矢野一樹）

## ゲーツ&amp;ローレン

ロザミィを監視していたふたり。ゲーツは強  
化人間だが、極端に精神を失われずに行動を  
止まさない。これは強位の方向性と意思が  
一致したためである。それは彼が元から  
攻撃的な人間ということもある

アクシズ・宇宙戦艦グワバン  
グワバンを失ったアクシズの次の旗艦。  
戦闘能力はグワバンよりも劣るが、流れる  
ようなフォルムの美しさが、軍の象徴  
に相応しいかも知れない。



ティターンズ 宇宙戦艦ランバールティア  
ティターンズの旗艦艦。とはいっても、一部に  
アレキサンドリア級との共通点が見受けられ  
る。攻撃力は少ない。



ダミーカプセル  
レーザーや炎をセンサーを  
こまかくするために用いられ  
た。知らず知らずのうちに  
なる敵艦攻撃 巨大な艦  
船用のものもある

サイコ・コントロール・シート  
サイコ・コングラムを制御するためのシートで、  
ネリマンシヤの乗組員に設置されていた。乗組員の  
精神に多大な負担を強い

ノーマルスーツ/パイロットスーツ  
エゥーゴとティターンズを通して用いられていた  
もの。これは両軍ともに訓練場から着生したた  
めたが、なんとも皮肉な事実といえる



## 第48話「ロザミアの中で」

アクシズはグラナダへ落下する軌道を進んでいた。アーガマはその  
進路を変えるべく追跡する。そこへロザミアのサイコ・ガンダ  
ムMK-IIが襲いかかってきた。ロザミアはさらに強いサイコミュ  
の支配を受け、ゲーツを元と想い込むようになっていたのだ。カ  
ミーユに激しい攻撃をかけるロザミア。しかし、戦艦中、アクシズ  
のハッチにサイコ・ガンダムの足をばさめられたロザミアはノーマ  
ルスーツで無人の船にさ迷い出る。そこで先に潜入していたフア  
と出会い、追ってきたカミーユとも直接、言葉を交わす。どちら  
が本当の兄なのか、カミーユとゲーツの間で混乱したロザミアは  
再びサイコ・ガンダムに拘束。ビームを乱射するロザミアに危機  
を感じたカミーユは、フォウに助まれる声を聞いてビームを発  
射する。ロザミアの意図はようやく解散された。一方、グリプスか  
らのレーザー砲によって、アクシズはグラナダへの進路をそれる。

## 第49話「生命散って」

エゥーゴとアクシズ、そしてシロッコも加わり最後の戦いが始ま  
った。アーガマはアクシズから離れ、グリプス2の空域めざして  
全速で航行する。アクシズの攻撃で後退を余儀なくされているラ  
ーディッシュの救援に向かうのだ。ティターンズの生き残りであ  
るジェリドはカミーユに、シロッコの部下のヤザンはエマに話  
しかかる。しかし、その戦いの中、カツがジェリドに撃たれて死  
す。サラの迎えてくれる声を聞きながら絶命するカツ。カツの  
期期はカミーユ、フア、アーガマのクルー全員の心に届く。カミ  
ーユはジェリドを追い詰め、ついに止めを刺す。一方、ヤザンか  
ら背後を突かれたエマを助けようとしたヘンケンはラーディッ  
シュごとヤザンに特攻。しかし、ラーディッシュはヤザンの前に倒  
れ、エマは最後レコアと壮絶な相打ちを遂げる。多くの人の死  
に怒り悲しむカミーユは、ヤザンのハンパラビを舞う。

## 第50話「宇宙を駆ける」

Zガンダムは人の意志を喰い込んで力にできるメカ、その力で戦  
いを終わらせて、とカミーユに言い残して意地えるエマ。もう一  
人じゃないとの声にも動みされ、カミーユは真に倒すべき敵はシ  
ロッコとハマーンと定める。ブライトはグリプス2にレーザー砲  
の照準を合わせる暗号を送り、カミーユはその守りに出撃。しか  
し、それを破壊しにきたシロッコとハマーンに、シャは追い回  
められる。カミーユはシャを救出しに出るが、ハマーン、シロ  
ッコがそれに追いつく。レーザー砲の発射は刻々と迫り、ブラ  
イトはカミーユ、シャの脱出を待つ。カミーユとシャは救出し  
、ついにレーザー砲は発射。ティターンズの艦隊は壊滅状態に  
なる。シャはハマーンを腕に抱き寄せ、相打ちを遂げるが、  
爆発によって行方不明に。カミーユはフォウ、エマ、カツたち皆の  
意志に動みされ、ZごとZ・Oに特攻する。シロッコは死ぬが、そ  
の断末弔はカミーユの精神を破壊させるほどの傷を負わせる。

## ●Episode2 (1) ~4 各話設定 シャングリラ・コロニー

## ジドー・アーシタ

サイド1のコロニー「シャングリラ」でジャンク屋をしていた、生活力旺盛な明るい少年。ZおよびZZガンダムのパイロット。



(声・矢尾一樹)

## リナ・アーシタ

ジドーの妹で、アーガマの炊事なども担当したしっかり者。12話でグレミーに連れ去られ、転々とする。



(声・岡本有那)



(声・藤久美)

## エル・ビアンノ

ジドーに片思いのおてんば嬢。アーガマの通信担当。のちガンダムMk-IIのパイロット。

## イーノ・アップバー

おっとりした性格だが、コア・トップやメガ・ライダーの操縦を担当した。



(声・菊池正美)

## モンド・アガケ

ビーチャの権柄的存在。メカに強く、MSの修理もお手のもの。Mk-IIなどを操縦。



(声・菊池正美)



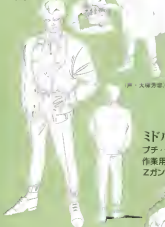
(声・山崎道子)

## ビーチャ・オレーグ

ひねくれ者だが、戦いを通じて成長。ネル・アーガマの艦長を任された。エルに気がある。

## ヤザン・ゲープル

シャングリラに流れ着いた元ティターンズ大尉。Zガンダムを奪い取ろうと奮戦した。



(声・大塚秀雄)

## ミドル・モビルスーツ

ブチ・モビよりもやや大型の作業用ボット。ヤザンはこれでZガンダムに挑んだ。



(声・宮田重典)

## ゲモン・バジャック

ジャンク屋のボス。金を目当てにZを偽造者として失敗。

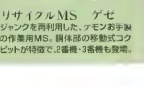


ステпень

コクピット

## ブチ・モビルスーツ

ジュードたち、ジャンク屋の店で広く使われている作業用ボット。通称ブチ・モビ。タイガーバウムの少年たちも使っていた。



リサイクルMS ゲゼ  
ジャンクを再利用した、アモンお手製の作業用MS。胴体部の移動式コクピットが特徴で、2番機・3番機も登場。

## 第1話「プレリウドZZ」

スペースコロニーが完成し、人類は宇宙への移民を開始した。宇宙世紀（U.C.）の始まりである。U.C 0090年には人類の総人口110億のうち90億が宇宙へ生活の場を変え、その人々はやがてスペースノイドと呼ばれるようになる。そんな中、地球連邦からの独立を目指したサイド3はジオン公国を設立。ミノフスキー粒子発見、モビルスーツ（MS）開発をもって準備を整え、0079年、地球へのコロニー落としによって連邦政府に独立の宣戦布告をする。ジオンの野望はニュータイプに見えつつあった連邦軍のアムロらの活躍で潰え去るが、軍閥ティターンズの跋扈、ジオン独裁軍アクシスが台頭するにいたり、宇宙は急速の度を深めていく。ガンダムZZまでで構築された、ガンダム世界をまとめた特別編。

## 第2話「シャングリラの少年」

サイド1・1/1（シンコロニー）のシャングリラに住む少年ジュード・アースタは、妹リナの手を救うために仲間たちとジャンク屋をしていた。ある日、彼らのコロニーに、グリプス戦争で勝利したアーガマが船の修復と補給のため寄港してくる。偶然救助したティターンズの生き残り兵ヤザンにこそめされたジュードは、仲間たちとZガンダムを奪って一戦を企んだ。しかし、ヤザンが人殺しも辞さない非道な人間であることを知ったジュードは、Zガンダムを動かしてヤザンを撃退する。不思議なことにジュードはZに乗る時、カミーユの思念を感じ取っていた。

## 第3話「エンドラの騎士」

アーガマを追ってシャングリラにネオ・ジオンの戦艦エンドラが入港する。艦長のマッシュマー・セロは、アーガマを無償で手に入れた。ハマーンに献上する機会を狙っていた。アーガマは入港後、事務職員チマッターの手引きでコロニー内のジャンクの山に底棲を隠すが、Zをあきらめきれないジュードはまたもアーガマに侵入。シンタとクムはジュードに親近感を覚え、彼をかくまう。そこへマッシュマーのガルルスJが襲いかかってきた。ジュードにアムロ、カミーユに似た資質を覗き取っていたブライトは、ジュードを試すためで出撃させる。ジュードはブライトの期待に応える。

## 第4話「熱血のマッシュマー」

騎士道精神にあふれたマッシュマーは、部下のゴットンが単独な作戦ばかり提案するのが気に入らない。病院ではカミーユを介抱するファに偶然会い、アーガマの乗員とは知らずにコロニーの安全を考えてこそ、住居を掌握できると決意を新たにすのだった。マッシュマーは再びガルルスJでアーガマに戦いを挑むが、たまたまZを盗みに来ていたジュードは、またもZに乗り込み戦う羽目になる。が、落し穴に誘導されたジュードのZはコロニーから宇宙に飛び出し、ブライトの指示で無重力の戦いを経験する。マッシュマーは激怒、ブライトはジュードがニュータイプだと確信する。

## ● Episode2 (1) ~4 各話設定 ネオ・ジオン

## マシュー・セロ

ハマーンに忠誠を誓う優秀なMSパイロットにして、専用艦エンドラの艦長。失敗続きのために左遷され、強化人間となって再登場。



原・高内賢雄

## ネオ・ジオン軍 宇宙巡洋艦エンドラ

ネオ・ジオン軍の主力で、同型艦にミンドラ、サンドラがある(ブリッジの形状は異なる)。



機動戦士ガンダムZZ

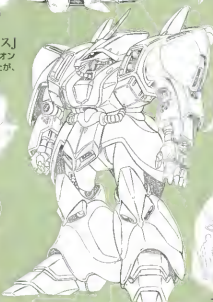
機動戦士ガンダムZZ

機動戦士ガンダムZZ

機動戦士ガンダムZZ

## ネオ・ジオン軍 AMX-101 ガルスJ

マシューがテストを担当した旧ジオンの流れを汲む汎用MS。Zには敗れたが、扱い易さを買われて正式採用された。



マシンガン

機動戦士ガンダムZZ

機動戦士ガンダムZZ

フィンガーランチャー

飛行ハーツ



コックピットハッチ



本体  
本体+飛行ハーツ  
が合体して下のよ  
うな完成形になる。



## ネオ・ジオン軍 AMX-102 スサ

ガルスJと同じく、エンドラでの実戦テストを経て量産化された高機動・重武装のMS。

## ゴットン・ボー

マシュマー（のちにキャラ・スーン）の副官。つくづく上官に思えない軍人であった。



（声：戸部公成）

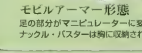


ミワイル  
ランチャー

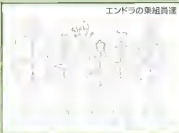


## モビルアーマー形態

足の部分がマニピュレーターに變形。ナックル・バスターは胸に収納される。

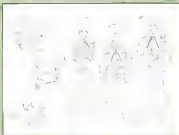


## エンドラの乗組員達



## ガザの嵐隊

マシュマーの部下で、ガザDを操る3人組。上官と同じく騎士道精神にあふれるチームだった。



## ネオ・ジオン軍・AMX-006ガザD

ネオ・ジオンの前身、アクシズが独自に開発したガザCの後継機。ナックル・バスターなど、武装が強化されている。



## 第5話「ジューの決意」

ジューの資質を見込んだブライトはパイロット候補生にならないかと持ちかける。が、ジューは船に乗ることを拒否し、リィナは兄を助けてみるとファに約束する。一方、アーガマ攻撃に手こずるマシュマーのもとにジャンク屋のゲモンが協力を申し出てきた。ゲモンは自作のリサイクルMSゲゼで出撃するが、シンクとクムが夜間に白旗でイタズラ書きした「ZG」の文字を発見し、Zが隠れていると勘違い。ジューたちの学校を襲いかかる。ファはZで食い止めるがとるが逆襲。ジューはゲモンを郊外におびき寄せ、ファに代わってZを操縦。ゲゼを追い払う。

## 第6話「ズサの脅威」

仲間のピーチャ、モンド、イーノ、エルはアーガマにとどまろうとするが、ジュー1人がそれに反対する。そんな中、マシュマーがコロニーを管理しているダマルを襲撃し、新型MSズサでアーガマに攻撃をかけてきた。カミーユが入院中の病院を守るためにファは整備中のメクスで出撃。アストナージはジューが特別でないことを証明しようとしてZで加勢に出るが、2人はズサの前に苦戦を強いられる。ファはZに乗ろうとしないジューにカミーユのことを話して聞かせる。お金儲けだけの兄は嫌いだというリィナにも誤解され、ジューは再びZに乗り込み、たちまちガザC2機を撃破。マシュマーの攻撃をしりぞける。

## 第7話「ガザの嵐」

エンドラが港に居残り、アーガマは工業用ハッチからの脱出を計画する。が、工業用ハッチを管理しているのはゲモンたちジャンク屋で、偵察中のジューは彼に捕らえられてしまう。その頃、Zに苦戦を強めさせられっぱなしのマシュマーは、情報であるガザの嵐事をアーガマ攻撃に発進させる。ファはZで、トールズはメクスで応戦するが、2機は彼らに倒壊される。ラビアンローズから派遣されたルーに助けられたジューはファと交代。ガザの嵐軍のガザ・ストームに苦しめられるが、ルーがコロニーに穴を開け、そこからガザDを放り出すことに成功する。

## 第8話「鎮魂の鐘は二度鳴る」

ガザの嵐軍を失ったエンドラの乗員は、アーガマを捕らえることを死者へのはなむけになると固く復讐を誓う。その頃、ゲモンはジャンク屋仲間を率いし、ヤザンとアーガマを奪う作戦を開始。2機のゲゼでアーガマに襲いかかる。ルーとチマッターの行動によって工業用ハッチはついに解放され、アーガマは脱出にかかる。エンドラはアーガマがハッチにさしかかるとのを見て主砲を発射しようとするが、ジューに破壊されたヤザンのゲゼが落下。主砲を破壊され、逆にアーガマのメガ粒子砲を浴びてしまう。アーガマはジューたちを乗せたまま無事、ジャングリラから脱出することができた。破壊されたマシュマーはアーガマへ仇討ちを決意する。



## ●Episode7~11 各話設定 ガンダム・チームVSネオ・ジオン

## ジュードのノーマルスーツ

エゥーゴ系のMS/パイロット用  
ノーマルスーツ。一般タイプ  
よりも動きやすい。



## ルー・ルカ

エゥーゴの志願兵で、ジュード一  
ちのお目付け的存在。主にZガン  
ダムを操縦して戦った。

（声 松井菜穂子）

## ノーマルスーツ



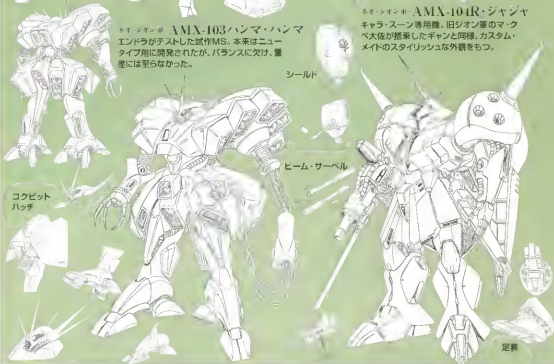
ネオ・ジオン軍 AMX-103ハンマ・ハンマ  
エンドラがテストした試作MS。本来はニュー  
タイプ用に開発されたが、バランスに欠け、重  
度には至らなかった。

シールド

ネオ・ジオン軍 AMX-104R・ジャジャ  
キャラ・スーン専用機。旧ジオン軍のマ・ク  
ベ大佐が搭乗したキャンと同様、カスタム・  
メイドのスタイリッシュな外観をもつ。

ビーム・サーベル

コクピット  
ハッチ



足裏

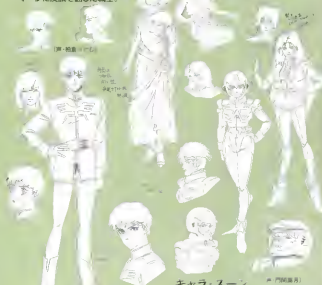


## グレイミー・トト

ザビ家の血を引くと噂され、ハマー・ドレズ姿に反旗を翻した戦士。

## ハマー・ドレズ姿

第8話に登場したパーティー・ドレズ姿。



## キャラ・スーン

マッシュマーの後任。MSに乗ると欲情する困った人物だが、技量は抜群。



## 第9話「宇宙のジュード」

シャングリラを出たアーガマはラビアンローズとの合流地点へ向かう。だが、水先案内人のルーは逢子になり、アーガマをエンドラに売り渡そうとするビーチャとモンドが強力な電波を送ってマッシュマーの巨大MSハンマ・ハンマを呼び寄せてしまう。ジュードはZで出るが、ビーム・ライフルのエネルギーバックを忘れて苦戦。ダミー戦石を用いて敵を惑乱させ、何とかガザの部隊を撃退する。マッシュマーはアーガマに内通者がいると言い残して後退していく。一方、ルーはアクシズの若き士官グレイミー・トトに捕縛されるが、民間人だと嘘をついて逃走。アーガマへ帰還する。

## 第10話「さよならファ」

ファはシャングリラに預けられたカミーユのことが気に掛かり、軍艦を守らないジュードたちにいらだつ。そこへビーチャの手引きで、再びマッシュマーのハンマ・ハンマが突撃してくる。戦果のおがらないマッシュマーの監視役としてハマー・ドレズが送り込んできたキャラ・スーンにアピールするため、ファはZで出たジュードにビーム・ライフルのプラグを盗るためメタスで出陣。だが、ハンマ・ハンマの攻撃に遭い、コントロールを失って漂流する。アーガマはラビアンローズからコア・ベースに乗ってきたルーの救援で早くもハンマ・ハンマを逃げる。しかし、アーガマ船内にはゴットンが潜入。ファはカミーユのいるシャングリラに連れられる。

## 第11話「始動! ダブル・ゼータ」

シントとクムが、シャングリラからファを連れ戻してやるというゴットンの口車に乗せられ、彼を強誘から逃がしてしまつた。ゴットンはいーノを人質にとってコア・ファイターでアーガマから脱出。ジュードとルーはZであとを追うが、ハンマ・ハンマとキャラの新型MS、Rジャジャに苦戦する。一方、ゴットンの操縦するコア・ファイターは戦石にぶつかり、ゴットンとイーノは宙にはじき出される。ラビアンローズに救助されたイーノはコア・トップで出てジュードたちと合流。ルーの指示で新型MSZZガンダムにドッキングし、パワーでマッシュマーとキャラを圧倒する。

## 第12話「リナが消えた」

訓練飛行中、ジャンク屋気分が抜けないジュードたちは乗棄されたザクをアーガマに持って帰ろうとする。だが、その間、失敗続きで左遷されたマッシュマーに代わってエンドラの艦長に収まったキャラがラビアンローズへ強襲。ルーとリナはジュードをたしなめに出ているところをグレイミーのガザに捕縛されてしまう。ジュードはリナが出たと知ってラビアンローズに急行。イーノも機庫中のZにザクの頭部をつけて救助し、ジュードとルーはZに変形させる。だがキャラとの戦いの最中、ジュードは意圖に広がる宇宙に圧倒され、しばらく戦果を喪失してしまう。この戦いで煉リナはグレイミーによってエンドラに連れ去られてしまう。

## ● Episode 11～ 各機設定 ZZガンダム

## エウゴ・MSZ-010ZZガンダム

アナハイム・エレクトロニクスが総力を結集したエウゴ側の最新鋭可変MS。頭部のハイメガキャノン砲をはじめ充実した武装と、追加装甲など豊富なオプション性能を誇る。

頭部

メガビームライフル

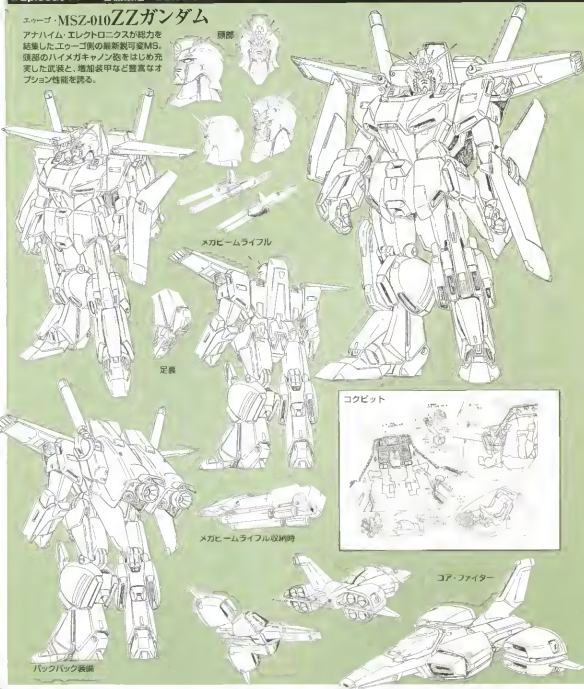
足義

メガビームライフル収納時

バックパック義体

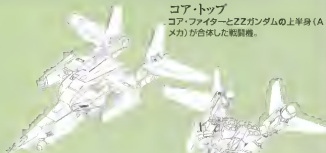
コクピット

コア・ファイター



### コア・トップ

コア・ファイターとZZガンダムの上半身（Aメカ）が合体した戦闘機。



### コア・ベース

コア・ファイターとZZガンダムの下半身（Bメカ）が合体した攻撃機。



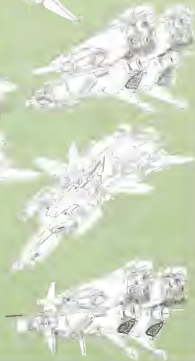
コクピットオープン  
コア・トップ、  
コア・ベース  
は機首のコク  
ピットからも  
操縦できる。



コア・ファイターなし  
上部にはミサイルポッドなど  
の武器を装着可能。

### Gフオートレス

ZZガンダムが攻撃機  
モードに変形したも  
の。この形態のまま、も  
とのZZガンダムに変  
形できる。



## 第13話「妹よ!」

ジューはグレミーにリナを連れ去られ苛立っていた。プライトは逆上して飛び出しかねないジューの監視をピーチャたちに命じる。しかし、エルの協力によってジューはZZでアーガマを脱出、リナの捜索に向かう。一方、エンドラに拉致されたリナは、グレミーの指導のもと、ピアノや礼儀作法など一応のレディになるための英才教育を受けていた。ゴットンにはリナの兄がZZのパイロットと知るや、ガザロで人質のリナをジューに見せつける。ジューは運道さもあり、なすすべもなくZZを調度させてしまう。この間、ピーチャとモンドが行方不明になる。

## 第14話「幻のコロニー（前）」

プライトはラビアンローズの艦長代理エマリーと接触。エンドラの追跡をふり切るため、アーガマを暗礁空域のムーン・ムーンに寄港させる。ムーン・ムーンは初期のコロニー開発時代に建設された古いコロニーで、機械文明を否定するヒカリ族が住んでいた。彼らは古いMSキャトルを神として崇め、光の教義を信奉。同時に入居していたエンドラのゴットンは、ジューたちと一緒にいるキャラが人質に取られたと勘違いし、リナをがガザロにくくりつけてキャラの返還を求めてくる。ジューはヒカリ族の少女ラサラに助けられながらZZで立ち向かう。Rジャジャを撃退したジューは、ヒカリ族に救世主として祭り上げられそうになる。

## 第15話「幻のコロニー（後）」

ラサラの双子の姉サラサは、光の教義を宇宙に布教するためアーガマの乗り取りを計画。そこにつけ込んだゴットンはサラサと神官オロに取り入り、ムーン・ムーンの支配を企図。プライト、エマリーたちは捕らえられてしまい、ジューはラサラの助けで神殿内に潜入。モンドはピーチャとエンドラ側に奪還していたが、ラサラに一目惚れし、MSキャトルを修理してジューたちに協力する。ジューはZZに乗ってエンドラに向かうが、戦艦中にリナは再びグレミーによって連れ去られてしまう。サラサはラサラによって目を覚まされ、アーガマはムーンムーンを後にする。

## 第16話「アーガマの白兵戦」

アーガマは再びラビアンローズで補修され、コロニーレーザー級のハイメガ粒子砲を装備する。一方、沈没したエンドラから新造艦ミンドラに移ったグレミーは、アクシズへ向かう途中、アーガマの補給に向かうランチをだ捕。エーグのミリィとメッチャーを雇立て、ゴットンは2人を利用してアーガマを襲う作戦を立て、独自に攻撃を開始。エンドラ生き残り部隊をランチに激まて、アーガマ侵入に成功する。だが、デッキ内での白兵戦に敗退したゴットンはエマリーを人質に乱戦を図る。ジューの活躍でエマリーは救助されるが、彼はノーマルスーツで溺れる生身の兵士に動揺。ついに兵士らに撃つことができなかった。

## ●Episode11~16 各話設定 アーガマ・ムーン・ムーン

## エマリー・オンス

エウゴに協力するラビアンローズの副長代理。プライトに思いを寄せている。ややドジな性格。



(声・水谷優子)



(声・島井佳代子)



(声・入江雅子)

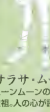


## リナ ドレス姿

13話に登場。グレミーによってアクシズに連れ去られ、レディ教育を受ける。

## アンナ

アーガマのメカニック。人手不足のため、看護兵の役目なども務めた。



## サラサ・ムーン

ムーンムーンの光族の教祖。人の心が読める。

## ラサラ・ムーン

サラサと対立していた双子の妹。ジューの助けて和解する。



メツチャー・ムチャ  
エウゴ本部の  
指令を伝える連  
絡役の下士官。  
身勝手な人物。

(声・中山由衣)

(声・水谷優子)

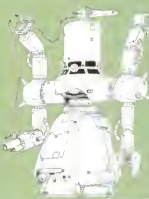
ミリィ・ナルダー  
アナハイムの社員で、メ  
カニックとしてエウゴ  
に協力。正義感が強い。

## エプロン姿

## アーガマとムーン・

ムーンでのキャラ  
ムーン・ムーンでの光族の  
衣裳と、アーガマの捕虜に  
なったときのエプロン姿。





## 50年前のメカ? キャスク

劇中ではキャトルと呼ばれていた、MSの祖先ともいえる大型作業機械。



ビーム・サーベル



ネイン・オン・パワ AMX-107 パウ  
上半身と下半身に分離する可変攻撃型  
MS。のちに量産化された。



パウ・アタッカー  
上半身 (Aパーツ) が変形した  
戦闘機。大気圏も飛行可能。



## パウ・ナッター

下半身 (Bパーツ) は支援必撃  
用の無人機に変形。パウアタ  
ッカーから操縦される。

## 第17話「奪回! コア・トップ」

メッチャーがブライトに伝えたエウゴの指令は、アーガンマーでアクシズを破壊せよという無茶な内容だった。アーガンマーは捕縛を終え、ハイメガビーム砲のテストを行なうことになるが、捕縛になっていたキャラがシンクを人質にコア・トップで脱走する。主角のテストは中止され、ジュードはキャラを追跡。そこへ突然、ルイーザ、エル、ガンダム Mk-II の援護でゴットンがキャラと共に追跡するが、突如襲われた黒いキュベレイのファンネルにガンダムチームは翻弄される。ブライトはハイメガビーム砲を発射するが、黒いキュベレイのパイロットはそれを無効にす。

## 第18話「ハマーンの黒い影」

ジュードはリナ救出のため、単身コア・ファイトでアクシズへ潜入する。が、そこで出会ったのはジュードを苦しげにお兄ちゃんと呼ぶエルビー・ブルという無邪気な少女だった。彼女の案内で宮内へ向かったジュードは、思いがけずハマーンと向き合う。ハマーンはジュードのニュータイプとしての潜在能力の高さに驚き、ジュードは同じ感覚ながら邪悪な意思を感じ取る。一方、アクシズの兵にねることを志願したピーチャとモンドは待遇への不満から、MSパワを奪ってアーガンマーへの脱走を図る。ピーチャとモンドが引き起こした騒動によってジュードは宮内から逃げ出す。その時、ブルが黒いキュベレイのパイロットだと知る。

## 第19話「ブルとアクシズと」

リナを助けたい一心のジュードは、ZZを手土産にアクシズへ脱走する。一度は脱走したものの、ジュードはブルの手助けで脱出、リナに会うことができた。だが、リナは彼をかくまうジュードにブルが重宝を立ててしまい、彼女はリナを人質にとってしまう。キュベレイに乗り、アクシズの街で暮れるブルにジュードは必死の闘争を繰り出す。一方、アーガンマーはアクシズのエンジン部にハイメガビーム砲を撃ち込もうとしていた。メガライダーに乗ったルイーザとエル、Mk-II はジュードを助け、アクシズから脱出。ピーチャとモンドもアーガンマーに帰還する。

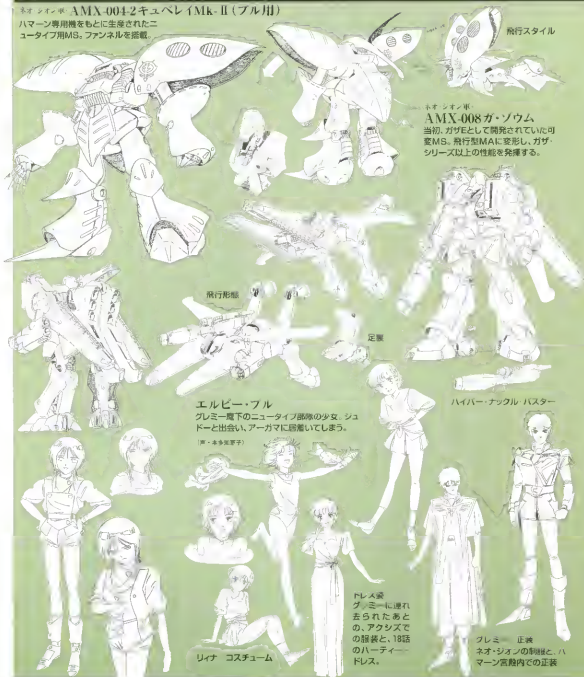
## 第20話「泣き虫セシリア (前)」

月のグラナダ基地で捕縛中のアーガンマーにウォンが現れた。ウォンはブライトに部隊と共に地球に降下したハマーンの追跡を命じる。ウォンはカミーユに代わったニュータイプのジュードの真実を認め、修正を加えようとする。そんな中、クルーのトールズはミレイに入ったビザンで幼なじみのセシリアと再会する。だが、セシリアはゴットンからアーガンマーの乗降先を問うように命じられたスパイだった。ピーチャとモンドは偶然見かけたゴットン隊の兵士、クレイユの話を聞き出し、同様の船が隠れる港を突き止める。ジュードはピーチャたちとその港を叩きしめる。

●Episode 17~20 各話設定 エルビー・フル登場

ネオ・ジオン軍 AMX-004-2 キュベレイ Mk-II (フル用)

ハーマン専用機をもとに生産されたニュータイプ用MS。ファンネルを搭載。



飛行スタイル

ネオ・ジオン軍

AMX-008 ガ・ソウム

当初、ガゼEとして開発されていた可変MS。飛行型MAに変形し、ガゼ・シリーズ以上の性能を発揮する。

飛行形態

足裏

ハイパー・ナックル・バスター

エルビー・フル

グレイミー麾下のニュータイプ部隊の少女、シュードと出会い、アーガマに搭乗してしまう。

(声・本多美恵子)

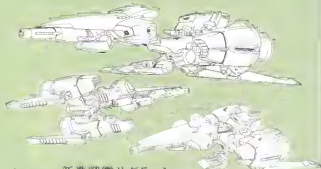


リナ コスチューム

ドレス姿  
グレイミーに連れ去られたあとの、アクシズでの服装と、18話のパーティードレス。

グレイミー 正装  
ネオ・ジオンの制服と、ハーマン宮殿内での正装

エコーゴ・MS支援兵器メガ・ライダー  
アナハイム社製の巨大なMS用ホバーバイク。3機のMSを  
載せて飛行でき、コクピットの居住性にも優れている。



ネオ・ジオン軍・新造戦艦サダラーン  
グワダン、グワンパンに続くハーマン  
の旗艦。大気圏突入性能を有する。



ハーマン 軍服姿

(18話)

私服 (18話)

日光浴姿 (18話)

## 第21話「泣き虫セシリア(後)」

古い輸送船を買い占めたゴットン、それを次々と港へ落とし、  
アーガマをいぶりだす作戦に出る。キャラはその混乱に乗じてア  
ーガマからMk-IIで脱走。セシリアはスパイ容疑で死刑になる  
と知り込み、ゴットンから移民船の切符を受け取ると、家族と共に  
グラナダからの脱出を図る。だが、ゴットンが暗殺だと気づて  
運した金塊はじつは特殊爆弾だった。セシリアはトレスに逢を  
ついたことを悔い、シャトルの乗客とグラナダの街を守るために  
特殊爆弾ことガ・ゾウムにしがみつくと、セシリアを助けようとする  
ジューの目の前で、彼女はゴットン隊のもとで宇宙に散る。

## 第22話「ジュー、出撃!!」

グラナダを離れたアーガマに、地球への降下を始めたネオ・ジオ  
ンの旗艦サダラーンの攻撃命令が下る。ジューはリィナがネ  
オ・ジオンの艦隊にいるのにらみ、ZZで独断で出撃する。だが、  
ZZにはピーチャの雷だくみで爆弾がくくりつけられていた。ジ  
ューの失敗を誘い、ピーチャはZZのパイロットの座を奪うつ  
もりなのだ。ジューの脱走を感じたハーマンは、彼をサダラー  
ンに誘導する。ニュータイプ同士、手を離さないかと持ちかける  
ハーマン。しかし、ジューはそれを拒否し、ピーチャの爆弾で  
ハッチを破って脱出。強敵ラカン・ダラランのドライゼンの攻撃  
を受けるが、エルとルーの救援で撃退する。

## 第23話「燃える地球」

ブライトは騒動を見いだせぬピーチャとモンドを慰めしな  
がら、アーガマを再びハーマン艦隊攻撃に向ける。ジューはリ  
ィナを救出するチャンスに賭け、ネオ・ジオンの地球降下を阻止  
すべく出撃する。だが、そこへブルのキュベレイが出現。ブルは  
グレミーによって精神操作を施され、ジューを敵と思い込んで  
いたのだ。ジューは必死にブルを目覚めさせようとするが、ノ  
ーマルスーツで向き合っても彼女は銃を向けてくる。やがてZZ  
はキュベレイと共に大気圏に突入。ハーマンはアーガマの攻撃を  
かわし、地球への降下を開始する。

## 第24話「南海に咲く兄妹愛」

アフリカに降りたアーガマは星と水圏両用MSカブールの攻撃に  
苦しめられるが、地元の漁師の案内で安全な入江にしばし羽根を  
休める。だが、そこはすでにダカールの連邦軍を制圧したネ  
オ・ジオン軍の勢力下にあった。一方、ジューはリィナがいる  
ダカールへ向かうため漁船に潜り込み、タマンという少年とその  
妹アヌと出会う。じつはタマンはお金欲しさにネオ・ジオンの手  
先として働いており、アヌは危険なその仕事をやめて貰いたがっ  
ていた。タマンがカブールでアーガマ攻撃に出撃したと知ったジ  
ューはZZで彼を連れ戻しに出る。ジューはザク・マリナ  
の攻撃からアーガマを守り、タマンに戦争の真実事をやめさせる。



# Episode 20~25 各話設定 月と砂漠

## セシリア

グラナダに住むトーレスの幼なじみ。弟のピートら、家族の移住費用を稼いでいた。



(声・三宅健太)

(声・池田小百合)

(声・島崎信長)

## タマンとアヌ

24話に登場した漁師町ビサウの兄妹。



(声・大峰秀介)

## マガニー

サンドラに配属されていたニュータイプ関係の医師。

(声・橋野実)

## ラカン・ダカラン

MS戦の得意なネオ・ジオン将校。グレミーに協力。



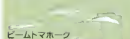
ネオ・ジオン軍

## RMS-192M ザク・マリナー

タマンたちが使った水陸両用MS。旧型だが、性能や武装を強化されている。



ビームランナー



ビームトマホーク



ハンドガン



突撃形態

ネオ・ジオン軍

## 重MS・AMX-009 ドライセン

リック・ドムⅡの発展型で宇宙戦、陸戦どちらにも使える。機動性よりもパワーで勝負するタイプ。

ネオ・ジオン軍

## 水陸両用可変MS・AMX-109 カブール

アクシズで開発された機体で、ゴッグに似たコンセプトをもつ。ザク・マリナー隊とともにアーガマを襲った。



## 新コスチューム



第25話に登場した、日の元と砂を歩く簡易マント(布に穴を開けたもの)。

第25話以降、舞台が地球・アフリカ大陸へと移ったため、メイン・キャラの服装が夏用の軽快なものに変更された。

## 第25話「ロンメルの前」

アーガマはカラバと行動を共にし、別働隊のガンダムチームとダカールのネオ・ジオンを読み撃つにする作戦を開始。ジュドーたちは砂漠地帯からダカールを目指す。だが、そこにはザビ家再興を誓って8年を待ち続けた旧ジオン軍の残党、アフリカ解放戦線ロンメル部隊が待ち受けていた。同部隊は旧式のMSながら、砂漠の地形を生かし、デザート・ザク、ドワッジでガンダムチームを苦しめる。しかし、8年という月日は長く、ジュドーが子供だと知ったロンメルは時代からと預られていたことを痛感。ザビ家再興の夢と共にガンダムチームに涙を流す。

## 第26話「マサイの心」

水を探しに出たジュドーは、不時着したところをマサイという土地の少女に救われる。彼女の案内でガンダムチームはオアシスのある村にたどり着くが、なぜか村人は水を分けてくれない。じつはマサイの亡くなった恋人は旧ジオン兵士で、戦争への恨みと共に彼女は村人から白い目で見られていたのだ。マサイはタグの名前を聞かすため、隠していたMSゲルググでガンダムチームに戦いを挑んでくる。ガンダムを倒せば村人の恨みも取り戻せると思ったのだ。この日のためにMSの訓練に勤めてきたマサイだったが、やはりZZは手に負える相手ではなかった。ジュドーに雇われ、マサイは涙を垂れることなく再び孤独な生活に戻る。

## 第27話「リナの血(前)」

ハマーンはネオ・ジオン軍の力を誇示するため、ダカールで大バレーを敢行。迎賓館のパーティーには連邦政府の要人を招き、ミネバ・ザビが後援者だと印象づける。クレミーに伴われたリナは社交界デビューを果たすが、日見主典の大人たちに嫌悪感を催してしまふ。一方、ガンダムチームは夜を待ってダカールに奇襲をかけ、ジュドーはその混乱に乗じてリナを救出。だが、そこへハマーンが現われ、ジュドーをかばったリナが銃弾を受けてしまふ。怒りに駆られるジュドーは巨大な邪念を放射。ハマーンをおびえさせるほどのプレッシャーを与える。

## 第28話「リナの血(後)」

ジュドーはリナを連れてコア・ベースで脱出するが、襲撃されて海を漂う。プルは2人を発見するものの、リナがいてはジュドーは戦いに集中できないと兄妹を引き離しにかかる。ジュドーはプルの孤独な心に同情し、みんなで兄妹になればいいと闘争し、プルの気持ちはようやくやく落着く。一方、ハマーンがクレミーの監視に送り込んだオウギスト・ギダムのドライセン部隊も並び、ガンダムチームは苦戦を強いられていた。ジュドーは救援に駆け付け、アーガマはハマーンの旗艦サダランに主砲を発射。ネオ・ジオンはダカールから撤退するが、戦員によって整備したドムがリナのいる小屋を直撃。リナは死んだかと思えた。

## Episode25~31 各話設定 アフリカ戦線

## ロンメルとカラハン

ジオン再興を夢みて砂漠に潜んでいた旧ジオン軍中佐と密告。



(声・玄田哲章)

## ニキとその家族

ロンメルの部下。妻子を振りきって出撃する。



(声・島田敏)

## マサイ・ンガバ

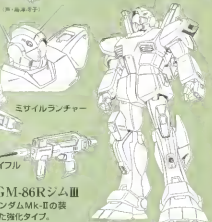
死んだ恋人に代わってジューたちと戦った。



(声・横山幸子)

## アマサ・ホーラ

ダカールでカラバと戦ったドワッジ隊の隊長。



ミサイルランチャー

ビーム・ライフル

カラバ RGM-86RジムⅡ  
ジムⅡにガンダムMk-IIの装  
備を導入した強化タイプ。

## 旧ジオン軍 MS-09HDワッジ改

一般用よりも強力なブースター、ビームカンなどを装備。



ビームカン

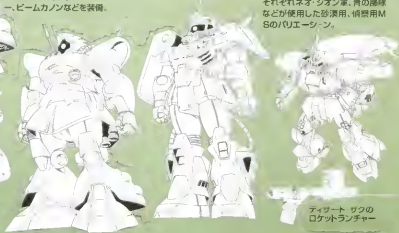
## 旧ジオン軍 MS-09GDワッジ

ドムのバリエーションで、ホバー性能をもつ砂漠戦用MS。ドムとも呼ばれる。



## ディザート・ザク、アイザック

それぞれネオ・ジオン軍、青の部隊などが使用した砂漠用、偵察用MSのバリエーション。

ディザート・ザクの  
ロケットランチャー

## ブルの新コスチューム

アーガマ内での衣装。髪型も微妙に変わった。



(原・伊藤嘉紀)

## ミネバ・ザビ

ハマーンが設立したネオ・ジオンの家紋(実は影武者)。



## オウギュスト・ギタン

ドライセン部隊を率いる野心家の士官。グレミーの諜反を知るが...



(原・大河内俊)

止装のハマーン  
26話、ダカール占領の祝賀パレードでの衣装。

## ジュネ・コク

ガルダーヤでルーを口説いた芸術家。意外と三枚目。

(原・日暮勉一)



## デイドー・カルトハ

青の部隊の隊長。血気にはやる部下をかばって戦死。



(原・練方真一)

## ガデブ・ヤシン

アフリカ独立運動の英雄。キタンを通じてネオ・ジオンと協力。

(原・寺田謙一)



(原・池田雄)

## エロ・メロエ

青の部隊の生き残りでトアレグ族の戦士。グルグ・レプリカを操る。

(原・日暮勉一)

(原・日暮勉一)

## 第29話「ルーの逃亡」

アーガマとカラバの合流を阻止したいハマーンは、グレミーとギタンにカラバの拠点、エルゴリアを攻撃させた。ジュードはリイナを失った悲しみで自分の船に閉じこもったままだったが、ブルに動員されて出撃する。だが、ガンダムチームのチームワークはばらばらで、戦闘中、ピーチャはグレミーがルーを好きなことを利用して、コア・ファイターに乗った彼女を盾にバウを攻撃。ルーとグレミーは砂漠に投げ出されてしまう。ネオ・ジオンの空軍で破壊されたエルゴリアの街を見たジュードは、理不尽に死んでいった人々を悼み、もう一度戦う決意を固める。

## 第30話「青の部隊(前)」

ルーは自分を盾にしたピーチャが許せず、アーガマには戻らない。自由貿易の街ガルダーヤに迷いこみ、芸術家取りの男ジュネと知り合う。一方、グレミーはヨーロッパ人から街の奪還を目指すアフリカ解放戦線の青の部隊に捕われ、隊長ディドーの命令で地下街に潜入する。が、そこで2人は鉢合わせし、グレミーとジュネはルーをめぐって張り合いを演じる。その頃、ジュードたちはルーを探しに出た砂漠でグルグ・レプリカに乗った青の部隊の兵士、メロエの攻撃を受けていた。ガンダムチームはこれを見逃し、ジュードはルーを探しにガルダーヤに降りる。

## 第31話「青の部隊(後)」

ガンダムチームから隊を守って死んだディドーは、グレミーをネオ・ジオンの士官と見込んで青の部隊を託していた。ジュードたちはルーを探してガルダーヤの街をさまよっていたが、そこへアフリカ解放戦線の指揮官ガデブ・ヤシンと共同戦線を張ったギダンの部隊が襲ってくる。ギタンは解放戦線を利用し、ガルダーヤをネオ・ジオンの基地にしようと思っていたのだ。メロエは理念を重切って街を破壊するガデブ・ヤシンが許せず単身戦うが、悲壮ばで戦死。ジュードはピーチャ、モンドの救援でこれを撃退する。グレミーは勝手な行動を取ったギタンを叱責し、ディドーの無念を晴らす誓いを立てる。

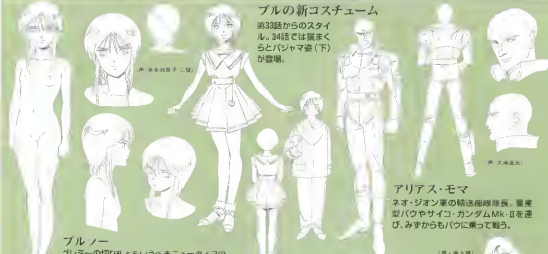
## 第32話「塩の湖をこえて」

アーガマとの合流に向かうガンダム・チームはメルリル湖という塩湖に出る。しばしの休憩を取るジュードたちをまたもギダンのドライセン部隊が襲う。ギタンはグレミーが潜存しているニュータイプ部隊の存在を知り、ハマーンを捨て、ザビ家の血脈である彼に復讐を願うようになっていた。ギタンは威嚇だけでその場を去り、次にダブリンへと向かっていたアーガマを攻撃する。ジュードたちはアーガマ救援に急行するが、エルに気のあるピーチャは、彼女がジュードの活躍を羨ぶのが気に入らず、ZZに乗ってドライセンを避え撃つ。しかし慣れない機体で思うように戦えず苦戦。ジュードは百式を射出してもらい、ギタンを撃退する。

●Episode32~37 各話設定 ニュータイプ部隊①

ブルの新コスチューム

第33話からのスタイル。34話では猫まくらとバジャマ姿(下)が登場。



ブルノー

グレンミーの切り札ともいうべきニュータイプ少女。ブルと同じ姿で、同じ運命をたどる。

ダナ・キライ

アリアス・モマの副官。同じくパウで戦い、ブルを危機に陥れた。

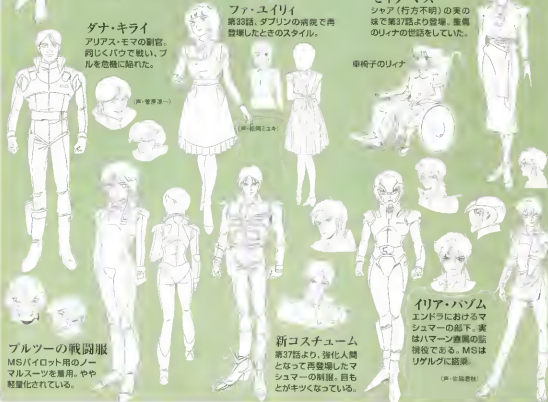
ファ・ユイリ

第33話、ダブリンの病院で再登場したときのスタイル。

セイラ・マス

ジャア(行方不明)の実の妹で第37話より登場。重傷のリナの世話をしていた。

車椅子のリナ



ブルツウの戦闘服

MSパイロット用のノーマルスーツを着用。やや軽量化されている。

新コスチューム

第37話より、強化人間となって再登場したマシマーの制服。目もとがキツくなっている。

イリア・バゾム

エンドラにおけるマシマーの部下。実はハマーン査問の監視役である。MSはリゲルグに搭乗。

(声・佐藤美樹)

### ネオ・ジオン軍・AMX-011ザクⅢ

旧ジオン軍の主力MS、ザクの正統な後継機。高性能だが、ラカン機のみで量産はされなかった。

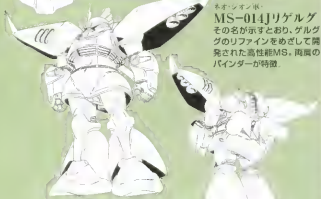


バックパック装着図

ネオ・ジオン軍・

### MS-014リケルグ

その名が示すとおり、ゲルグのリファインをめざして開発された高性能MS。両翼のバインダーが特徴。



### ネエル・アーガマ

37話より登場したエゥーゴの新造戦艦。アナハイム社製で、ジュードたちの新たな旗艦となった。



## 第33話「ダブリンの午後」

アーガマは地球連邦の高官を訪ねるためダブリンへと向かう。だが、そこへ宇宙から量産バウとサイコ・ガンダムMk-IIをサンドラへ進送中のアリアス・モマが襲ってくる。ブルの活躍でアーガマはこの危機を脱出し、ダブリンに到着する。しかし、連邦の高官たちはブライトを歓迎せず、ハマーンとの和平交渉のためにはアーガマの武器破壊さえ許さない態度を見せる。ブライトの後を追ってきたジュードは怒りから高官に殴りかかり、ブライトと闘争されてしまう。アーガマをおびき寄せるためにアリアスはダブリンへの空襲を開始し、2人が陥落された艦隊は炎に包まれる。

## 第34話「カミーユの声」

ジュードとブライトは偶然、ダブリンの病院で働いていたファに助けられた。アーガマに戻ったファは再び見たシンタ、クムを抱きしめ、奮然としていたカミーユが病院から行方不明になったと話し出す。ガンダムチームはカミーユを手分けして探し始めるが、その瞬間突いてグレミーのサンドラが接近してきた。ブルはこの危機を乗り切るため無断で出撃するが、サンドラのサイコ・ガンダムMk-IIから発する波動に感化されてしまう。ジュードはブルの危機を伝えるカミーユの声を聞き、ZZで救出に向かう。サンドラはZZのハイメガビーム砲の前に後退する。

## 第35話「落ちてきた空」

カミーユは発見され、アーガマに収容。そこへハヤトがハマーンのコロニー落としの情報をブライトに伝える。カミーユとファはグラスゴーで暮らされ、アーガマは落下地点のダブリンへと再び舞い戻る。だが、アウドムラと共に市民の救助活動を急ぐ彼らにラカン・ダカランのMS部隊が立ちはだかる。ダブリンからの脱出をふさぎ、市民船まで攻撃するラカンの残忍なやり口に怒るジュード、ハヤトはジュードの危機を救うため、ドダイで特攻をかけ戦死。死の間際、ハヤトには先に戦死したカツの姿が浮かぶ。コロニーはついにダブリンへ落下し、グラスゴーにいたカミーユは多くの人の苦しみを感ぜてうずくまる。

## 第36話「重力下のブルツ」

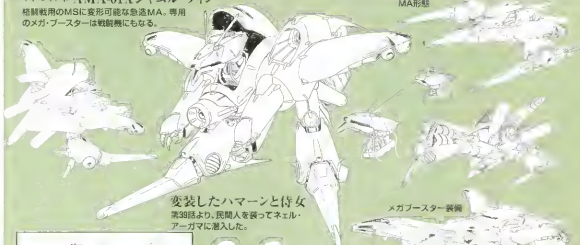
ダブリンはコロニーの衝撃を受けて壊滅した。多くの人々の死を感じたジュードは、カミーユから知りこそ戦う理由だと信念を受けて、ラカンのザクⅢを打ち破る。一方、グレミーはアーガマ打倒の切り札としてニュータイプのブルツをサイコ・ガンダムMk-IIで出撃させた。ブルツの自覚めを感じたブルはアーガマのハイメガ砲をサイコ・ガンダムに合わせるが、失敗。怪我をおしてキュベレイで追撃に出る。しかしブルの機体から再生したブルツは邪悪な心を蒙り、善戦を強いられる。ジュードも無罪するが、変形したサイコ・ガンダムは無敵の強さを見せる。最後、ブルはジュードを守って戦死。ジュードは怒りをブルツに向ける。

●Episode37~41 各話設定 タイガーバウム

ネオンオン車 AMA-01A シャムル・フィン

格闘戦用のMSに変形可能な急速MA。専用のメガ・ブースターは戦闘機にもなる。

MA形態



変装したハマーンと侍女

第39話より、民間人を装ってネル・アーガムに潜入した。

メガブースター装備



スリー・ディー

第38話に登場したシャムル・フィンのパイロット・チーム。三位一体攻撃を得意とする。



チャイナドレス

女装スタイル

第40話で、ジュドーとイーノはスタンパの悪戯に潜入するために変装した。

タイガーバウムの子供たち

中立の教条コロニー、タイガーバウムのジャンク屋。ジュドーたちに協力する。



サトウ隊長

ネオンオン車

RMS-099B

シュツルム・ディアス

もとはエーゴ側MSだが、サトウ隊長ら隠れジオン派が奪って使用した。



## スタンバ・ハロイ

タイガーバウムの支配者で、金と女に目がない。MSの蒐集家。



## スタンバの部下たち



## ゾゴック

41話で、スタンバのコレクションとして登場した水陸両用タイプのMSV。



## アングガイ

40話で、スタンバの屋敷に飾られていたMS V。ハマーンが使用。



## ビートランス

## ビームライフ

ネオ・ジオン機

AMX-117R, L  
ガズアル、ガズエル  
ロイヤル・ガード・ガルバルディ  
とも呼ばれる、秘密隊用MS。キ  
ャラの護衛を担当した。

## 第37話「ネェル・アーガマ」

コロニー落としが成功したと見ると、ハマーンは宇宙の覇権を急いだ。その情報を得たジュータたちは、ノルウェーのカラバから宇宙へと向かう。サイド4の商業空域でラビアンローズと接触したアーガマのクルーは、新たに集り結むネェル・アーガマと対面する。しかしエッゴ上層部の指令を伝えに来たメッチャーは、ジュータたち子供は不要と退艦命令を出す。そこへ強化人間として復活したマッシュマーが、偵察隊で威嚇攻撃を仕掛けてきた。ジュータたちは混乱に果してネェル・アーガマを発達させるが、シンタとクムが戦闘中、宇宙に投げ出されてしまう。ブライトはランチで救出に向かい、ジュータはリグルグを操るイリアに告別。

## 第38話「鉄壁、ジャムル・フィン」

シンタとクムを救出したブライトは、ネェル・アーガマに物資を供給するためグナタに降り、そのまま船をジュータたちに託す。だが、エマリーがラビアンローズから打ち上げた不用意な信号弾が、エンドラIIのMAジャムル・フィンを驚かす3人組のリーダーに見えさせてしまう。ガンダムチームはこれを追い払うが、商業空域を抜けたところで再び攻撃を受ける。ジュータはスリーディーのチームワークから繰り出される三位一体攻撃に感服されるが、ピーチャの教訓でこれを掌握。しかし、リナが生きていると言いついたジュータを、クルーは心配していた。

## 第39話「サラサ再臨」

エンドラIIの追撃を振り切ったサイド3へ急ぐネェル・アーガマは、ザク部隊に襲われる民間船とヒカリ族の乗る旧式船を救出する。民間船はネオ・ジオンに抵抗してサイド3から逃げてきたもので、避難民のなかには変装したハマーンとネオ・ジオン兵たちが隠れていた。ハマーンの目的はジュータを脱獄し、自分に従えることにあった。サラサはそんなハマーンに罪悪感ものを感じ取る。ジオン兵は船に隠れていたザクでネェル・アーガマの乗っ取りをはかり、検閲でそれを見破れなかったモンドは責任を感じて出撃。サラサを守ろうと大活躍し、ザクを撃破する。

## 第40話「タイガーバウムの夢」

助けたい民間人を逃らすため、ネェル・アーガマはサイド3の241パンチ、タイガーバウムに入港する。タイガーバウムは実力者スタンバが支配するコロニーで、ルー、エルをはじめとした女性たちは横の鹿数にあるハーレムに連れ去られてしまう。ジュータはネェル・アーガマを盗もうとした少年リナンたちと知り合い、スタンバが高額現金で人々を苦しめていることを教えられる。彼らの協力でジュータはイーノとともに女装して匿匿へ侵入。MSゾゴックを奪い、ルーたちを救う。だが、背後をきかなくり捨てたハマーンがMSアッガイでジュータに襲いかかってきた。ハマーンは、ニュータイプなら自分に従えとジュータに迫る。



マザー・  
ファンネル  
AMX-015ゲーマルク  
グレミーの反逆に対抗するハマーン  
側のニュータイプ用MS。全方位  
攻撃のマザー・ファンネル、チルド・  
ファンネルを装備

マザー・  
ファンネル

ビームガン

足義

ロイ  
コロニー、コア3の反戦活動  
家。ネオ・ジオンに追われている。

猫目のキャラ

強化人間となった第42話からの  
新コスチューム。さらに強烈!

声・土師孝也

ギーレン兄弟

ガスアルに乗り、ガスエルに乗り  
ラ・ノスの双子。キャラの護衛兼お目付役。

声・島田敏

声・佐久間レイ

声・日美津

ルチーナ

ロイの娘。明るい性格で、  
ブルツウにも優しく接した。

キケロの労働者たち

鉱山惑星キケロでハマーンのため  
に働かされている。ロイの味  
方。

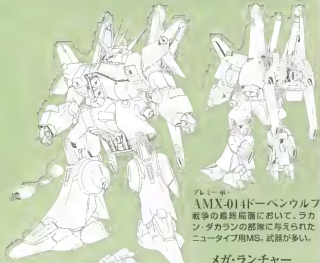
足義

ハマーン軍・

AMX-011SザクⅢ改

ごく少数のみ生産されたザクⅢの  
試作機を、強化人間となったマシ  
ユマー用に改造したカスタム機。  
キャラのゲーマルクとともにハマ  
ーンを守って戦った。





プレミエール  
AMX-014Dベンウルブ  
戦争の最終局面において、ラカン・タカランの部隊に与えられたニュータイプ用MS。武装が多い。

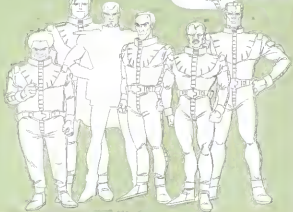


メガ・ランチャー  
本体に連結してエネルギーを供給される強力なビーム砲。

ビーム・ライフル  
メガ・ランチャーは折り畳んでライフルとしても使用可能。

## スペースウルフ・チーム

ハマーンを裏切り、グレミー側についたラカンの部下たち。いずれもベンウルブを操り、集団攻撃を行う。



## 第41話「ラサラの命」

ハマーンを改心させようとしたラサラとラサラが、モンドを覆面に戻りタイガーバウムに戻っていった。そこへズゴックに乗り込んだスタンバが襲ってくる。ハマーンに取り入ろうと考えたスタンバは、ネル・アーガマを捕らえてみせると約束していたのだ。後を追いつけてきたジュードはルナンたちの協力で港のクレーンをズゴックにぶつけて海に叩き落とす。か、この戦場によって、モンドの目前でラサラが死んでしまう。怒ったモンドはラサラの叫び合戦に出てスタンバを奪り去る。ハマーンはマッシュマーのエンドラIIから発達したイリアのリグルグに救われてタイガーバウムを脱出。ラサラはジュードの苦闘を察してムーン・ムーンに響く。

## 第42話「コア3の少女(前)」

ハマーンはネル・アーガマ制圧にグレミーを出撃させた。一方、ジュードたちはハマーンのいるサイド3とドッキング予定の、鉱山町キケロに潜入。反ネオ・ジオン派の労働者を味方につけるべく内部工作を開始する。だが、そこへキャラが現われ、旧型の機情のように見えるジュードたちは、取り引きの道具にされる目的で捕らえられてしまう。指導者ロイの娘、ルチーナの助けでジュードたちはそこを逃げ出すが、そこをブルツウが襲いかかってくる。ルチーナは体を投げ出して彼らをかばう。ジュードはキャラの真実を試みるが、強化調整されたキャラは別人になっていた。

## 第43話「コア3の少女(後)」

ハマーンに囚われたルー、エルを救出するため、ピーチャ、モンドが襲撃をかける。そのときにジュードはコア3に潜入。ブルツウに助けられたルチーナの案内で2人を救出する。が、そこへネオ・ジオンの実権を握ろうとするグレミーの反乱軍が参進した。ハマーン船隊を命じられ、キュベレイで猛攻をかけるブルツウだが、ジュードに対してはブルの悪念に惑わされてコントロールを失ってしまう。混乱のなか、イーノの機転でネル・アーガマのハイレグがコア3とキケロを分離し、ロイたちはネオ・ジオン兵をキケロから追い出すことに成功。鉱山労働者たちはネオ・ジオンの支配をのがれ、他のコロニーを目指し、出発する。

## 第44話「エマリー散華」

ハマーン対グレミーの戦いの混乱に乗じ、ジュードはミネバを人質に取る作戦を立てる。作戦は成功するかに見えたが、グレミー側しに全力を注ぎ込みたいハマーンは、ミネバの命さえ犠牲にしてみようといき切る。それを本気とみたジュードは、グレミーを倒すため、とりあえずハマーン軍に協力。しがしとの機、ブルツウ・クイン・マンサでネル・アーガマに攻撃をかけてきた。ラビアンローズの艦長代理エマリーは、他のクルーを退避させ、ネル・アーガマの盾になる。ブライトの名を呼びながら、エマリーはラビアンローズとともに宇宙に散った。

Episode44~47 各話設定 最終決戦、そして旅立ち

グレイミー・NZ-000クイン・マンサ

ニュータイプ部隊用に開発された超巨大MSで、実質的なフルーツ専用機。コクピットのある頭部は独立して戦うこともできる。

ファンネル・コンテナ

ZZとの対比

ファンネル・コンテナ

グレイミー・  
AMX-004G量産型キュベレイ  
グレイミーのニュータイプ部隊が使用したMS。

コクピット

飛行ボース

コクピット  
ハッチ

ハマーンのノーマルスーツ

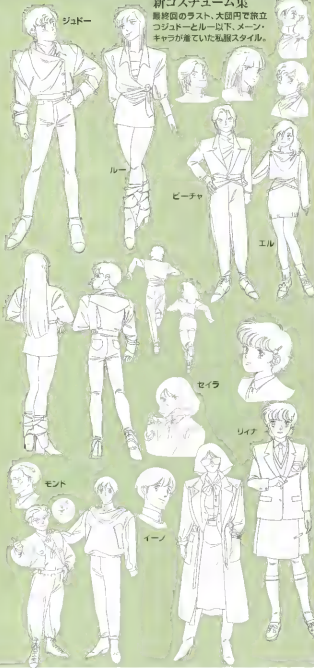
第47話(最終回)で着用。ネオ・ジオンの制服をそのまま活かしたデザインで、MSに乗り込む際はケープを外す。

フルアーマーZZガンダム

第46話のみに登場した、通称フルアーマーZZ。ミサイルポッドやメガライフル、増加装甲を搭載。

## 新コスチューム集

最終回のラスト、大団円で旅立つジュードとルー以下、メーン・キャラが着ていた私服スタイル。



## 第45話「アクシズの戦間」

小惑星アクシズを制圧したグレミーとハマーンの最終決戦が始まった。真のネオ・ジオン建設のためにハマーンの情を取り、と兵士たちを鼓舞するグレミーは、協同行真に地球を考えるとまで満腹する。戦艦は開かれ、キャラのゲマルク対ラカン、ドベーン・ウルフ、マッシュマーのザクⅢ改対フルツのクイン・マンサが激突。強化人間となったマッシュマーはフルツを追い詰めるほどの戦いぶりを見せるが、イリアの目の前でスペースウルフ・チームの攻撃に遭い戦死。マッシュマーの死を知ったキャラは、ダーレン兄弟を従えて奮戦する。そんな中、グレミーは隠行していたニュータイプ部隊をついに出身させた。一方、ネル・アーガマはアクシズを即く作戦を開始。ピーチャは出撃前のエルに好きだったことを吐露、エルもピーチャの死を知ったキャラは。ジュードは必ず生きて帰ってこれる、というリナの声を聞く。

## 第46話「バイブレーション」

ニュータイプ部隊の猛攻にキャラとジュードは後退。グレミーはアクシズに連結されていたジオンの象徴、兩石コロニーのモウサを切り崩し、ハマーンの艦隊に激突させる作戦を開始する。しかし、ハマーンの必死の応戦でモウサは軌道をずれ、グレミーはアクシズの軌道をコア3に向けてしまった。アクシズはコア3と接触し、ハマーンはついに拠点を手放してしまう。ネル・アーガマも関わった三つ巴の戦いのなか、ジュードはラカンを撃破。アクシズに侵入し、フルツ、グレミーと対決する。ジュードは独断こそ平和への道というグレミーに対し、自分はみんなの敵意を背負って戦っているのだと主張。フルツと心を通わせ、彼女を導くことに成功する。グレミーは愛するルーによって止めを刺されるという悲劇的な幕を遂げる。ジュードは傷ついたフルツをネル・アーガマに連れ帰った。そのころグラナダではブライトがセイラと再会。彼女に助けられていたリナの生存を報告する。

## 第47話「戦士、再び…」

キャラはニュータイプ部隊との激戦によって戦死。ネル・アーガマはモウサをコア3に激突させ、ハマーン艦隊を壊滅させる。ジュードはハマーンと最後の決着をつけるべく、単身ZZでキュベレイへ向かっていく。だが、カミーユや死んでいた仲間たちの力を集めたZZの力前にハマーンはもう敵ではなかった。ジュードはハマーンの高い能力を賞みながら彼女の最期を見届け。ハマーンは死の瞬間、ジュードに会えたことを喜び、魂を解放させる。戦いは終わるが、ジュードをアクシズから脱出させるために思念を送り続けたフルツは死に、連れてやってきた連邦の艦隊にジュードは憤激を感じ得なかった。結局、ハマーンに乗り上げられていたミネルバは影武者だったことが判明し、1年にわたったネオ・ジオン抗争は終結。ジュードはリナと再会を果たし、皆の見送りを受けながら、ルーと共に木霊へと出発する。

●地球連邦軍モビルスーツ

地球軍 RX-93 νガンダム

アムロの乗機としては、初めてにして唯一のサイコミュ及びファンネル搭載機。当初は従来型のサイコミュを用いる予定だったが、完成直前に新たに開発されたサイコフレームを採用。だがこれはシャアがもたらされた技術であった。



## 連邦軍・RGZ-91 リ・ガズィ

Zガンダムや百式の入手が困難と情ったアムロが作らせた、Zガンダムの変型機構を省略したMS。名称はリファインド・ガンダム・ゼータの略。



## 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

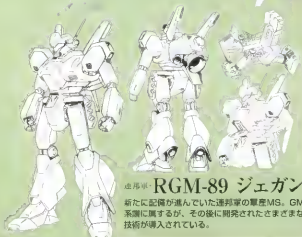
宇宙世紀0093年。グリプス戦役以降、行方不明とされていたシャアがネオ・ジオン総帥として再び姿を現した。シャアは地球の重力に耐えられなかった人々の軍正を宣言し、地球上に覇を樹き作戦を敢行。アムロはプラント艦隊率いる地球連邦軍独立部隊ロンド・ベルのパイロットとしてそれを阻止すべく戦うが、ネオ・ジオン軍との戦力差はいがんとしがつく。小惑星5thルナは地球に落下。連邦政府のあるチベットのラサを無事に奪える。その頃、地球ではシャアとの秘密交渉を怪れた連邦政府高官アデナウアーが機軸のウェスをとらない、ロンデニオン・コロニーへ出発しようとしていた。偶然そこに居合わせたプライトの弟子ハサウェイはウェスと戦い、同じシャトルに乗船する。しがしシャトルはネオ・ジオン軍とロンド・ベルの戦艦に巻き込まれ、乗客はラー・カイラムに収容される。ハサウェイはそこで父プライトと面会する。

アデナウアーの指示でラー・カイラムはロンデニオンに入港する。が、そこでは連邦政府高官とシャアの交渉が秘密裡に進められていた。ネオ・ジオン艦隊を武装解除させる代償に、旧ジオン軍の本拠地だった小惑星アクシズをネオ・ジオンに譲渡するというもの。連邦はこれでネオ・ジオンとの和平が成立したものと胸を撫で下ろすが、シャアの真の目的は他にあった。今度はアクシズを地球に落下させ、同時に核を使用して地球の環境を一気に壊滅させる。プライトは交渉に同意したミライの元仲介者ランからその機軸を聞き、アデナウアーに不審を表明。一方、ハサウェイとウェスを連れてロンデニオンをドライブ中だったアムロはシャアと邂逅し、乱戦を演じる。父性を求めていたウェスはシャアに惹かれるままネオ・ジオン軍に参加し、強化人間ギニューにMSパイロットの手ほどきを受ける。ニュータイプの才能を開花させるウェスにシャアはラファと同じ素質を見るが、シャアの愛人ナナイはそれに嫉妬。その頃、ハサウェイはウェスを連れ戻すべくラー・カイラムに密航する。

シャアは第2のスイート・ウォーターで地球人類の軍正を宣言すると、ネオ・ジオン軍を説教解除させると見せかけて連邦軍を攻撃。アクシズのノズルを点火し、地球への降下を開始させた。その戦いの最中、ウェスが父アデナウアーの乗る船を撃破するという悲劇が転じる。連邦軍ではクーラ、アストナージが無惨な戦死を遂げ、アクシズの核ミサイル攻撃に失敗したラー・カイラムはアクシズ本体に侵入し、中からこれを撃破しようとする特攻をかける。巨大MA、α・アジールで出陣したウェスはアムロに挑んでいくが、突如きたチェーンによって戦死。それを見て逆上したハサウェイはジェガンでチェーンを撃ち殺してしまう。アムロはジェガンでシャアとの最後の決戦に臨み、ついにザビニを破る。その時、Zガンダムのサイコフレームに敵味方を超えて連邦、ネオ・ジオン軍のMS隊が混戦する。意思の力によって光に包まれたアクシズは地球への落下軌道からついに逸れていく。

## 連邦軍・RGM-89 ジェガン

新たに配備が進んでいる連邦軍の量産MS。GMの系譜に属するが、その後継に開発されたさまざまな新技術が導入されている。



◎ネオ・ジオン軍 モビルスーツ

ネオ・ジオン軍 MSN-04 サザビー

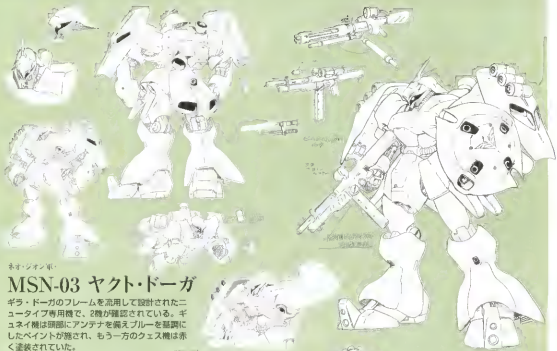
シャア専用の強攻撃型MS。ネオ・ジオンの技術を動員して作られただけに、能力はVガンダムを凌ぐともいわれる。背部に8基のファンネルを持ち、サイコフレームを通してコントロールされる。



ネオ・ジオン軍

NZ-333 α・アジール

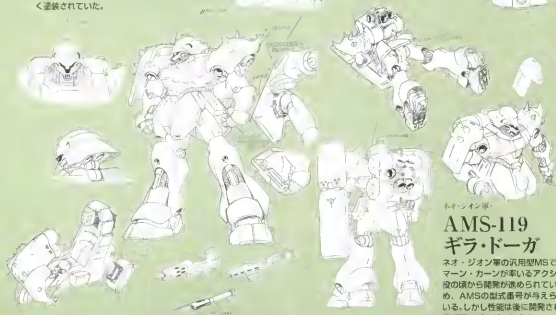
ビッグ・ザムやジオングを開発したジオン軍の技術を引き継ぐ、ニュータイプ専用強襲攻撃用超大型MA。ファンネルとメガアーム砲を装備し、脚部にはプロペラントタンクを兼ねた切り放し可能な推進器シュトルム・ブースターを装備可能。



ネオ・ジオン軍

## MSN-03 ヤクト・ドーガ

ギラ・ドーガのフレームを流用して設計されたニュータイプ専用機で、2機が確認されている。ギユネイ機は頭部にアンテナを備えブルーを基調にしたペイントが施され、もう一方のクェス機は赤く塗装されていた。



ネオ・ジオン軍

## AMS-119 ギラ・ドーガ

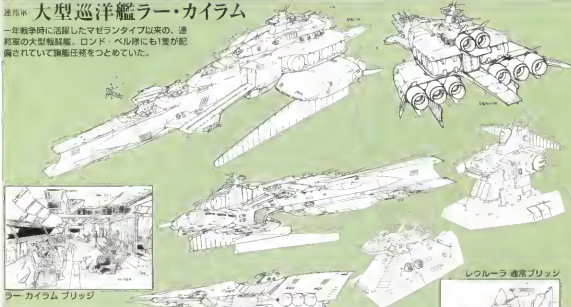
ネオ・ジオン軍の汎用型MSで、ハマーン・カーンが率いるアクシズ戦役の頃から開発が進められていたため、AMSの型式番号が与えられている。しかし性能は後に開発された連邦軍のジェガンを凌ぐ。



艦艇・その他のメカ

連邦軍・大型巡洋艦ラー・カイラム

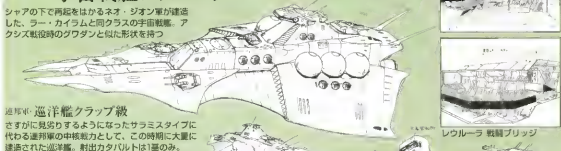
一年戦争時に活躍したマゼランタイプ以来の、連邦軍の大型戦艦。ロンド・ベル隊にも1隻が配備されていて旗艦任務をつとめている。



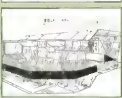
ラー・カイラム ブリッジ

ネオ・ジオン軍・宇宙戦艦レウルーラ

シャアの下で再起をはかるネオ・ジオン軍が建造した、ラー・カイラムと同クラスの宇宙戦艦。アクシズ転戦時のグワダンと似た形状を持つ。



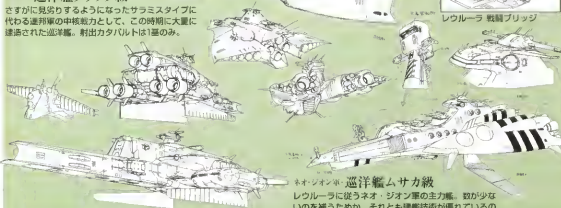
レウルーラ 通常ブリッジ



レウルーラ 戦艦ブリッジ

連邦軍・巡洋艦クラブ級

さすがに見劣りするようになったサラミスタイプに代わる連邦軍の中核戦艦として、この時期に大量に建造された巡洋艦。射出カタパルトは1基のみ。



ネオ・ジオン軍・巡洋艦ムサカ級

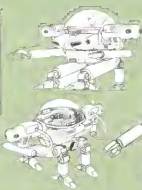
レウルーラに従うネオ・ジオン軍の主力艦。数が少ないのを補うためか、それとも建艦技術が優れているのか、打撃力は同サイズのクラブ級より高い。





### モビルポッド・メッド

民間で使用されている作業用機器。その形状からくる運用性の違いから、プチMSとは区別されている。

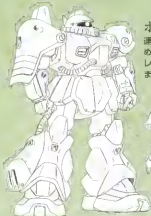


### ホビー・ハイザック

連邦軍が民間に払い下げた機体。そのため武装はすべて外されているが、ジェネレーターや駆動部などは、ほとんどそのままと思われる。

### プチMSズック

ラー・カイラムに搭載されていた小型の一人乗りMS。さまざまな作業に対応したアームを備え、重宝がられていた。



### ベース・ジャバー

名称はタイタースが本拠地内で使用していたものと似ているが、新設計の遊星軍のサブフライトシステム



### シャトル大鹿

標準的に宇宙と地表の往來に用いられているもの。しかし、以前ブライトが機長をつとめていたテンペレーション・クラスよりは、明らかに進歩している。



### シャクルズ

かつてのエラーゴのものと同じ名前を持つ、ネオ・ジオン軍のサブフライトシステム



### 擬装ランチ

コロニー間の移動などに使われている汎用の貨物輸送機。ネオ・ジオン軍が偽装機体を用いたもの

### 監視艇

ネオ・ジオンの武器開発を監視するために派遣された、小型ながらも広域センサーを持つ



### 旅客船

地球上の都市間航路に就航しているHST ラムシメント・エンシンにより マノハ星の調査と飛行可能と想像される



●メイン・キャラクター

# アムロ・レイ

再び宇宙に上がったアムロの目に映ったものは、変わらぬ戦いの日々。だが29歳になっても、彼の根底は変わってはいない。

(原・古谷規)



(原・池田みつる)

# チェーン・アギ

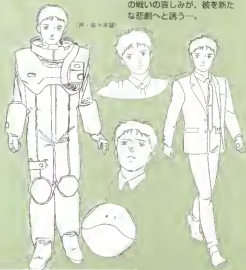
アムロに好意を寄せる、ロンド・ベル隊隊員。Vガンダムの開発にも貢献した。



(原・室谷実望)

# ハサウェイ・ノア

ブライトとミライの長男。この戦いの哀しみが、彼を新たな悲劇へと誘う…。



## シャア・アズナブル

ネオ・ジオンの総帥になり、地球に戦いを挑むシャア。しかし、それもまた過化でしかないことを、彼は悟っていた……。



(声・池田秀一)

## クェス・パラヤ

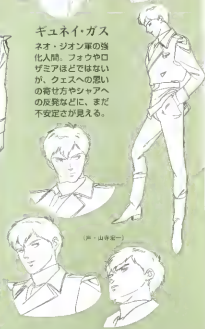
連邦の要職にあるアデナウアーの娘。彼女なりに人や世界について考えていたが、それは所詮、甘いものでしかなかった。



(声・日村万智子)

## ギユネイ・ガス

ネオ・ジオン軍の強化人間。フォウやロザミアほどではないが、クェスへの悪いの癖やシャアへの反発などに、まだ不安定さが見える。



(声・山寺宏一)

サブ・キャラクター

ブライト・ノア

またも戦いの結末を目撃する  
役割を担うことになったブラ  
イト。それが彼の戦いなのか  
も知らない。

(声・鈴置洋孝)



（右の腕は、アムロ・レイ）

（左の腕は、シャア・アズナブル）

ナナイ・ミゲル

シャアの副官としてだけで  
なく、恋人でもある女性。強化  
人間の研究者でもある。

(声・鶴屋真子)



ミライ&チェーミン

地上に残ったふたり。彼女た  
ちの想いが、Vガンダムに共  
鳴したのであろう。



(声・島谷有美)

(声・若菜尚美)



(声・村山明)

カムラン・ブルーム

かつてのミライの婚約者とい  
うことから、ブライトに核兵器  
を託す。



(声・小島和枝 横山裕)

アデナウアー夫妻

ネオ・ジオンとの和平のた  
めに、連邦政府から派遣さ  
れた高官。ケスの親でも  
あるが、その性根は腐りさ  
っていた。



(声・伊倉一)



ケーラ・スウ

ロンド・ベル隊の、はねっ返  
り被りといわれるパイロット。  
リ・ガズィを任される。

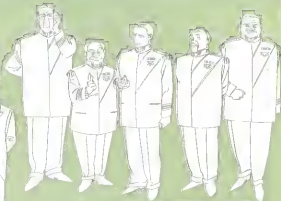


(声・安達忍)



（左）

**連邦・ネオ・ジオンの高官たち**  
 和平交渉の場に姿をあらわした、両軍の高官たち。一見、交渉は成立したかに思えたが、それはシャアの策略でしかなかった。



### クリスチーナ

ウェスの友人。地上の「不法」居住者を強制退避する人狩りに捕らえられる。



**オクトバー・サラ**  
 ヲガンダム開発に従事した、アナハイム社の技術者。



**カイザス&ホルスト**  
 シャアを支えるネオ・ジオンの男たち。ジオン公国以来の人物と思われる。

(声・村松康雄、池田勝)



### ライル

レウルーラの艦長。自立しながらも、シャアやナナイの作戦を忠実にこなす。

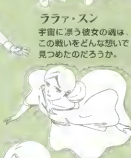


(声・置鮎龍太郎)



### ラファ・スン

宇宙に漂う彼女の魂は、この戦いをどんな想いで見つめたのだろうか。



(声・湯沢予)

### クラブ艦長

アデナウアーを乗せ、ネオ・ジオン軍武装解除部隊の旗艦をまかされたクラブの艦長。砲撃により艦は撃沈される。

































### ムサカ艦長

印き上げの軍人的な印象の男。シャアのことを敬崇するなど、ネオ・ジオン軍兵士の本音の部分がうかがえていた。

# Mobile Suit Pilot List

モビルスーツの主要メカ・パイロット一覧

キャラクター▶															
▼メカ	カミーユ	ジュード	アムロ	クワトロ (シャア)	エマ	ルーカ	エルビア	ビーチャ	モンド	カグリオン	ジェリド	ライラ	マウアー	ロザミア	ヤザン
	●			●	●		●		●	●	●				
	●					●									
		●						●							
				●				●							
	●		●	●	●										
		●													
										●	●				
											●	●			
										●	●				
											●		●		
											●				
											●			●	
														●	
														●	●
															●
		●													
			●												

キャラクター▶														
▼メカ	レコア	ファ	フォウ	ペン ウッダー	シロッコ	サラ	ハマーン	マッシュマー	キャラ	グレミー	ラカン	プル	プルザー	イリア
	メス													

# MOBILE SUIT SPEC LIST

## ■Zガンダム

	型式番号	名称	頭頂高	本体重量	ジェネレータ出力	スラスター推力	装甲材質
モビル	RX-179	ガンダム Mk II	18.5m	33.4t	1930kW	81200kg	チタン合金セラムミック複合材
	MSA-099	リック ディアス	18.7m	32.2t	1633kW	74800kg	ガンダリウム合金
	MSN-102	露式	18.5m	31.5t	1650kW	74800kg	ガンダリウム合金
	MSA-002	ネモ	18.5m	36.2t	1620kW	72600kg	ガンダリウム合金
	MSZ-002	Zガンダム	19.8m	39.7t	2020kW	112600kg	ガンダリウム合金
	MSA-005	メテオ	18.1m	27.8t	1640kW	77000kg	ガンダリウム合金
ライオンズ	MSX-006	デスエ	18.4m	33.3t	1093kW	74000kg	ガンダリウム合金
	RX-176	ガンダム Mk-III (シャイニングZ)	19.5m	33.4t	1930kW	81200kg	チタン合金セラムミック複合材
	RMS-108	ハイザック	18.0m	38.7t	1428kW	64800kg	チタン合金セラムミック複合材
	RMS-117	ガルバルディα	19.0m	39.3t	1507kW	126400kg	チタン合金
	RMS-109	マラサイ	17.6m	33.1t	1790kW	74800kg	ガンダリウム合金
	NRX-044	アッシャー	18.3m	41.1t	2010kW	66200kg	チタン合金セラムミック複合材
	ORK-005	ギャプラン	19.8m	50.7t	3040kW	163000kg	ガンダリウム合金
	MRX-009	サイコ-ガンダム	40.0m	214.1t	33600kW	84000kg	ガンダリウム合金等 (詳細不明)
	RX-110	ガナスレイ	18.6m	32.6t	1800kW	25800kg	ガンダリウム合金
	RX-138	ハンブラビ	19.6m	34.5t	1540kW	59800kg	ガンダリウム合金
	RMS-154	バーザム	19.4m	40.4t	1670kW	80400kg	ガンダリウム合金
	RX-160	パイアラン	18.6m	34.2t	1760kW	86400kg	ガンダリウム合金
ガンダム	NRX-055	バウンド・ドッグ	27.3m	82.7t	2260kW	146800kg	ガンダリウム合金
	MRX-010	サイコ-ガンダム Mk II	39.98m	187.6t	19760kW	244240kg	ガンダリウム合金
	PMX-000	メノサーラ	23.0m	37.3t	4900kW	96000kg	
	PMX-001	バウス アタネ	21.6m	65.0t	1790kW	76000kg	ガンダリウム合金
	PMX-002	ボリノーク サマーン	19.9m	31.6t	1760kW	78000kg	ガンダリウム合金
	PMX-003	シオ	24.6m	67.3t	1640kW	135400kg	ガンダリウム合金
	AMX-003	ガザC	18.3m	40.6t	1720kW	78800kg	ガンダリウム合金
	AMX-004	キャベレイ	18.4m	35.2t	1620kW	61600kg	ガンダリウム合金

## ■ガンダムZZ

	型式番号	名称	頭頂高	本体重量	ジェネレータ出力	スラスター推力	装甲材質
ガンダム	MSZ-010	ZZガンダム	19.85m	32.7t	7340kW	101000kg	ガンダリウム合金
	FA-0105	フルアーマーZZガンダム	19.85m	87.2t	7340kW	124900kg	ガンダリウム合金
	MSZ-0105	強化型ZZガンダム	19.85m	32.7t	7340kW	124900kg	ガンダリウム合金
	AMX-101	ガルズJ	19.6m	52.7t	2840kW	121900kg	ガンダリウム合金
ネオ・ガンダム	AMX-102	スズ	15.0m	23.7t	1820kW	20400kg	ガンダリウム合金
	AMX-096	ガザD	17.0m	29.7t	2140kW	96200kg	ガンダリウム合金
	AMX-103	ハンマ ハンマ	21.5m	40.3t	3820kW	256200kg	ガンダリウム合金
	AMX-104	R ジャック	20.0m	36.4t	2320kW	75040kg	ガンダリウム合金
	AMX-004-2,3	キュベレイ Mk-III	18.4m	35.2t	1260kW	61600kg	ガンダリウム合金
	AMX-107	バコ	18.5m	24.7t	2410kW	75040kg	ガンダリウム合金
	AMX-068	ガ・ソウム	18.0m	31.6t	1840kW	92290kg	ガンダリウム合金
	AMX-026	ドライゴン	22.0m	36.7t	2380kW	107800kg	ガンダリウム合金
	AMX-109	カプル	16.5m	36.7t	3590kW	6900kg	ガンダリウム合金 (二重装甲)
	MS-082	ドワゴン	19.2m	43.5t	1445kW	104300kg	鋼鉄強化鋼
	MS-084	ドワゴン改	19.2m	43.5t	1440kW	122700kg	鋼鉄強化鋼
	AMX-110	ザクⅡ	21.0m	44.2t	2150kW	172800kg	ガンダリウム・コンボジット
	MS-14J	リタルグ	21.0m	43.7t	1890kW	150800kg	チタニウム・コンボジット
	AMA-01X	シムルル フィン	15.0m	24.7t	4750kW	82600kg	ガンダリウム合金
	RMS-089B	シュバルム・ディアス	18.7m	32.5t	1920kW	105000kg	ガンダリウム合金
	AMX-015	ゲーマルク	22.0m	46.3t	8320kW	36400kg	ガンダリウム・コンボジット
	AMX-112L, 113R	ガスエム・ガスアル	19.0m	40.5t	2130kW	76400kg	ガンダリウム合金
	AMX-014	ドール・ウィルフ	22.0m	36.6t	5250kW	67300kg	ガンダリウム・コンボジット
	NZ-000	クイン・マンサ	39.2m	143.2t	21370kW	287100kg	ガンダリウム合金

## ■逆襲のシャア

	型式番号	名称	頭頂高	本体重量	ジェネレータ出力	スラスター推力	装甲材質
ガンダム	RX-93	νガンダム	22.0m	27.9t	2980kW	97800kg	ガンダリウム合金
	RGM-99	ジェガン	19.0m	21.3t	1870kW	81400kg	チタン合金セラムミック複合材
	PGZ-91	リ・ガズィ	20.6m	24.7t	2550kW	87800kg	ガンダリウム合金
ガンダム	AMIS-119	ギラ・ドーガ	20.0m	29.0t	2160kW	54000kg	チタン合金セラムミック複合材
	MSR-03	ザクト ドーガ	21.0m	26.0t	3340kW	82000kg	ガンダリウム合金
	MSN-04	ザザビー	23.0m	30.5t	3960kW	133000kg	ガンダリウム合金
	NZ-333	α-アザール	108.28m	128.8t	19830kW	2217500kg	ガンダリウム合金



名前	バリエーション
ビームサーベル、ビームライフル、ハイパーバズーカ、バリアンボウシステム、シールド、プラズマダマサー、バリアンファンタズム、ビームサーベル、ビームライフル、クワイバー、ハイパーバズーカ、ビームライフル、バリエーションシステム、トリモチランチャー	カニム、ビザン、ミサ、シーン、クワトロロビータンダ
機銃(バカシ、ビームサーベル、ビームライフル、クワイバー、バズーカ、メガガン、バズーカランチャー、バリエーションシステム)	クワトロロビータン、アポリー、ロバット、アムロ、レイバ
機銃(バカシ、ビームサーベル、ビームライフル、シールド、バリエーションシステム)	クワトロロビータン
機銃(バカシ、ビームサーベル(ビームガン兼用)、クワイバーランチャー、シールド、ビームライフル(ビームセイバー兼用)、ハイパーメガガンランチャーほか)	レコア、ロンド、ガシ、コウヤシ、ロザミア(バダム)
アムロ・ヒムガン、ビームサーベル	カニム、ビザン
機銃(バカシ、ビームキナタ、ビームライフル、クワイバー)	アフリム、レコア、ロンド
ビームサーベル、ビームライフル、シールド(バリアンボウシステム)	アムロ・レイ
ビームサーベル、ザクランダム、ザクマシンガンほか、ビームライフル、ビートホーク、機銃(ミサイルほか)、メガガンランチャー、バリエーションシステム	ジレド・メサ、エマ、シーン、カクリン、カウカ、ラー
ビームサーベル、ビームライフル、シールド(バリアンボウシステム)	ジレド・メサ、カクリン、カウカ、ラー
機銃(バカシ、シールド、ビームサーベル、ビームライフル、バリエーションシステム)	ライダ、ミチタカシ、ジレド、メサほか
大砲、ビームライフル	ジレド、メサ、カクリン、カウカ、ラー、サザ、ザアロムほか
ム・バブルシールド(ビームライフル兼用)、ビームサーベル	プラナ、フルタク、アリス、アツバ
2連発機銃メガ砲台船、砲台船、機銃、ム・バブルシステム、シールド	ロザミア(バダム)、ヤザン・ザブル
機銃(バカシ、ビームサーベル、メガガン砲、機銃、ム・バブルフレーム、クロー、フェダーインライフル)	オウム、ラサメ、ベハ、ウッダー
ビームサーベル、機銃(ビームライフル、機銃クロー、テールランス、海ヘビ、クモの娘、フェダーインライフル)	シールド・メサ、マザー、アアロ
ビームサーベル、ビームライフル(バリアンボウシステム)	ヤザン・ザブル、ダングル、クーリー、ラムサス(バサ)
メガガン砲、ビームサーベル	シールド・メサ
メガガン砲台船、ビームサーベル、機銃クロー、機銃クロー、ビームライフル	ロザミア、バダム、ゲータ、キャバ、ジレド、メサほか
メガガン砲、機銃メガ砲台船、ビーム砲、シールド、サイニミズ・カム・ノード、機銃メガガン砲、レフレクター・ビット多量(未登場)	ロザミア(バダム)
メガガン砲、機銃(ミサイルほか)、ビームサーベル、クレオナランチャー、機銃収納式クロー、機銃クロー	バ(デマズス・ロコッ、サザ、ザビアロフ、レコア、ロンド)
メガガン砲、機銃(カム・ム・バブルフレーム、機銃クロー、2連発ミサランチャー、機銃(機銃)シールド(小型ミサイル兼用))	バ(デマズス・ロコッ、レコア、ロンド)
カニ(バサミサシールド(ビームガン、ヒートマホーク、ビームサーベル兼用)、バサランチャー)	サザ、ザビアロフ
機銃、機銃、ビームサーベル、ビームライフル	バ(デマズス・ロコッ)
アツバ(バスター、ビームガン、ビームサーベル、シールド、機銃クロー)	ハマーン・ザンほか
ビームサーベル(ビームガン兼用)、ファンネル多量	ハマーン・ガン

名前	パイロット
ハイメガンパン、ダブルリカガン、シールド、ダブルビームライフル、ハイパービームサーベル(ビームキャノン専用)、無敵2連続ゼイルランチャー	ジントアークン、エルビープール、ピーチ オレク(裏切り)
ハイメガンパン、ダブルリカガン、ハイパービームサーベル(ビームキャノン専用)、無敵1連続ゼイルランチャー、無敵1ハイメガンパンほか	ジントアークン
ハイメガンパン、ダブルリカガン、シールド、ダブルビームライフル、ハイパービームサーベル(ビームキャノン専用)、無敵1連続2段階ゼイルランチャー	ジントアークン
フィンガラツガン(内蔵メカニカル銃)、ミサイルボルト、アムリツビ、ビームサーベル、ミサイルランチャーガン	マッシュマセロ
ミサイルボルト、無敵3連続ゼイル、無敵2連続ゼイル、無敵1連続ゼイル、無敵1連続ゼイル、スズバスター	マッシュマセロ
ナツルビスター、ヒムガン、ビームガン、シールド、大距離射撃ミサイルボルト、ミサイルランチャー内蔵、無敵1クロ内蔵メガガン砲	マッシュマセロ、ウイム、ピン
無敵アーム(2連ヒーム砲内蔵、1連メガガン)、3連メガガン内蔵ミサイルボルト(ビームサーベル×2、小型無敵多弾内蔵)	マッシュマセロ
3連メガガンミサイルボルト、ムート(ビーム砲)、無敵1ビームサーベル、ビームライフル(無敵内蔵)	キララ・スーン
ヒムサーベル(ビームガン専用)、ファンタシオ多弾	エルビープール、フルトン
ヒムサーベル(ヒムガン専用)3連メガガン、グレネードランチャー、ビームライフル、3連続メガガン銃内蔵シールド	グロニード、コロン、ゴウ、アリス、モマほか
ハイパーナツルビスター、3連続ゼイルボルト、ビームサーベル	クロン、ゴウほか
ロングビームトマホーク(ビームマホーク×ビームランサー)、トライブレード、3連続ビームキャノン	ラング・ダガバ、オウギユスト・ゼガン、グレイムントほか
レーザービームソニックプラズマ、ミサイル	タマシほか
無敵1ビーム、無敵2ビーム、ヒートサーベル、ヒートトマホーク、ジャイアント、バズ(スモークディスチャージャー付き)	アマサ、ゴウ、ガザバ・ヤシンほか
無敵1リカガン、無敵2ヒーム、ヒートサーベル、ヒートトマホーク、ジャイアント、バズ(スモークディスチャージャー付き)、ヒームカノン	ロジメル
ロク砲無ヒーム砲、シールド、無アーマー(ビーム砲×ミサイル専用)	ウガン、ダカラン
ヒムサーベル、無敵グレネードランチャー、バシクバノク(ミサイルボルト)、ビームライフル	ウリア・バム
無敵1ガンキャノン、2連続小銃ミサイルランチャー、無敵2ビーム砲(ビームサーベル専用)、メガバスター、ブースター	ダニー、デム、デュソン
無敵1リカバズラックス、バインダー、ヒムカノン、ビームサーベル、無敵1ヒームビストル、クレイバズ・サウ	サウ
無敵1ミサランチャー、無敵1ヒームガン子砲、無敵2ミサランチャー、無敵3グレネードランチャー、ビームサーベル、マザー・ファン(バズバズナレバシ)ほか	キラ・スーン
ハイパービームサーベル(ビームキャノン)、ヒームオメガスターガン、ビームサーベル、ヒートランソ、ビームライフル	ランス、グレイム、ニュー・グーレン
ビームサーベル、ハイパー・メガミサランチャー(ヒームガン)、無敵大距離ゼイル、無敵メガガン子砲、無敵2リカガン、サイコユスリ(バズビーム)、バズランチャーほか	ウガン・ダカラン
無敵2ヒームサーベル、メガガン子砲、無敵3連続メガガン子砲、無敵2メガガン子砲、無敵2メガガン子砲	ラジカ、グレイムト

[illegible]

# VISUAL/SOUND/NOVELS

# Guide

Text by OSAMU NAGASHIMA

協力、資料提供、販売元：バンダイビジュアル（LD、ビデオ）

キンクレコード（CD）

© 創通エージェンシー・サンライズ

## LASER DISC/VIDEO TAPE

### 「機動戦士Ζガンダム」

LD 全12巻 BELL 908～BELL-918 1巻 7,800円（税別）2～12巻 各6,000円（税別）

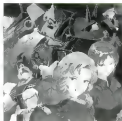
VIDEO 全13巻 BES-1078～BES-1090 ■1巻 3,800円（税別）■2～13巻 各6,000円（税別）



1巻 第1話～第6話収録



2巻 第7話～第10話収録



3巻 第11話～第14話収録



4巻 第15話～第18話収録



5巻 第19話～第22話収録



6巻 第23話～第26話収録



7巻 第27話～第30話収録



8巻 第31話～第34話収録



9巻 第35話～第38話収録



10巻 第39話～第42話収録



11巻 第43話～第46話収録



12巻 第47話～第50話収録

# VIDEO TAPE

## 「機動戦士ガンダムZZ」

V/D 全12巻 BEB-1775~BEB1786  
各6,000円(税別)



1巻 第1話~第4話収録



2巻 第5話~第8話収録



3巻 第9話~第12話収録



4巻 第13話~第16話収録



5巻 第17話~第20話収録



6巻 第21話~第24話収録



7巻 第25話~第28話収録



8巻 第29話~第32話収録



9巻 第33話~第36話収録



10巻 第37話~第40話収録



11巻 第41話~第44話収録



12巻 第45話~第47話収録

「機動戦士ガンダム」の終了から5年を経た1985年、ファンの声援に後押しされる形で「機動戦士Zガンダム」の放映は始まった。内容の詳細は解説ページを参照していただくとして、基本的には前作を完全に引き継ぎ、一年戦争の終結から7年が経過した世界（U.C.0087）を舞台にして物語は展開された。その物語をカミーユ・ビダンからジウド・アースタに主人公を変更しつつも、ブランク無しにさらに継続する形で放映されたのが「機動戦士ガンダムZZ」で、そのためガンダム史観的には、この両作品をもってひとつの時代（アクシズ戦役）として解釈している場合も多い。

そして「機動戦士ガンダム逆襲のシャア」は「ZZ」の放映終了の翌年1988年に公開された劇場作品で、物語の背景としては「Z」「ZZ」の存在を前提としたU.C.0093年を舞台としつつも、アムロとシャアの戦いに決着をつける物語として、ふたりに焦点を絞って構成されている。ただし「ZZ」のときに描かれたアムロとシャアの心情や関係が大きく関係しているため、実質的にはこれら3作品をあわせて、ひとつのガンダム世界を構築しているといえる。

これら3作品の人気は高く、そのノヴェライズも放映や劇場公開とほとんど同時先行する形で刊行された。特に「Z」は、あの「ガンダム」の続編がついに登場する、ということもあってノヴェライズの内容にも非常に注目された。もちろん内容的にも富野由悠季監督が自ら手掛けただけに興味深いものになっていて、基本的にはTVシリーズと同一の内容であるにもかかわらず、複雑な世界設定を持ち、登場キャラクターのメンタルな要素が大きな比重を占めるこの作品を見る上での、バイブル的な存在にまでなっていたといっても過言ではない。

続く「ZZ」だが、こちらもノヴェライズとしては「Z」と同様の形式を用い

ている。著者は「Z」で大好評を博した「シンデレラ・フォウ」「灼熱の脱出」を手掛けて以来、シナリオ陣の中心メンバーになり、「ZZ」では鈴木裕美子とで全話のシナリオを担当した遠藤明吾。人気を得たブルとブルツー、そしてハマーン・カーンの心情が全2巻の物語の中でつづさに描かれており、こちらも注目に値する内容になっている。

ちなみにこの両者のノヴェライズは当初は講談社から、現在は角川書店から刊行されている。

残りの「逆襲のシャア」の小説版（あえてノヴェライズとは呼ばない）だが、これについては角川書店版の「ベルトーチカ・チルドレン」の副題がついたものと、徳間書店版のアニメージュ誌上での連載時に「ハイ・ストリーマー」のタイトルが冠せられた全3巻のものの、ふたつが存在している。もちろん著者は、どちらも富野監督である。前者は「Z」のときにアムロと恋愛関係になったベルトーチカ・イルマが登場する物語で、アムロの死とともに彼女の胎内に宿った彼との間にできた子供の胎動を感じるという、象徴的なラストが描かれている。巻末の扉によれば、これは劇場版シナリオの第1稿をベースにして書いたもので、主人公のアムロが結婚（に近い状態）しているのは、エンターテインメント性を損なうため、採用されずに至ったとのこと。そのため著者自ら、この物語をモチーフ小説と呼んでいる。

一方、後者は長い物語の一部に「逆襲のシャア」のエピソードを組み込む形で綴られたもので、そのため当初の主人公はアムロではなく、カニガムという別の人物になっている。著者自身は、こちらを映像に即したノヴェルズとも呼んでいるが、別の人物から見た側面も語られている点が興味をそそらせる。

映像だけでなく活字の中での「ガンダム」。その魅力を味わっていただきたい。

## LASER DISC/VIDEO TAPE



劇場版「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」  
LD 5,831円(税別) BCL 378  
VIDEO 4,660円(税別) BCL 566

## NOVELS

「機動戦士Zガンダム」  
カミーユ・ビダン」  
富野由悠季 著／角川スニーカー  
文庫／全巻 本体540円(税別)



「機動戦士Zガンダム2  
アムロ・レイ」  
富野由悠季 著／角川スニーカー  
文庫／全巻 本体540円(税別)



「機動戦士Zガンダム3  
強化人間」  
富野由悠季 著／角川スニーカー  
文庫／全巻 本体660円(税別)



「機動戦士  
ガンダムZZ」  
富野由悠季 著／角川スニーカー  
文庫／全巻 本体540円(税別)



「機動戦士  
ガンダムZZ」  
遠藤明吾 著／角川スニーカー  
文庫／全巻 本体540円(税別)



「機動戦士Zガンダム4  
ザビ家再臨」  
富野由悠季 著／角川スニーカー  
文庫／全巻 本体540円(税別)



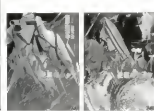
「機動戦士Zガンダム5  
戻るべき結」  
富野由悠季 著／角川スニーカー  
文庫／全巻 本体620円(税別)



「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア  
ベルトーチカ・チルドレン」  
富野由悠季 著／角川スニーカー 文庫  
全巻 本体620円(税別)



「機動戦士ガンダム逆襲のシャア」  
新編・中編・後編  
富野由悠季 著／アニメージュ文庫  
全巻 本体 各400円(税別)



# CD

## 機動戦士Zガンダム

### CD-SINGLE

OPテーマ	「Z・刻をこえて (ロング・バージョン)」 「水の星へ愛をこめて」	KICA-2104	900円(税別)
-------	-----------------------------------	-----------	----------

### CD-ALBUM

「機動戦士Zガンダム BGM COLLECTION VOL.1」	KICA-2017	1942円(税別)
「機動戦士Zガンダム BGM COLLECTION VOL.2」	KICA-2018	1942円(税別)
「機動戦士Zガンダム BGM COLLECTION VOL.3」	KICA-2020	1942円(税別)
「交響組曲Zガンダム」	KICA-2019	1942円(税別)
「機動戦士Zガンダム SPECIAL」	KICA-2043~2044	2813円(税別)
「デジタルトリップ 機動戦士Zガンダム シンセサイザー・ファンタジー」 発売 日本コロムビア	GDCC-11064	虎造

## 機動戦士ガンダムZZ

### SINGLE-CD

OP&EDテーマ	「サイレント・ヴォイス」 「一千万年凱歌」	KICA-2105	900円(税別)
----------	-----------------------	-----------	----------

### CD-ALBUM

「機動戦士ガンダムZZ SPECIAL」	KICA-2045~2048	2813円(税別)
「機動戦士ガンダムZZ BGM COLLECTION VOL.1」	KICA-2021	1942円(税別)
「機動戦士ガンダムZZ BGM COLLECTION VOL.2」	KICA-2022	1942円(税別)

## 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

### CD-SINGLE

主題歌	「BEYOND THE TIME」 発売 ソニー・ミュージック・エンターテインメント	10-B-H-3001	910円(税別)
-----	--	-------------	----------

### CD-ALBUM

「オリジナルサウンドトラック 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」 発売 ソニー・ミュージック・エンターテインメント	32-B-H-5003	2980円(税別)
--	-------------	-----------



# 「ガンダムシリーズ」誕生秘話 Z時代の「選択」

■井上伸一郎 Shig-ichirou Inoue

原として、ひとつの映像作品がたどる経緯は、人間ひとりとのそれとも似て、異質な偶然の積み重ねにより、大きな変遷を見せることがある。

たとえばファースト・ガンダムといわれる一番最初のTVシリーズ『機動戦士ガンダム』(1979-1980)では、全85話で予定されていたシリーズが、スポンサー事情で全43話に途中変更された。

本来のストーリーは、アムロたちが通称サイド6、月面のジオン基地を撤退したり、ジオン公国本土まで侵襲したりと、物語後半の宇宙戦部分をあくまで描いたエピソードの連続であった。

また、低予算という制約が、各話に新型のモビルスーツの投入ももたらされていた。(モノには有名な、ガッシャやアッグガイなどの幻のモビルスーツが、それに相当する)

果敢な勇者ならすぐに気づくように、ファースト・ガンダム前半のあのたみかけのようなエピソード——修練の連続——や、ニュータイプとして急成長を遂げたムアムロなどのは、打ち切りによって生じたシークエンスの断片の連続である。

間内ことには、同様の例(といっているのは、同じ監督高橋(真・由勝)の出世作『海獣トリトン』(1971~1972)や、『ガンダム』以前にアニメーションの要求を出した『宇留間道ママト』の最初のTVシリーズ(1976~1977)にも生じている。

TVシリーズというものは本来、視聴者のストレスを軽減するための、ストーリー上の「救済」が盛り込まれているものだが、こゝで製作された作品については、物語後半での到達したストーリー——整理という、明確な結末——にファンにはおもしろい切り口を生じたのだ。

以上3作がアニメファンにとって、今でも心に残る名作として知られているのは、こうした外因によるもの——もちろんそれが全てではない——が大きい。

ひとつのTVシリーズを断ちとってさえ、偶然の理由で作品が途中で大きく変わる。ましてや20年の歴史を積み重ねた『ガンダム』シリーズの歴史をや、である。

『ガンダム』シリーズの流れが大幅転換を招いたのが、今回このエピソードガイドVol.1で取り上げている『機動戦士ガンダム』(1985~1986)を境にしてからである。

そもそも『ガンダム』は、最初のTVシリーズ、そしてそのストーリーを基にして制作された劇場版3作(1981~1982)で一応の完結を見た。しかし低予算によるスポンサーの制約という種々のものと打ち切りとなったTVシリーズは、その後のファン、声の振り回りと、プラモデル・セールの成功によって、劇場版の制作という機会を得た。

劇場版では、TVシリーズのストーリーを発展的に整理するとともに、ファンたちがホワイトベースクルーの意思が通ずるものとイコールでないことが指摘され(カイの「ジオン軍を倒した後はどうする? 選択を仰ぐかい?」)の印象を残す。その後のストーリーのメインストリームとなっていく。

つづけるなら、ファースト・ガンダムのエピソードには、監督・高橋の自らが導いた小説版3傑作がこれと並行して発表されている。

TV版、劇場版、小説版ともにストーリーベースを基にしながら、発表順

体に合わせた独自の修正が加えられているのは、偶然の通りである。

興野監督としては、この流れをもって『ガンダム』を完結させるつもりでいた。しかし、『ガンダム』のおまりに大成功を収めたのは、興野各社をして前編の原作を望んだ。

ファンレベルでいえば、劇場版の最終エピソード『新たなる宇宙』(1982)の公開後が、そうした集約のピークであった。

しかし、一方で『ガンダム』の制作者たちは、当該版として描かれていた『宇宙戦艦ヤマト』シリーズが、絶頂に達した後に、ファンの希望を覆っていた事実を見て、憤慨にならざるを得なかった。

『ヤマト』シリーズの失敗は、新作を作ること(これ、興野の作品)という注文でファンを刺激し、それを逆としになった当時のファン層の反応を望んだ。

『ガンダム』が劇場版の時に描き切れたのは、制作陣において、こうしたプラモデルがなかったこと、興野は、ファーストのアムロ・レイの死を「歴史的な出来事」として描いたことに対し、興野は歴史の延長線上と見なし、アムロを復活させ、ファースト以上に抵抗して、興野は別の「パレルムストーリー」——ディラン・ガッシャ——とした(描かれてはいるが、興野では考えられない)。そして、ファーストの「ヤマト」で描かれた「ヤマト」の死を「歴史的な出来事」として、『ガンダム』のファンに対しては、歴史の延長線上と見なし、アムロを復活させ、ファースト以上に抵抗して、興野は別の「パレルムストーリー」——ディラン・ガッシャ——とした(描かれてはいるが、興野では考えられない)。そして、ファーストの「ヤマト」で描かれた「ヤマト」の死を「歴史的な出来事」として、『ガンダム』のファンに対しては、歴史の延長線上と見なし、アムロを復活させ、ファースト以上に抵抗して、興野は別の「パレルムストーリー」——ディラン・ガッシャ——とした(描かれてはいるが、興野では考えられない)。

しかし1985年『ガンダム』以来、歴史的に大きなヒットになったサンライズ・ガンダムの『ガンダム』シリーズは、消え持った。その新作に描かれたのは、ファーストの死を「歴史的な出来事」として、『ガンダム』のファンに対しては、歴史の延長線上と見なし、アムロを復活させ、ファースト以上に抵抗して、興野は別の「パレルムストーリー」——ディラン・ガッシャ——とした(描かれてはいるが、興野では考えられない)。

興野は、『ガンダム』と『ガンダム』の興野制作は一作でも、その死はすばなく、ファーストの死を「歴史的な出来事」として、『ガンダム』のファンに対しては、歴史の延長線上と見なし、アムロを復活させ、ファースト以上に抵抗して、興野は別の「パレルムストーリー」——ディラン・ガッシャ——とした(描かれてはいるが、興野では考えられない)。

そして、今回まで『ガンダム』の正史、歴史的な出来事、そして描かれたのは、ファーストの死を「歴史的な出来事」として、『ガンダム』のファンに対しては、歴史の延長線上と見なし、アムロを復活させ、ファースト以上に抵抗して、興野は別の「パレルムストーリー」——ディラン・ガッシャ——とした(描かれてはいるが、興野では考えられない)。

もちろんファースト・ガンダムの時代にも、プラモデル・セールの成功を導いたオリジナルストーリーや『プラモ狂想曲』の成功が興野の成功を導いた。その成功は存在した。

しかしそれはあくまでファースト・ガンダムの成功がファーストの成功を導いた。その成功は存在した。

『Z』時代になって初めて、ファースト・ガンダムは完全にファーストの成功を導いた。その成功は存在した。

ファーストは完全にファーストの成功を導いた。その成功は存在した。

一方、『Z』のそれは、ファーストの成功を導いた。その成功は存在した。

興野は、『Z』のそれは、ファーストの成功を導いた。その成功は存在した。

どれとどれを売ったのだった。業界としては全く別業を営む者としていたにもかかわらず、その関係が思い通りにファンに伝わらなかったため、ファースト世代には「Z」に対する距離感が無い、一方で最も、ファースト・ガンダムより「Z」を「認めてのガンダム」とする新しいファン世代をつくり出してゆく、7年という時間差のプランクが成せる技である。自分たちのガンダム」を求めていたファースト世代の離世代のニーズにぴったりと合致したシリーズでもあった。

ファースト世代が地盤盤を示したカミュー・ビダンというエキセントリックな主人公、パノニア的なロマンの描写は、'85年の時点で注目を集めさせたものの、そうした芸術性その後の日本社会で大々的にしまったのは、やはり国際的な売上の明、という、一種独特の個性が世をキャラクタ作りが出来る。

また、前年の「Z」は、ストレス満ちた「Z」とは正反対のアプローチを行ったため、「ガンダム」のストーリーラインは書く書くほど多様になり、書く書くほどなるほど面白くなった。

いずかにしろ。「『機動戦艦から、機動兵器はオリジナルモビルスーツや、それを  
中心に組んだ隊伍作りにやっさになったし。大河原邦男デザインを中心とした  
モビルスーク・デザインの世界に、福田一久、永泉隆、明廣誠樹、小林道  
孝』」と、このデザイナー層が参入。キャラクター・デザインも「**高橋良輔**  
**（『ファースト・ガンダム世代』の北爪研幸が子役）**」「**山口勇二**」なども  
出てきた。こうして、『ガンダム世界』の多様性が確立されたのが、この時だ。

のクール・ブル・イメージの中間を成す、モビルスーツをはじめ  
ニカル・デザイン

においては、若手の個団一己が、大河劇のラインをよりハードに、真  
 るさく「ブレイク」してみせた。月X-7Bをベースに進化したMK-IIや、  
 先駆的の「メカデザイン」などは、メカデザインの新しい世界を開いて  
 ある。

藤田中雄が「オタク」に愛された名曲が手に入るのは、ミュージック・ペレイなどの、シブいサウンドと、よくもミュージック・ペレイの原曲であるザクをモチーフに、オタクなデフォルメを加えたいのだからだ。

その水野が「Z」に就き「Z」のイメージデザイナーとして起用されようとした。彼が所属したモデルスーツの制作の期間のムードに合わせた「〜4 月号のコミカル(?)なデザインだった。雑誌の雰囲気で制作することになった。もし、水野のデザインラインのままで「Z」がオープンされていたら、雑誌のイメージは明らかにがわっていた。もちろん、スタンディシアスに」のは

「Z」から「ZZ」へ内部面での方向転換がいまひとつ、遅かったのは、そして戦後半のシリアス路線への方向転換は、すでに前編ラスト巻から露骨づけられていたのかもしれない。

モリス・ペーターによるデザイン競争は、シド・ロードの手によるVガンダムの黒面が記憶に新しい。黒面劇の「Z」のモリスVガンダムを見る機会が半園にも事あれば——恐らく一定印刷されるだろうが「スワッチ」ごときでは、R-X7Bのマイナーチェンジだ」という監督が自分の価値をよめるだろうことは間違いない。(もちろん、多摩美術大学の内では、キュー・アイも多摩美術大学・ハンマも同じデザインラインに置かれるのだろう)

スに、カツがハサウエイになっていると思えば分かりやすい。ここでも「もし〜」が通用するなら、映画版で盗かれたものよりさらに劣化した盗版版の「盗版のシャア」は、角川スニーカー文庫に収められた「ヘルローザ! テルドレント」に行きつくだろう。

アムロのヒーロー性を強調せざるを得なかったために胸の傷を見ることがな  
 かったストーリー——『Z』に出てきた女性キャラクター、ベルトーチがアム  
 ロの子供を妊娠しているというエピソード——を踏むことができた。また

もしこのバージョンが正式に劇場版のストーリーとして採録されていたならば、それ以後作られた劇場としての正史は、簡単に変更をばげていたはずだ。

またモデルスーツについても、この作品は当然、「ZZ」で同じく「Z」をモチーフにしたデザインが採用されている。また、この作品は当然、「ZZ」で同じく「Z」をモチーフにしたデザインが採用されている。また、この作品は当然、「ZZ」で同じく「Z」をモチーフにしたデザインが採用されている。

この時点でH-18が採用されていたれば、その後のガンダムデザインもかなり自由度が増していたことだろう。わざわざシド・ミードにYを盗いてもらった、ガンダムの既成概念を覆す必要もなかったかもしれない。

タイプの内蔵的な特徴として、トラディショナルなガンダムタイプのひとつの要素を挙げた。

この観点で、バンダイを主眼とした『ガンダム』制作陣は、アニメ・ホビーファンを母体とした「娯楽」なビジネスを選択したのだった。

「Z」から「逆シャア」までの3年間に、様々な驚きの出来事があった。  
(もちろんここに記したエピソードなどは氷山の一角にすぎない)

この機「ガンダム」をのぐる状況は一層冷えた感、低年齢層をメインターゲットにした「Sロガンダム」のブームなど、メインストリーム以外のムーブメントも生まれ、その作品生命は短切れることはなく異なりである。

「Z」時代の開拓の熱々こそが、その後の十数年において、ガンダムがアニメの、そしてホビー界のスタンダードたりうる間となった時期であることを、歴史研究には無視できない。

※1 ガンダムとジオン軍の激しい戦いの中でガンダムと対決する予定だったMS。「山賊号ハンマー」という名前を使う

●2 アッグガイ=巨大な監視塔のモニターが特撮的な3人組のMAG「ダブルビートロッド」という武器を使う

●3. MGTV=モビルスーツ・パリエーションの輪。ファースト・ガンダムの終了後、一年戦争の戦後や再臨したモビルスーツとして、映像メディアに数回登場したガン・プラシリーズ

●4 ブラモは昭和8年より『コミックボンボン』（集英社）誌上にて連載開始された漫画。改題したプラモに草子も版権空費で戦うといったシチュエーションと、濃いプラモ色が、当時の少年

◎ 大友柳太朗に代表作『科学忍者隊ガッチャマン』、『タイムボカン』シリーズ、『装甲騎兵ボトムズ』。

小嶋陽菜、2011年「はろー!」でメカデザイナーデビュー。最新作は「勇者王ガオガイガー」

最新作「おどろおどろおどろ」

※9 小村誠＝ズアガンダムシリーズのデザイナー、代表作「ガンダム」シリーズ、「ガンダム」シリーズのデザイナー

●10 出陣巻=代読作「戦国界ガリアン」「ガザラキ」。「ルーシマスカ」製作、「ロードス島物語」イラスト

■11 北川隆幸＝代表作『モル・ダイバー』『バーজন・フリート』など

# Mobile Suit Gundam Filmography

## 機動戦士Zガンダム (TVシリーズ・全50話)

NO	サブタイトル	脚本	ストーリーボード	演出	作画監督	放映日
1	黒いガンダム	大野木寛 岸谷健	今川泰宏 岸谷健	今川泰宏	北爪宏幸	85年3/2
2	戦立ち	鈴木裕美子 岸谷健	滝沢敏文	関田修	小林利充	3/9
3	カプセルの中	川崎和子 岸谷健	横山広行	横山広行	長瀬敏	3/16
4	エマの脱走	丸尾みほ 岸谷健	川瀬敏文	川瀬敏文	山田ささらか	3/23
5	父と子と	大野木寛 岸谷健	杉島邦久	杉島邦久	金山明博	3/30
6	地球圏へ	鈴木裕美子 岸谷健	井内秀治	関田修	北爪宏幸	4/6
7	サイド1の脱出	丸尾みほ 岸谷健	松敢聖司	横山広行	小林利充	4/13
8	月の黒潮	大野木寛 岸谷健	川瀬敏文	川瀬敏文	長瀬敏	4/20
9	新しい母	丸尾みほ 岸谷健	杉島邦久	杉島邦久	山田ささらか	4/27
10	再会	大野木寛 岸谷健	今川泰宏	関田修	金山明博	5/4
11	大気圏突入	鈴木裕美子 岸谷健	瀧野哲郎	横山広行	北爪宏幸	5/11
12	シャローの星	平野靖士 岸谷健	松敢聖司 岸谷健	川瀬敏文	小林利充	5/25
13	シャトル帰還	大野木寛 岸谷健	杉島邦久 岸谷健	杉島邦久	山田ささらか	6/1
14	アムロ再び	鈴木裕美子 岸谷健	今川泰宏	今川泰宏	金山明博	6/8
15	カッツの出現	丸尾みほ 岸谷健	横山広行	関田修	北爪宏幸	6/15
16	白い星を渡って	鈴木裕美子 岸谷健	本橋重王 岸谷健	本橋重王	小林利充	6/22
17	ボンコン・シティ	遠藤明浩	川瀬敏文	川瀬敏文	山田ささらか	6/29
18	とらわれたミライ	鈴木裕美子 岸谷健	杉島邦久 横山広行	横山広行	金山明博	7/6
19	サンデラ・フォウ	遠藤明浩	轟一孝	平林淳	北爪宏幸	7/13
20	約束の脱出	遠藤明浩	関田修	関田修	小林利充	7/20
21	ゼータの暴動	大野木寛 岸谷健	本橋重王 岸谷健	本橋重王	山田ささらか	7/27
22	シロツクの罠	丸尾みほ 岸谷健	川瀬敏文	川瀬敏文	金山明博	8/3
23	ムーン・アタック	鈴木裕美子 岸谷健	杉島邦久	杉島邦久	北爪宏幸	8/10
24	反撃	遠藤明浩	横山広行	関田修	小林利充 相田裕	8/17
25	コロニーが落ちる日	鈴木裕美子 岸谷健	岸谷健	平林淳	山田ささらか	8/24
26	ジオンの亡霊	遠藤明浩	井内秀治	本橋重王	北爪宏幸	8/31
27	シャアの帰還	鈴木裕美子 岸谷健	川瀬敏文	川瀬敏文	金山明博	9/7
28	ジュビリス暴入	遠藤明浩	轟一孝	関田修	小林利充	9/14
29	サイド2の危機	鈴木裕美子	世良純男 杉島邦久	杉島邦久	大森秀敏	9/21
30	ジェド特攻	遠藤明浩	横山広行	平林淳	山田ささらか	9/28
31	ハーデューン・ラブ	鈴木裕美子 岸谷健	轟一孝 岸谷健	轰方仁	瀧尾敏博	10/5
32	涙のモビルスーツ	遠藤明浩	井内秀治	本橋重王	金山明博	10/12
33	アクシスからの使者	遠藤明浩	轟一孝	関田修	小林利充	10/19
34	宇宙が呼ぶ声	鈴木裕美子	川瀬敏文	川瀬敏文	山田ささらか	10/26
35	ネリマンジャロの嵐	鈴木裕美子	轟一孝	平林淳	瀧尾敏博	11/2
36	永遠のフォウ	遠藤明浩	杉島邦久	杉島邦久	北爪宏幸	11/9



NO	サブタイトル	脚本	ストーリーボード	演出	作画監督	放映日
37	ダークルの日	鈴木光美子	横山広行	横山広行	金山明博	11/18
38	レオアの気配	遠藤明吾	世良祐男 / 岸谷祐	関田修	小林利茂	11/20
39	春時	鈴木光美子	川瀬敏文	川瀬敏文	山田ささるか	11/30
40	グリップス起動	遠藤明吾	森一浩 / 岸谷祐	平林淳	寺東克己	12/7
41	日曜め	鈴木光美子	杉島邦久	杉島邦久	瀬尾康博	12/14
42	さよならロザミア	遠藤明吾	横山広行	横山広行	栗田尚之	12/21
43	ハマーンの楽園	遠藤明吾	世良祐男	関田修	金山明博	12/28
44	セダンの門	鈴木光美子	川瀬敏文	川瀬敏文	小林利茂	86年1/11
45	天から来るもの	遠藤明吾	森一浩	平林淳	山田ささるか	1/18
46	シロツク立つ	鈴木光美子	川瀬敏文 / 杉島邦久	杉島邦久	瀬尾康博	1/25
47	半空の鳥	遠藤明吾	横山広行	横山広行	栗田尚之	2/1
48	ロザミアの中で	鈴木光美子	滝沢敬文	関田修	金山明博	2/8
49	生き残って	遠藤明吾	世良祐男	平林淳	教島博弘	2/15
50	半空を駆けろ	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	小林利茂	2/22

## 制作スタッフ

[illegible]

声の出演

[illegible]

# 機動戦士ガンダムZZ (TVシリーズ・全47話)

NO	サブタイトル	脚本	ストーリーボード	演出	作画監督	放映日
1	プレリュードZZ	(構成 寺沢賢、南田肇)			(絵巻編)	86年3/1
2	シャングリラの少年	鈴木祐美子	滝沢敏文 岸谷健	杉島邦久	北爪宏幸	3/8
3	エントラの戦士	遠藤明吾	杉島邦久 横山広行	横山広行	山田さくら	3/15
4	熱海のマシュマー	鈴木祐美子	森一恵 岸谷健	関田将	金山明博	3/22
5	ジューの決意	遠藤明吾	滝沢敏文 笠原邦男 岸谷健	平林孝	恵田尚之	3/29
6	ズラの脅威	鈴木祐美子	川瀬敏文	川瀬敏文	殿島博英	4/5
7	カサの嵐	遠藤明吾	杉島邦久 岸谷健	杉島邦久	小林利晃	4/12
8	断崖の鐘は二度鳴る	鈴木祐美子	横山広行	横山広行	神村幸子	4/19
9	手錠のシュート	遠藤明吾	笠原邦男 岸谷健	関田将	山田さくら	4/26
10	さよならファ	鈴木祐美子	森一恵 岸谷健	平林孝	金山明博	5/3
11	起動! ダブル・セータ	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	恵田尚之	5/10
12	リィナが月を見た	鈴木祐美子	杉島邦久	杉島邦久	小林利晃	5/24
13	鼓よ!	遠藤明吾	横山広行	横山広行	神村幸子	5/31
14	幻のコロニー(前)	鈴木祐美子	笠原邦男 岸谷健	平林孝	山田さくら	6/7
15	幻のコロニー(後)	鈴木祐美子	森一恵 岸谷健	関田将	金山明博	6/14
16	アーガマの白兵戦	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	恵田尚之	6/21
17	青いコアトップ	遠藤明吾	滝沢敏文 岸谷健	杉島邦久	殿島博英	6/28
18	ハマーンの真い影	遠藤明吾	横山広行 杉島邦久	横山広行	神村幸子	7/5
19	ブルとアクセスと	遠藤明吾	森松道司 岸谷健	平林孝	山田さくら	7/12
20	泣き金セシリア(前)	鈴木祐美子	関田将 岸谷健	関田将	金山明博	7/19
21	泣き金セシリア(後)	鈴木祐美子	谷田部勝義 滝沢敏文 岸谷健	川瀬敏文	恵田尚之	7/26
22	シュート、出撃!!	遠藤明吾	川瀬敏文	杉島邦久	小林利晃	8/2
23	燃える地球	遠藤明吾	横山広行	横山広行	殿島博英	8/9
24	南海に取く兄妹愛	鈴木祐美子	高松道司 岸谷健	高松道司	神村幸子	8/16
25	コンセルの機	遠藤明吾	森一恵 岸谷健	関田将	山田さくら	8/23
26	マサイの心	鈴木祐美子	川瀬敏文 高松道司 岸谷健	川瀬敏文	恵田尚之	8/30
27	リィナの血(前)	遠藤明吾	杉島邦久	杉島邦久	金山明博	9/6
28	リィナの血(後)	遠藤明吾	滝沢敏文	江上崇	小林利晃	9/13
29	ルーの逃亡	関田将	横山広行	横山広行	神村幸子	9/20
30	青の部隊(前)	鈴木祐美子	川瀬敏文 高松道司	高松道司	山田さくら	9/27
31	青の部隊(後)	関田将	谷田部勝義	関田将	恵田尚之	10/4
32	星の旗をこえて	遠藤明吾	杉島邦久	杉島邦久	北爪宏幸	10/11
33	ダブルの午後	鈴木祐美子	今西竜志 岸谷健	今西竜志	金山明博	10/18
34	カミーユの声	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	小林利晃	10/25
35	落ちた空	鈴木祐美子	横山広行	横山広行	神村幸子	10/31
36	重力下のブルシー	関田将	高松道司 岸谷健	高松道司	恵田尚之	11/8
37	ネオレ・アーガマ	遠藤明吾	滝沢敏文 岸谷健	江上崇	山田さくら	11/15

NO	サブタイトル	脚本	ストーリーボード	演出	作画監督	放映日
38	送葬。ジャムル・フィン	鈴木裕美子	杉島邦久	坂田修	金山明博	11/22
39	サラサ再臨	鎌田秀美	今西隆志 / 岸谷健	今西隆志	小林利夫	11/29
40	タイガーバウムの夢	鈴木裕美子	川瀬敏文	川瀬敏文	神村幸子	12/6
41	ララの命	渡藤明高	高杉敏文	杉島邦久	小曾根正美 / 山下明彦	12/13
42	コア3の少女(前)	鈴木裕美子	堀山広行	堀山広行	山田ささるか	12/20
43	コア3の少女(後)	渡藤明高	高松信司 / 岸谷健	高松信司	金山明博	12/27
44	エミリア敵軍	鈴木裕美子 / 岸谷健	杉島邦久 / 岸谷健	江上潔	小林利夫	'87年1/10
45	アクシスの戦艦	鎌田秀美	滝沢敏文	岡田所	神村幸子	1/17
46	バイブレーション	渡藤明高	川瀬敏文	川瀬敏文	内田順久	1/24
47	戦士 再び	渡藤明高 / 岸谷健	杉島邦久 / 岸谷健	杉島邦久	北爪宏幸	1/31

## 制作スタッフ

企画	日本テレビ	企画	森永重雄 小田中 白根賢二	吉田忠 野田高梧 大沼啓	制作進行	津波浩二 杉浦誠 横田浩二	
演出	久保幸	演出監修	松岡昌弘 小野田浩 小竹繁子	内藤孝 吉田忠 大竹繁子	人物監	小堀誠 杉浦誠 横田浩二	
脚本	宮野山雄平	脚本協力	藤野野矢 小堀誠 藤野野矢	吉田忠 野田高梧 山田孝	美術監	森本真司 渡辺孝	
音楽	ユウ・ヤマダ・ササキ	音楽協力	無田文彦 長瀬弘 長瀬弘	音響監	長瀬弘 杉浦誠 横田浩二	美術協力	長瀬弘 杉浦誠 横田浩二
衣裳	たけのこデザイン	衣裳協力	藤本孝 堀江正 堀江正	内藤孝 吉田忠 大竹繁子	美術協力	長瀬弘 杉浦誠 横田浩二	
メイク	たけのこデザイン	メイク協力	堀江正 堀江正 堀江正	吉田忠 野田高梧 山田孝	美術協力	長瀬弘 杉浦誠 横田浩二	
編集	タカシマ	編集協力	小野田浩 小野田浩 小野田浩	吉田忠 野田高梧 山田孝	美術協力	長瀬弘 杉浦誠 横田浩二	
効果	タカシマ	効果協力	小野田浩 小野田浩 小野田浩	吉田忠 野田高梧 山田孝	美術協力	長瀬弘 杉浦誠 横田浩二	
プロデューサー	神谷信 堀江正 堀江正	プロデューサー	神谷信 堀江正 堀江正	吉田忠 野田高梧 山田孝	美術協力	長瀬弘 杉浦誠 横田浩二	
制作	日本テレビ	制作	日本テレビ	吉田忠 野田高梧 山田孝	美術協力	長瀬弘 杉浦誠 横田浩二	

声の出演

[illegible]

本誌創刊以来:1956年3月1日—1987年4月30日終了



# INDEX

## CHARACTERS

< 森 >			
森の部屋	58	サラ・ザビアロフ	42, 101
アジス・アジバ	106	サラサ・ムーン	57, 116
アストナージ	33	ジェリド・メサ	37, 64
アデナウアー・天童	140	ジオン機堂	57
アドル・セノ	101	シャア・アズナブル	73, 139
アボリー	85	ジャマイカン・ダニンガン	36
アマサ・ボーラ	122	ジャミトフ・ハイマン	34
アムロ・レイ	32, 70, 88, 138	ジュード・アーシタ	50, 108, 112, 121, 126, 131
アリアス・モマ	124	ジュネ・コク	123
アンナ	116	シンタ	101
イーノ・アップーブ	52, 108, 121, 126, 131	スタンバ・ハロイ	127
イリヤ・バゾム	61, 124	スタンバの部下たち	127
ウォン・リー	38, 90	ステファニー・ルオ	95
エマ・シェン	31, 84	スペースウルフ・チーム	129
エマリー・オンス	56, 116	スリーディー	126
エル・ビアンノ	52, 108, 121, 131	セイラ・マス	63, 106, 124, 131
エルビーブル	60, 118, 123, 124	セシリア	120
エロ・メロエ	123		
オウギスト・ギダン	123	< 食 >	
オクトバー・サラン	141	タイガーバウムの子供たち	126
		ダナ・キラ	124
		ダングル	101
		デューミン・ノア	94, 140
		チェーン・アギ	71, 138
		デイドー・カルトバ	58, 123
		トーレス	33
< 機 >		< 軍 >	
カイザス	141	ナナイ・ミゲル	73, 140
カイ・シデン	38, 90	ナミカー・コーネル	85
カクリコン・カクーラー	36, 88	ニー・ギーレン	128
ガザの艦隊	111	ニキ	122
カツ・コバヤシ	31, 94		
ガデフ・ヤシシ	58, 123	< 録 >	
カミーユ・ビダノ	28, 53, 84	ハサウェイ・ノア	74, 94, 138
カムラン・ブルーム	140	バスク・オム	34, 68
カラハン	122	バプテマス・シロッコ	43, 90
キケロの労働者たち	128	ハマーン・カーン	41, 62, 100, 113, 119, 123, 126, 130
キッカ・コバヤシ	94	ハヤト・コバヤシ	32, 94
キラ・スーン	54, 113, 116, 128	ハロ	91, 138
ギュネイ・ガス	75, 139	ピーチャ・オレグ	52, 108, 121, 131
クス・バライ	74, 139	ビダン夫妻	85
クム	101	フアの母	85
クラップ艦長	141	ファ・ユイリ	31, 53, 84, 101, 124
クリス・ターナ	141	フォム・ムラサメ	41, 96, 106
グレイミー・ト	59, 113, 118	ブライト・ノア	31, 53, 71, 88, 140
クワトロ・バジーナ	29, 84	フラウ・コバヤシ	94
ゲーツ・キャバ	106	ブラン・フルターク	38, 66
ケーラ・スウ	71, 140	ブレックス・フォーラ	33, 68
ゲモン・バジヤック	55, 109		
ゴットン・ゴー	54, 111		
< 音 >			
サトウ隊長	126		

ブルター	60, 124
ベルトル・チカ・イルマ	32, 96
ベン・ウッダー	96
ヘンケン・ベッケナー	33, 88
ホルスト	141

<書>	
マウアー・フアラオ	37, 96
マギー	120
マサイ・ソガバ	122
マシュマー・セロ	54, 110, 124
マトッシュ	86
ミネバ・ザビ	40, 63, 100, 123
ミライ・ゾア(ヤシマ)	94, 140
ミリィ・チルター	56, 116
ムサカ艦長	141
メズーン・メックス	86
メッチャー・ムチャ	116
メラニー・ヒュー・カーバイン	101
モンディ・アガタ	62, 108, 121, 131

<機>	
ヤザン・ダール	38, 54, 100, 109

<器>	
ライラ・ミラ・ライラ	38, 89
ライル	72, 141
ラカン・ダカラシ	58, 120, ライラ・ミラ・ライラ
ラザラム・ムン	57, 116
ラムサス	101
ラファ・スン	141
ランス・ケーレン	128
リナー・アーンタ	60, 108, 116, 118, 124, 131
ルー・ルカ	63, 112, 121, 131
ルチーナ	128
レコア・ロンド	42, 86, 106
レズン・シュナイダー	75, 140
レウ・コバヤシ	94
連邦ネオ・ジオンの高官たち	141
ロイ	128
ロオル	116
ローレン・ナカモト	108
ロザミア・バダム	40, 86, 106
ロベルト	86
ロンメル	57, 122

## MECHANICS、HAPPENINGS, etc.

<高>	
アーガガ(エコーゴ強襲用宇宙艦)	31, 82
R-ジャジャ(AMX-104ネオ・ジオン軍MS)	54, 112, 113
アイザック(ネオ・ジオン軍MS)	58, 122
アイリッシュ線(エコーゴ宇宙戦艦)	33, 87
アウドムラ(カラバ巨大陸送機)	96
アックガイ(MSM-04N)	127
アッシュマー(NRX-044ティターンズ可変MS)	38, 92
α-アジール(NZ-333ネオ・ジオン軍MA)	74, 134
アレキサンディア(ティターンズ宇宙巡洋艦)	35, 87
ウェーブライダー	28, 98
MSV	83
HLV	97
エンドラ(ネオ・ジオン軍宇宙巡洋艦)	54, 110
オブチカ	97
<機>	
陸れバレイバック(RMS-106CSティターンズMS)	339, 105
ガザC(AMX-003アックス可変MS)	41, 100
ガザD(AMX-006ネオ・ジオン軍可変MS)	63, 111
ガスアル(AMX-117Rネオ・ジオン軍MS)	61, 127
ガスエル(AMX-117Lネオ・ジオン軍MS)	61, 127
ガ・ソウム(AMX-008ネオ・ジオン軍MS)	63, 118
カプール(AMX-109ネオ・ジオン軍可変MS)	58, 120
ガブスレイ(RX-100ティターンズ可変MS)	36, 98
ガルスJ(AMX-101ネオ・ジオン軍MS)	54, 110
ガリバルディβ(RMS-117ティターンズMS)	38, 86
ガンダムチーム(RX-178, MSN-100, MSZ-006, MSZ-010エターゴMS)	62
ガンダムMK-II(RX-178ティターンズ、エターゴMS)	28, 34, 82
軍装ランチ	137
ギャプラン(ORX-006ティターンズ可変MS)	37, 92
キャスク	117
キューベレイ(AMX-004アックス、ネオ・ジオン軍MS)	41, 62, 104
キューベレイMK-II(AMX-004-2ネオ・ジオン軍MS)	60, 118
強化メガ・ランチャー	103
ギラード・ガ(ネオ・ジオン軍MS)	72, 75, 135
クイン・マンサ(NZ-000ネオ・ジオン軍MS)	61, 130
クランプ線(地球連邦宇宙艦)	71, 136
グワタン(アックス大型宇宙艦)	40, 102
グワンパン(アックス宇宙戦艦)	41, 107
ゲーマルク(AMX-015ネオ・ジオン軍MS)	61, 128
ゲゼ	56, 109
ゲター	102
ゲルダグ・レプリカ(エコーゴMS)	98
コア・ファイター	60, 114
コア・トッパ	61, 115
コア・ベース	50, 115

# MECHANICS、HAPPENINGS,etc.

<セ>			
サイコ・ガンダム (MRX-009ティターンズ可変MA)	41, 92	ハイザック (RMS-106ティターンズMS)	35, 83
サイコ・ガンダム Mk-II (MRX-010ティターンズ可変MA)	40, 60, 104	バウ (AMX-107ネオ・ジオン軍可変MS)	59, 117
ザクⅡ (AMX-110ネオ・ジオン軍MS)	62, 125	バウ・アタッカー	117
ザクⅡ改 (AMX-110Sネオ・ジオン軍MS)	60, 126	バウ・サッター	117
ザク・マリナー (RMS-129Mネオ・ジオン軍MS)	120	バウンド・ドッグ (NRX-055ティターンズMS)	37, 106
ザザビー (MSN-04ネオ・ジオン軍MS)	73, 134	バラス・アテナ (PMX-001ティターンズMS)	42, 100
サダローン (ネオ・ジオン軍大型宇宙戦艦)	62, 119	ハンブラビ (RX-139ティターンズ可変MS)	39, 99
サラミス改Ⅲ (ティターンズ、エゥーゴ宇宙巡洋艦)	35, 87	ハンマ・ハンマ (AMX-103ネオ・ジオン軍MS)	55, 112
Gディフェンダー	30, 98	百式 (MSN-100エゥーゴMS)	29, 86
Gフォートレス	51, 115	ブチ・モビルスーツ	109
Gフライヤー	30	ブチ・モビルスーツ ズック	137
ジェガン (RGM-89地球連邦軍MS)	71, 133	ブライニング・アーマー	90
ジ・オ (PMX-003ティターンズMS)	43, 104	フルアーマーZZガンダム (MSZ-010エゥーゴ可変MS)	50, 130
ジムⅡ (RGM-79Rエゥーゴ、RMS-179ティターンズMS)	32	ベース・シャパー	71, 87, 137
ジムⅢ (RGM-86RエゥーゴMS)	56, 122	ホビー・ハイザック	137
シャクルス	72, 137	ポリノーク・サマー (PMX-002ティターンズMS)	42, 105
シャトル天鷹	137	<ま>	
シャトル用ブースター	87	マラサイ (RMS-108ティターンズMS)	36, 86
ジャムル・フロン (AMA-01ネオ・ジオン軍可変MA)	63, 126	ミトリル・モビルスーツ	109
ジュニア・モビルスーツ	85, 91	ムサカ編 (ネオ・ジオン軍宇宙巡洋艦)	72, 136
ジュウラム・ティアス (ネオ・ジオン軍MS)	126	メガ・バスター・ランチャー	91
ジュビリス (ティターンズ超巨大戦艦)	43, 102	メガ・ライダー (FXA-06RエゥーゴMS支援兵器)	53, 118
スーパースター	103	メタス (MSA-005エゥーゴ可変MS)	31, 98
スーパースター (RX-178+FXA-05DエゥーゴMS)	30, 98	メッサーラ (PMX-000ティターンズ可変MA)	43, 87
スズ (AMX-102ネオ・ジオン軍可変MS)	55, 110	モビルボット・メッド	137
ZZガンダム (MSZ-006エゥーゴ可変MS)	28, 98	<や>	
ゾゴック (MSM-07)	127	ヤクト・ドーガ (MSN-03ネオ・ジオン軍MS)	75, 135
<た>		<ふ>	
ZZガンダム (MSZ-010エゥーゴ可変MS)	51, 114, 115	ラー・カイラム (地球連邦軍大型宇宙戦艦)	71, 136
ディザート・ザク (MS-06Qネオ・ジオン軍MS)	57, 122	ラビアンローズ (エゥーゴドッグ艦)	58
ディンジェ (MSK-008カラバMS)	32, 104	リ・ガズィ (RGZ-91地球連邦軍MS)	71, 133
テンプレーション	86	リゲルグ (MS-014Aネオ・ジオン軍MS)	61, 125
ドーベン・ウルフ (AMX-014ネオ・ジオン軍MS)	59, 129	リック・ティアス (RMS-099エゥーゴMS)	29, 31, 83
ドゴス・ギア (ティターンズ大型宇宙戦艦)	43, 102	軍型キュベレイ (AMX-004Gネオ・ジオン軍MS)	62, 130
ドダイ改	87	レウルーラ (ネオ・ジオン軍宇宙戦艦)	73, 136
ドレイセン (AMX-009ネオ・ジオン軍MS)	59, 120	ロンバルディア (ティターンズ宇宙戦艦)	107
ドワッジ (MS-09Gネオ・ジオン軍MS)	57, 122	<は>	
ドワッジ (コンメル用) (MS-09Hネオ・ジオン軍MS)	57, 122	バーザム (RMS-154ティターンズMS)	35, 106
<な>		バリエラン (RX-160ティターンズMS)	37, 105
vガンダム (RX-93地球連邦軍MS)	70, 132	<ほ>	
ネル・アーガマ (エゥーゴ新造戦艦)	53, 125	バーザム (RMS-154ティターンズMS)	35, 106
ネモ (MSA-003エゥーゴMS)	33, 86	バリエラン (RX-160ティターンズMS)	37, 105





**Grips Conflict and Neo Zeon War I,II** **UG**0087-0093

**UC**  
0087-0093

# GUNDAM





# GUNDAM

## EPISODE GUIDE



Erms Conflict and Neo Zeon War I, II



# GUNDAM

Grps Conflict and Neo Zeon War I,II

CC 0087-0093

ISBN4-04-853070-4 C0076 ¥1600E

●定価:本体1600円(税別)角川書店



9784048530705



1920076016004

**GOVERNANCE**